

近中四農研年報
Ann. Rep. West. Reg.
Agric. Res. Cent.

近畿中国四国農業研究センター

年報

平成 26 年度

Annual Report of
Western Region Agricultural
Research Center

2014



NARO

農研機構

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

近畿中国四国農業研究センター

近畿中国四国農業研究センター年報

平成 26 年度

目 次

I	主な動向と経過	1
1.	近農研を巡る情勢	1
2.	運営に関する主な動向	2
3.	研究成果の普及	3
II	組織の概要	5
III	研究の実施状況	7
IV	平成 26 年度研究予算課題一覧	18
V	研究情報活動	30
1.	主な研究成果	30
2.	研究成果の発表	31
1)	著書	31
2)	原著論文等	32
3)	学会発表等	36
4)	その他	44
3.	知的財産権	56
1)	産業財産権の登録および出願	56
2)	新品種の登録および出願	57
4.	広報活動	58
1)	記者発表（資料配付含む）	58
2)	近畿中国四国農業研究センター刊行物（会議資料等除く）	58
3)	一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催	59
4)	技術相談および見学	61
5.	図書資料の収集・受入、サービス	62
1)	収書数	62
2)	除籍数	62
3)	サービス	62
VI	研究交流	63
1.	研究員などの受入・研修	63
1)	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）研究員	63
2)	国際協力機構（JICA）研究員	63
3)	日本学術振興会（JSPS）研究員	63
4)	科学技術振興機構（JST）研究員	63
5)	その他の制度等による海外研究員の受入	63
6)	流動研究員	63
7)	依頼研究員	63
8)	技術講習生	63
9)	国内留学	63

10) 連携大学院	64
2. 研究員の派遣	64
1) 流動研究員	64
2) 国内留学	64
3) 海外派遣・出張	64
3. 技術協力・指導	64
1) 連携大学院への派遣	64
2) 他機関主催研修会等への講師派遣	64
3) 当センター主催の技術指導	68
4) 依頼分析、試験および同定	68
4. 共同研究	68
5. 協定研究	68
6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況	68
VII 組織・人事・会計	69
1. 組 織	69
2. 人 事	70
1) 現在員数	70
2) 農研機構特別研究員	70
3) 委員等の就任状況	70
4) 叙位・叙勲	71
5) 受賞	71
6) 学位授与	72
3. 会 計	72
1) 決 算（所在地別内訳）	72
2) 固定資産（所在地別内訳）	73
VIII 主な会議等	74
1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議	74
2. 近畿中国四国地域問題別研究会	74
3. 地域研究・普及連絡会議	75
4. 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業推進会議等	75
5. 革新的技術緊急展開事業関係会議等	75
6. その他会議	76
IX 所在地	77

I 主な動向と経過

1. 近農研を巡る情勢

平成26年度は、(独)農業・食品産業技術総合研究機構(以下、農研機構)の第3期中期計画の4年目にあたる。近畿中国四国農業研究センターは、近畿中国四国地域の特徴である中山間地、傾斜地および都市近郊における農業のさまざまな課題の解決と地域の活性化を目指し、研究・技術開発に取り組んだ。

1) 組織体制と運営

ア 組織体制

農研機構の第3期中期目標期間における研究推進については、実施すべき研究課題を大課題・中課題として整理し、大課題毎に大課題推進責任者(プログラムディレクター)を、中課題毎に中課題推進責任者(プロジェクトリーダー)を配置するとともに、中課題推進責任者を補佐するため必要に応じて中課題推進副責任者(サブリーダー)を配置する体制としており、大課題・中課題の推進は大課題推進責任者・中課題推進責任者が責任を持って対応する一方、研究所では、中長期的な観点からの研究者の人材育成および人的な管理を中心に、研究成果の社会還元、研究環境の整備、研究資産の管理等の業務を行うこととし、これらの研究所の業務を効率的に遂行するため、研究所に研究領域を置いている。

近畿中国四国農業研究センターには、引き続き、6名の中課題推進責任者および7名の中課題推進副責任者が配置された。

また、近畿中国四国農業研究センターに6つの研究領域を置き、営農・環境研究領域および水田作研究領域の2つの研究領域を近畿中国四国農業研究センター本所(福山)に、作物機能開発研究領域および傾斜地園芸研究領域の2つの研究領域を四国研究センターに、環境保全型野菜研究領域を綾部研究拠点に、畜産草地・鳥獣害研究領域を大田研究拠点にそれぞれ設置するとともに、近畿中国四国農業研究センター独自の内部組織として、各研究領域内に以下の18の研究グループを設置している

○営農・環境研究領域(本所)

- ・農業経営研究グループ
- ・機械作業・情報研究グループ
- ・農地・水環境研究グループ

○水田作研究領域(本所)

- ・水稻育種研究グループ
- ・小麦育種研究グループ
- ・栽培管理研究グループ
- ・輪作体系研究グループ
- ・病虫害研究グループ

○作物機能開発研究領域(四国研究センター)

- ・大麦育種研究グループ
- ・大豆育種研究グループ
- ・食品機能性研究グループ

○傾斜地園芸研究領域(四国研究センター)

- ・カンキツ生産研究グループ
- ・傾斜地野菜生産研究グループ
- ・園芸経営研究グループ

○環境保全型野菜研究領域(綾部研究拠点)

- ・生産基盤研究グループ
- ・野菜生産研究グループ

○畜産草地・鳥獣害研究領域(大田研究拠点)

- ・黒毛和種放牧飼料研究グループ
- ・鳥獣害対策研究グループ

また、所の広報活動や産学官連携活動を円滑に実施するため、広報普及室を設置している。広報普及室は、広報、産学官連携活動が一体的に行えるよう、企画管理部情報広報課、四国企画管理室連絡調整チームおよび専門員をメン

I 主な動向と経過

バーとしており、広報普及室長には研究調整役をあてている。

イ 予算

第3期においては、運営費交付金による研究資金を効率的・効果的に活用することにより中期計画の着実な推進を図るため、研究資金の配分については、中期計画の大課題ごとに配分される大課題研究費を、当該大課題を構成する中課題を担当する研究職員の所属する研究所に配分しており、研究所長は、この配分された大課題研究費から共通経費を徴収し、光熱水料、機械施設の維持管理費等のほか、研究所長の裁量で所研究活動強化費の財源として使用している。

また、産学官連携、現地技術実証、広報・普及、行政との連携等を通じて、研究成果の社会還元を一層促進するとともに、新たな研究ニーズを踏まえた先行的・試行的研究を実施し、人材育成、外部資金の獲得促進に資するため、研究活動強化費が設けられている。

平成26年度の近畿中国四国農業研究センターの運営費交付金の研究予算は、大課題研究費120百万円、研究活動強化費51百万円であった。

2) 近畿中国四国農業研究センターの研究の推進方向

第3期においては、近畿中国四国農業研究センターは、上記組織体制のもと、近畿中国四国地域の特徴である中山間地、傾斜地および都市近郊におけるさまざまな農業の課題の解決と地域の活性化を目指して、M（ミッション：使命）、V（ビジョン：展望）、P（パッション：情熱）をもって、下記の6つの課題を中心に戦略的に重点化して研究・技術開発に取り組んでいる。

- 中小規模水田における輪作技術の開発
- 飼料用稲や放牧などを利用する牛肉生産技術の開発
- 日光温室などの施設園芸技術の開発
- カンキツの高品質安定生産技術の開発
- 環境負荷物質の動態モデルと環境負荷の評価手法の開発
- 土壌病害虫防除と耕種的防除による環境保全型野菜栽培技術の開発

2. 運営に関する主な動向

1) 近畿中国四国農業試験研究推進会議

平成26年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議は、平成27年2月6日に福山市生涯学習プラザで開催した。本年度の重点検討課題は「『農林水産業・地域の活力創造プラン』の地域政策にかかる関係機関の分担・連携方策」であり、課題検討に先立って、近畿中国四国農業研究センターからテーマ設定の経緯と内容、関連した研究プロジェクト等の情勢の説明があり、その後近畿農政局長から、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」での地方創生と農林水産業の成長産業化の動き、「農林水産業・地域の活力創造プラン」の策定とそれを踏まえた「食料・農業・農村基本計画」の見直しについて話題提供があった。続いて、それぞれの府県から、中山間地域を中心とした現状と問題点、先進的な取り組み事例、試験研究の取り組み状況および他機関との連携・分担等について報告があり、質疑応答を行った。その中で、薬草に関する先進的な連携事例、鳥獣害対策の今後の技術開発のあり方、担い手育成に関する連携方策等について意見交換が行われた。

次に、各推進部会長等から、平成27年1月に開催した各推進部会および平成26年8月に開催した評価企画会議における地域重要研究問題の措置方向等の議事概要の報告を行った。

2) サポーターズ会議および先進的生産者等との意見交換会

近畿中国四国農業研究センターでは、研究成果の広報、普及促進および定着に資するため、平成23年度から、農業関係者、行政・普及関係者、試験研究機関関係者、民間企業関係者、消費者、報道関係者および学識経験者の中から所長が委嘱する委員および所議構成員で構成する「近畿中国四国農業研究センターサポーターズ会議」を開催して

I 主な動向と経過

いる。

平成 26 年度のサポーターズ会議は、平成 27 年 1 月 14 日に近畿中国四国農業研究センターにおいて開催し、同時に先進的生産者等との意見交換会も行った。はじめに、研究成果の広報状況等について水稻新品種「恋の予感」等の品種開発成果と「飛ばないナミテントウ」成果のプレスリリース資料を用いて説明した。次に、屋外において飼料用稲収穫機と小型除草ロボットの実演を行った。さらに、本年度から開始した革新的技術緊急展開事業の 3 課題（水田作、カンキツ、施設野菜）の取り組みについて、それぞれ担当者から紹介を行った。その後、4 名の先進的生産者と意見交換を行い、畦畔管理での除草ロボットへの期待、耕畜連携での水田と畜産を守る課題や鳥獣害対策、商品にあった品種育成等の意見が出された。最後に、委員から、消費構造が変わっている中で、近畿中国四国農業研究センターとして中長期的な方向性を示す必要性、気候変動に対応した技術開発、ブランド化や収益の向上につながる研究の実施、農工商連携による農業の活性化の推進等の講評が行われた。

3. 研究成果の普及

1) 連携普及計画

農研機構の第 3 期における産学官連携、広報、普及活動については、これらを一体的に推進し実施する体制を整備するとともに、実用化に向けた産学官連携研究、成果の活用による事業化・普及のためのマッチング活動、国民との双方向コミュニケーション確保の取組、多様な手法を用いた研究成果の効果的広報等について計画を策定して重点的に取り組むため、各研究所等において連携・普及計画を毎年度作成し、これらの取組を推進し実施する体制を着実に整備することとしている。

近畿中国四国農業研究センターの平成 26 年度の連携・普及計画では、所として重点的に取り組む事項として、生物農業「飛ばないナミテントウ」、もち性大麦（「ダイシモチ」、「キラリモチ」）および「次世代ハウス」（施設園芸用高断熱資材）の普及を掲げるとともに、①実用化を目的とした共同研究、②現地実証試験、③マッチング、④ニーズ把握、⑤現場活動、⑥国民理解促進のための情報発信の 6 項目についての取組事項を記載した。

2) 地域マッチングフォーラム

ア 近畿地域マッチングフォーラム

平成 26 年 11 月 21 日に、兵庫県神戸市の兵庫県民会館を会場として、「野菜生産における環境保全的な病害虫発生予測診断と対策技術」と題して開催し、行政機関 12 名、普及指導 9 名、研究機関 41 名、生産者 12 名、民間企業 17 名等、全体で 91 名の参加があった。

本フォーラムは、講演、技術相談、パネルディスカッションの 3 部構成で行った。はじめに、中央農業総合研究センターから環境保全型野菜生産における病害虫管理技術について、近畿中国四国農業研究センターから環境保全型害虫防除体系を構築する上での飛ばないナミテントウの使い道、分子生物的手法を用いたセンチウ密度と被害程度の予察およびバイオフェューミゲーションによる土壌病害の防除について、兵庫県立農林水産技術総合センターから生産現場における飛ばないナミテントウの活用方法について、徳島県立農林水産総合技術支援センターから分子生物学的手法を用いた砂地畑における殺線虫剤削減の取り組みについて、それぞれ講演を行った。

引き続き、講演で紹介した技術に関する個別相談会を開催し、最後に、講演者がパネラーとなってパネルディスカッションを行った。

イ 中国四国地域マッチングフォーラム

平成 26 年 10 月 8 日に、香川県高松市のサンポートホール高松を会場として、「“もち麦”人気を中心に新たな展開が期待される国産裸麦の生産と利用」をテーマに開催し、行政機関 14 名、普及指導 6 名、研究機関 35 名、生産者団体 24 名、民間企業 58 名等、全体で 235 名の参加があった。

本フォーラムでは、大麦食品推進協議会から大麦の食品としての機能性について、近畿中国四国農業研究センターから“もち麦”品種の育成と有望系統について、(有) ジェイ・ウイングファームから「ダイシモチ」で新規需要創出と生産拡大について、(株) ライスクロップ長尾から「キラリモチ」の産地形成に向けた取り組みについて、(株) はくばくから実需者が期待する国産もち麦について、それぞれ講演があった。その後、ポスター発表とパネルディス

I 主な動向と経過

カッションを行った。

3) サイエンスカフェ

ア 食と農のサイエンスカフェ in ふくやま

第3期においては、国民との双方向的コミュニケーションの強化が広報普及活動のひとつの柱となっており、近畿中国四国農業研究センター本所（広島県福山市）では、平成25年度に引き続き、研究者と一般市民との率直な意見交換が可能なサイエンスカフェ形式の公開講座を開催した。

平成26年度は、広島県福山市の近畿中国四国農業研究センター講堂を会場として8月23日、9月27日、11月22日の3回開催し、3回の合計で一般市民68名の参加があった。

イ 食と農のサイエンスカフェ（四国研究センター）

また、平成26年度は、近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（香川県善通寺市）でもサイエンスカフェを2回開催した。第1回は4月5日に四国研究センター生野地区において、第2回は10月25日に四国研究センター仙遊地区においてそれぞれ開催し、2回の合計で47名の参加があった。

II 組織の概要

1. 企画管理部

企画管理部は、近畿中国四国農業研究センターの実施する試験研究の総合的な企画・調整・評価、研究予算の配分、庶務、会計、情報システムの管理等、研究活動を支える企画管理業務を担当する。また、試験研究推進会議の開催、共同研究の推進、オープンラボの利用促進等を通じた他研究機関や行政部局等との連携・交流、研究成果の普及・広報など、研究センターの総合窓口としての役割を担う。

2. 営農・環境研究領域【福山】

営農・環境研究領域では、近畿中国四国地域に多い中山間地域の地域農業振興方策の解明、近畿中国四国地域に広く存在する中小規模水田を対象とした省力作業技術の開発と体系化および生産効率化のための情報利用技術の開発、瀬戸内海沿岸地域における環境負荷評価手法の開発を行う。

○地域農業活性化の核となる農産物直売所の活動を起点として、地元農産物の販売や消費者との交流によって地域農業を6次産業化し、小規模農家も利益を確保できるビジネスモデルを提案する。

○中小規模水田作の生産コスト低減に向け、麦・大豆の簡易耕による省力安定栽培技術、牧場調製型の飼料用稲収穫・調製システム、携帯情報端末を用いた情報記録システム等を開発する。

○琵琶湖や瀬戸内海等の閉鎖的水系が多いことから、農業由来の環境負荷を軽減する技術の改良と技術導入時の環境影響評価手法の開発、水質予測モデルの汎用化等を行う。

3. 水田作研究領域【福山】

水田作研究領域では、多様性に富む近畿中国四国地域の気候的・土地的条件に適合し、かつその条件を最大限活用する水田作物の生産技術の開発を行う。

○新品種開発については、水稻では良食味の主食用品種や多収で飼料栄養価に優れた飼料用品種、病虫害複合抵抗性品種、米粉や酒米用途など、多様なニーズに応えることのできる品種育成に取り組む。小麦では、自給率向上に資する国内産の増産を目指し、パン用や日本めん、中華めん、パスタ向けなどの多様な用途に適した品種育成に取り組む。

○近年進行しつつある地球温暖化の中においても、高温条件を克服し、かつ利用しうるような水稻多収栽培法、直播栽培法など、作物の低コスト安定多収生産技術の開発に取り組む。

○地下水制御システム等新技术の利用方法を明らかにしつつ、水稻、麦類、大豆など水田作物の合理的輪作技術、畦畔を含む雑草管理技術等の活用による中山間農地、中小規模水田に適した作物生産技術の開発に取り組む。

○消費者・生産者の双方に受け入れられる環境負荷が少ない生産技術として、土着天敵生物の温存・利用による害虫防除技術、未利用有機物資源活用による土壌病害防除技術など環境保全型生産技術の開発に取り組む。

4. 作物機能開発研究領域【仙遊】

作物機能開発研究領域では、近畿中国四国地域における水田輪作システムを確立し、農産物の需要拡大とブランド化を支援するため、裸麦や大豆品種の育成、農産物の健康機能性の解明と有効利用技術の開発を行う。

○大麦（特に裸麦）では、生産拡大や安定供給の実現に向け、味噌や麦ご飯用に適し、多収で硝子率・欠損粒率が低い品種や、食物繊維（β-グルカン）含有量が多く、付加価値が高い新規用途向け品種等を育成する。

○大豆では、安全な国産大豆の自給率向上・安定供給の実現に向け、DNA マーカー等を利用して重要病虫害抵抗性や難裂莢性等を基幹品種へ導入することで、温暖地に適した安定多収・良品質な品種を育成する。

○健康機能性については、生活習慣病を予防・改善できる食品成分の解明に向け、筋肉・肝臓の脂質代謝機能を強化する成分や、免疫調節作用等を持つ成分を明らかにする。また、小麦ふすま由来血圧降下ペプチドの商品化を目指し、その肝機能改善効果を明らかにする。

5. 傾斜地園芸研究領域【生野】

傾斜地園芸研究領域では、近畿中国四国地域に多い傾斜地の特性を活かした、新たな高収益・安定生産施設園芸生産技術ならびにカンキツブランド化支援のための栽培技術の開発を行う。

○中山間・傾斜地における野菜生産では、日本型日光温室等の活用による高収益・安定生産施設園芸技術の開発に重点的に取り組むとともに、分子生物学的手法による新形質花きを開発に取り組む。

○カンキツ生産では、省力的に早期成園化を図り、正品果率を向上させて高収益型カンキツ生産体系の確立を図るための技術システム、傾斜地園地整備技術の開発に取り組むとともに、「団地型マルドリ方式」を提案し、普及に取り組む。

○施設園芸経営ならびにカンキツ経営における多角化ビジネスモデルを提案する。

6. 環境保全型野菜研究領域【綾部】

環境保全型野菜研究領域では、化学農薬の使用量を減らして持続的・安定的な環境保全の野菜生産を行うために必要な、土壌病害虫の診断技術の開発や、病虫害抑制および生長制御に有効な耕種技術の開発を行う。

○線虫や糸状菌等による野菜の被害について、メタゲノム解析等を用いた高感度定量法の開発や、要防除水準の作成を行い、これらに基づいた病虫害リスクの予測・診断技術を開発する。

○これまで廃棄されていた抗菌物質が含まれる地域未利用資源を活用し、より低コストで効果的な環境保全型の土壌還元消毒技術を開発する。

○ハウレンソウやイチゴにおいて収量や品質の向上、病虫害防除を可能とする、新規の光質選択性被覆資材や照明技術、遮光栽培法を含めた実用的な光環境制御技術を開発する。

7. 畜産草地・鳥獣害研究領域【大田】

畜産草地・鳥獣害研究領域では、中山間地が多い近畿中国四国地域において、地域の飼料資源を活用した黒毛和種の生産技術および近年深刻な鳥獣害への対策の研究を行う。

○輸入飼料依存から脱却し、自給飼料基盤を充実させた畜産を展開するためには、水田、野草地そして増加が著しい耕作放棄地などを積極的に活用する必要がある。そこで、新品種の飼料用稲や野草地放牧などの地域の自給飼料資源を活用した黒毛和種の繁殖から肥育までの生産技術の開発に取り組む。

○全国的に鳥獣による被害は深刻さを増しているが、従来の駆除や防護柵では被害防止効果は小さいため、イノシシ、ハクビシン、サルなど野生動物の行動解析をもとに、より省力的で効果の高い侵入防止技術の開発に取り組む。また、これらの成果をもとに地域の住民が主体的に取り組める鳥獣害対策プログラムを提案する。

8. 研究支援センター

研究支援センターは、試験研究活動の円滑な進行を支えるため、試験圃場・施設の管理、作物・動物の栽培と飼育に取り組んでいる。

多様な近畿中国四国地域の立地条件を反映し、試験圃場は平坦な水田や畑地だけでなく地域特有の傾斜地圃場（畑地・樹園地・草地・放牧地）、ハウス等の施設などさまざまな種類に及ぶ。扱う作物も水稲や大豆・麦類などの普通作物、牧草・飼料作物、野菜などの園芸作物、かんきつなどの果樹類まで多様である。動物に関しては、家畜である肉用牛のほか、近年は獣害防止技術開発に必要なイノシシやシカなどの野生動物も飼育している。これら作物や動物の管理・栽培・飼育業務全般のほか、技術利用者、作業員の視点から技術開発に有用な助言を行うとともに、業務改善に資する工夫・考案なども行っている。また、現地実証試験など所外での研究活動にも対応する中で、新技術をいち早く修得し、模範実演を担当することにより、開発技術の生産者への速やかな技術移転の一翼を担う。

Ⅲ 研究の実施状況

- ・領域名：営農・環境研究領域
- ・研究グループ名：農業経営研究グループ
- ・研究担当者：室岡順一、坂本英美、尾島一史、友國宏一、渡部博明、大室健治
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農産物直売所を核とした地域農業多角化ビジネスモデルの策定、②多角化園芸作ビジネスモデルの構築、③経営部門別新技術および技術体系の経営的評価と普及手法の提示、④農業経営および地域農業の動向解析にもとづく技術開発方向の提示、⑤技術・収支データベースと標準財務指標を組み込んだ経営診断システムの開発に取り組んだ。①では、農産物直売所の新たなビジネスモデル「出張直売」を提示するとともに、有機農家直売市が収入向上などで果たす役割を明らかにした。②では、シャインマスカットの市場動向を把握するとともに、産地を6つに類型化した。③では、広島県I町における耕畜連携を構成する飼料用稲生産法人、町内コントラクタおよび繁殖牛飼養経営の3部門を対象に、稲 WCS 取引関係の単位あたり収支を試算し、次に3部門の経済波及効果を推計した結果、3部門合計の生産額は町の農林水産業の3%を占めると試算された。④では、営農組合の提供データをもとに線形計画法による分析を行った結果、低米価・米直接支払交付金の削減下において50ha規模を達成するためには稲 WCS の湛直栽培技術等の省力化技術の導入が必要であることを明らかにした。⑤では、開発したツール「Web版農業経営診断サービス」のユーザビリティを高めるため、利用者に対して改善要望に関する聞き取り調査を行い、ア. 経営改善案の提案機能の付加、イ. 他のツールとの連動などが抽出された。

・主な研究成果

農産物直売所のビジネスモデル「出張直売」については、来店者数の伸び悩みと売れ残りに直面する中山間地域の直売所への普及が大いに期待されることから、普及成果情報「農産物直売所が都市部に仮設店舗を開設するビジネスモデル『出張直売』」としてまとめた。また、有機農家直売市については研究成果情報「有機農家直売市が有機農家の販売収入向上と新規就農支援に果たす役割」、低米価・米直接支払交付金の削減下における作物構成の転換については研究成果情報「稲 WCS と野菜及び加工を組み合わせた中山間集落営農法人の付加価値向上」としてまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

農産物直売所のビジネスモデル「出張直売」について、岡山県の農産物直売所および関係・支援機関を対象として研修会で講演した。

- ・領域名：営農・環境研究領域
- ・研究グループ名：機械作業・情報研究グループ
- ・研究担当者：高橋英博、奥野林太郎、高橋仁康、窪田潤、寺元郁博
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①中小規模水田輪作体系の確立、②牧場調製型収穫システムの開発、③通信制御の共通化技術の開発、④生産現場における簡易データ収集・統合管理システムの開発に取り組んだ。①では、条間30cmの大豆狭畦栽培で6月播・7月播、全面耕播種・部分耕播種の各区でグルホシネート液剤の畦間・株間処理で高い防除効果が認められ、帰化アサガオ「マルバルコウ」防除には土壌処理剤、選択性茎葉処理剤および非選択性茎葉処理剤の3回体系で高い効果が、2回体系ではグルホシネート液剤処理で効果が認められた。また、播種機用ECU(電子制御装置)を簡易共通リモコンに対応させるとともに、位置情報と合わせて機械作業情報を記録するデータロガーを試作し、これによる法人の水稲収穫作業を記録収集可能とした。②では、メーカーと共同で開発中の収穫機の刈取りヘッドとワゴンを市販形状へ大幅に変更・改良して6カ所5haの現地試験・実演に供試し、長程対応とトラック1台あたり1.2トンの高密度輸送を実証した。今年度は天候不順であったが、ワゴンタイプ収穫機と「たちすずか」のメリットを活かし、降雨直後の作業性の高さを複数の現地で確認できた。③では、昨年度までのロボット用施肥播種機の作業機ECUを市販機でのセンサ付きモータに対応させ、フィードバック制御を行うプログラムに改良した。作業機からバイナリ形式で送信される作業機情報(デバイスディスクリプションデータ)をXML形式に変換するソフトウェアを試作した。④では、収穫作業記録作成ツールで蓄積したデータを連携フレームワーク上でデータ交換を

Ⅲ 研究の実施状況

行う機能を追加した。PMS（作業計画・管理支援システム）の実証試験として現地法人が管理する地区全体の圃場区画約 1,770 筆を作成して栽培圃場台帳の作付情報を可視化するとともに、初期設定に必要なデータの整理と現地法人への導入手順を検討した。

・主な研究成果

農作業ロボットや作業機の設定の自動化・省力化に結びつく職務作成プログラム「ロボット用操出制御型作業機 ECU ソフトウェア」、「ブロードキャスター用 ECU ソフトウェア」、「共通リモートコントローラソフトウェア」が認定された。関連成果として、既存のトラクタに追加することで最新の ISOBUS 作業機や日農工 AG-PORT 対応作業機、センサ類が接続利用できる後付キットを普及成果情報（北農研提出）として取りまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

研究課題②④に関連して、革新技術等波及展開支援事業東京ワークショップで収穫作業記録作成アプリに関する展示を実施した。①では CAN から得られる作業機の動作情報の収集ユニットの開発、②では長稈対応飼料用稲収穫機の開発、ラウンドビューモニタの飼料用稲収穫機での試用において民間メーカーの協力を得て研究を進めた。また①では岡山大学と協定研究を結び、地下水位制御システムの水稻の蒸発散を測定した。

・その他

寺元郁博主任研究員が「農作業現場におけるリアルタイムデータ収集・活用のための携帯情報端末を核とした農業情報流通システムに関する研究」で学位を取得した。

・領域名：営農・環境研究領域

・研究グループ名：農地・水環境研究グループ

・研究担当者：松森堅治、笠原賢明、石岡巖、志村もと子、渡邊修一

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農地からの環境負荷物質を低減する技術の開発、②負荷低減対策技術の導入効果の予測が可能な環境負荷物質動態モデルの構築、③水系における環境負荷リスクの評価、④地下水位制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明、⑤還元消毒時の土壌環境変化と消毒効果の関係の解明に取り組んだ。①では、拍動灌水装置を導入できる作目や使用者の拡大のために栽培試験と装置の改良を行った。アスパラガス栽培では、拍動灌水装置と連動する電磁弁と水位調整タンクの組み合わせで、傾斜地転換畑に導入する方法を開発した。ブドウのコンテナ栽培では、高齢者でも安全に管理できる高所の貯水タンクを必要としない装置を開発した。また、有効態リン酸が中庸な圃場での露地ナス栽培では、リン酸施肥量を作物吸収量相当まで削減できることを示したほか、露地圃場の畝断面における根の分布の簡易調査法を開発した。②では、中国地方への適用を目的に鳥取県、岡山県を対象に水質モデルを作成し、積雪地を含む地域でもモデルの適用性が確認された。③では、栽培技術のライフサイクルアセスメントを行い、富栄養化インパクトを評価した。水田の無代かき栽培と前期深水管理ではインパクトが負の値となり、富栄養化が抑制されることが示された。④では、FOEAS ライシメータでダイズ栽培時の水収支を調べた結果、フロートより水位調整管を高く設定することで降雨を有効に利用できることが確認できた。⑤では、土壌還元消毒時の嫌気状態での分解は、有機質資材の種類で残存する易分解性有機物の量が異なり、小麦ふすまで少なかった。米ぬかに含まれる脂質の嫌気培養による難分解性物質への変化が示唆された。

・主な研究成果

根の簡易調査法の提案については、簡便な調査法という点で新規性が高く、原著論文として発表し研究成果情報「露地ナス栽培圃場の畝断面における根の分布の簡易調査法」にまとめた。また、緑肥作物を用いた土壌還元消毒時の大気中の一酸化二窒素放出については、放出量がごく僅かであり、ガス難透過性フィルムを用いればさらに低減できることを明らかにした点で新規性が高く、原著論文として発表し研究成果情報「土壌還元消毒時の大気中の一酸化二窒素放出はごく僅かである」にまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

拍動灌水装置については、マニュアルの Web 版公開やアグリビジネス創出フェア、農家や普及機関への研修会などで紹介し、栽培試験では島根県農業技術センター、広島県東部農業技術指導所と連携した。水質モデルについては、畜産と施設園芸が盛んな流域の窒素蓄積と動態に関して、(独) 農業環境技術研究所、茨城県霞ヶ浦環境科学センター、

Ⅲ 研究の実施状況

茨城大学と共同研究を実施した。

- ・領域名：水田作研究領域
- ・研究グループ名：水稻育種研究グループ
- ・研究担当者：出田収、重宗明子、中込弘二
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①主食用、加工用水稻品種の開発・利用、②飼料用稲品種の開発に取り組んだ。①では、縞葉枯病抵抗性で中生熟期の多収良食味系統「中国 218 号」を育成した。「ヒノヒカリ」より 35%程度多収で、業務用としての利用が期待される。また、広島県立総合技術研究所、JA 全農ひろしま、広島県酒造協同組合との酒米共同育成を実施し、系統の育成・選抜を進めた。②では、かなり晩熟期で極短穂の稲発酵粗飼料用系統「中国飼 219 号」および極晩熟期で極短穂の稲発酵粗飼料用系統「中国飼 220 号」を育成した。両系統ともに縞葉枯病抵抗性を有することから、縞葉枯病常発地での利用・普及が期待される。

- ・主な研究成果

中生熟期の高温耐性、良食味多収品種「恋の予感」は広島県で奨励品種に採用され、2015 年度には 1,000ha、2016 年度には 2,000ha、2017 年度には 5,300ha の作付けが計画されており、さらに、岡山県、山口県などでも有望視されている。また、縞葉枯病抵抗性を有する極短穂の稲発酵粗飼料用系統「中国飼 219 号」および「中国飼 220 号」の育成ならびに極短穂の稲発酵粗飼料用品種「たちあやか」の採種法の開発が中課題の主要成果に選ばれた。

- ・広報・普及・産学官連携活動

水稻新品種「恋の予感」については、広島県、広島県穀物改良協会、JA 全農ひろしまに協力することにより普及促進を図った。また、中生熟期の良食味多収水稻品種「せとのかがやき」については、瀬戸内市振興公社との協定研究により普及促進を図った。高アミロース多収系統「中国 215 号」および低アミロース多収系統「中国 216 号」については、民間企業との協定研究で普及を図った。さらに、酒米については、広島県立総合技術研究所、JA 全農ひろしま、広島県酒造協同組合との共同研究により、飼料稲については、作物研究所および九州大学との共同研究ならびに広島県畜産技術センターとの共同研究で育成を進めた。そのほか、極短穂の稲発酵粗飼料用品種「たちあやか」について、家畜改良センター長野支場との協定研究により、採種法の検討を行った。

- ・領域名 水田作研究領域
- ・研究グループ名 小麦育種研究グループ
- ・研究担当者 高田兼則、池田達哉、船附稚子、谷中美貴子
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成、②加工適性に優れるグルテンタンパク質組成の解明と DNA マーカーの開発、③ DNA マーカー等の開発・利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発の課題に取り組んだ。①では、「せときらら」の普及活動を継続した結果、JA 兵庫西と JA 津山が産地品種銘柄申請を行うなど普及が進んでいる。また、「農研小麦 1 号」は広島県と兵庫県で現地試験が開始された。新規の低アミロース小麦「中国 164 号」は実需者評価を実施し、ユニークな特性に興味があるとの報告を受けた。今後、品種化に向けた取り組みを進めていく。②では、複数年にわたって輸入小麦銘柄の品質関連の遺伝子型の解析を行い、遺伝子型頻度と品質特性が関連づけられることを明らかにした。また、グルテニン遺伝子 *Glu-B1a* を判別する DNA マーカーを開発した。これらの情報は、実需者にとって有用であるほか、品種育成の指標としても利用できる。③では、赤かび病および穂発芽抵抗性などの形質を DNA マーカーにより、デュラム小麦系統「中国 D166 号」への導入を進めた。予備的であるが穂発芽耐性を向上する効果が認められた。また、カドミウム蓄積に関してはデュラム小麦由来の *Cdu1* を普通系小麦に導入した準同質遺伝子系統を作出した。また、「中国 165 号」は、複数年・複数箇所の結果でカドミウム含量が低いことが確認された。次年度以降は、これらの知見を活用して、新品種の開発を進めていく。

- ・主な研究成果

輸入小麦銘柄の品質関連遺伝子の解析は論文発表を行い、また、研究成果情報「輸入小麦銘柄の品質は関連遺伝子

Ⅲ 研究の実施状況

型頻度によって特徴付けられる」としてまとめ、中課題の主要成果の一つに選ばれた。

・広報・普及・産学官連携活動

第6回グルテン研究会を開催した。JA津山と小麦品種の普及の取り組みのため協定研究を開始した。広報連携促進費を利用して兵庫県パン協同組合へ「せときらら」の働きかけを行い、「兵庫県パン用新品種普及拡大協議会」の発足の一助となった。また、日本製粉との共同研究を5年間延長し、「中国 D166 号」を改良したデュラム小麦品種の開発を進める。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：栽培管理研究グループ

・研究担当者：長田健二、黒瀬義孝、千葉雅大、小林英和

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①水稲収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定多収素材の開発、②栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発、③かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発、④気候変動下における水稲の高温障害対策技術の開発に取り組んだ。①では、高温耐性の異なる2品種間で、高温処理による胚乳細胞の核内倍加程度の変動に差が認められることを明らかにした。②では、簡易土壌水分計により樹体の乾燥ストレスを評価する技術を開発し、水位低下量の積算値を指標として高糖度果実を生産できることを明らかにした。③では、赤かび病菌感染後の濡れ時間が150時間を超すと濡れ時間に応じてかび毒が蓄積し、雨による濡れだけでなく結露による濡れもかび毒の蓄積に寄与することを明らかにした。④では、多収品種「北陸193号」の籾数および登熟歩合に及ぼす出穂前後の日射量の影響を定量化し、日射条件からみた最適出穂期の地域間差をメッシュ農業気象データをもとにマップで示した。

・主な研究成果

赤かび病菌感染コムギにおいて、濡れ時間がかび毒蓄積リスクの評価指標になることを解明した知見は、同病害の追加防除を実施する時期の判断に有用な成果であり、原著論文を発表するとともに本年度の研究成果情報「赤かび病菌感染コムギにおいて濡れ時間はかび毒蓄積リスクの評価指標になる」としてまとめた。また、温風導入型オープントップチャンバーによる圃場高温処理法や、地上部窒素吸収量の増大による水稲多収品種の籾数増加とその限界について明らかにした。いずれも新規性が認められ、原著論文として発表した。

・広報・普及・産学官連携活動

気候予測情報を活用した農業技術情報の高度化に関連して、気象庁との共同研究に参画した。近畿中国地域水稲作況連絡試験の全体取りまとめ、府県サンプルの玄米外観品質測定を行い、データを蓄積した。水稲栽培やカンキツ生産に関する技術相談対応や講演、イベントでのポスター展示などを通じて生産者や普及関係者に研究成果を紹介した。日本作物学会中国支部福山大会を開催した。

・その他

黒瀬義孝上席研究員が広島大学教官として指導した論文（共著）「Analysis of normalized daily change of air temperature using an S-shaped function to detect fog occurrence」に対して、日本農業気象学会論文賞が授与された。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：輪作体系研究グループ

・研究担当者：岡部昭典、石川直幸、橘雅明、伏見昭秀、竹田博之、藤本寛、森伸介、山崎諒

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①地下水位制御システム(FOEAS)を利用した安定多収栽培技術の開発、②直播水稲・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発、③中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証に取り組んだ。①では、「たちはるか」の水稲乾直節水栽培で目標を上回る収量を得、地下水位制御が大豆の百粒重や蛋白質含量に影響すること、水稲収穫後にプラソイラとパーティカルハローにより短時間で土壌を乾燥できることを明らかにした。これらはFOEAS圃場における水稲、麦、大豆輪作体系の安定多収栽培に寄与する。②では、水稲乾直の1粒点播で移植並みの収量を達成するとともに、水稲湛直の種子近傍土壌の微生物相を解析した。大豆では開花期～莢伸長期に

Ⅲ 研究の実施状況

地下水位を下げると青立ち程度が高まり、麦では部分耕播種の収量が低いことを明らかにした。畦畔管理では、現地で二重ネット工法によるシバの栽植を行って植被度などを明らかにし、雑草関係では、水稻乾直栽培における雑草埋土種子数と除草剤処理回数との関係を明らかにした。③では、現地の FOEAS 圃場で水稻乾直の後に大麦、さらにその後作に大豆を栽培したが、FOEAS 圃場の大麦収量は対照圃場に対して 35% 増収、大豆収量は全般に低収だったが、FOEAS 圃場は対照圃場に対して 22% 増収で、いずれも FOEAS の効果を実証した。

・主な研究成果

開発した二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバの栽植技術については、畦畔率が高い中山間への普及が大きいと期待されることから普及成果情報「二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバ (*Zoysia japonica*) の栽植技術」としてまとめた。また、塩安入り肥料の施用は硫酸や尿素と比較して小麦子実カドミウム濃度を高めることを明らかにし、この結果は、食の安全性の観点から重要であるため、研究成果情報「施用肥料中の塩化物イオン量が多いと小麦子実カドミウム濃度が高まる」としてまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

食と農のサイエンスカフェ in ふくやま (11/22) で、「ヒトと雑草の戦いー近未来の畦畔管理ー」と題して畦畔管理技術を解説するとともに、チャレンジウィーク福山で中学生に対して、農村の畦畔管理を楽にするための研究を紹介した。また、水稻乾直の少量播種について、さらに技術開発を進めるため現地法人や機械メーカーと協定研究を締結した。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：病虫害研究グループ

・研究担当者：竹原利明、三浦一芸、大崎秀樹、富岡啓介、関口博之、世古智一、安部順一郎、野見山孝司

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①露地や非閉鎖環境の施設での野菜栽培に活用できる土着天敵利用技術の開発、②病害診断と耕種の防除による野菜の環境保全型生産技術の開発に取り組んだ。①では、施設野菜において生物農薬として登録済みの飛翔能力を欠くナミテントウの製剤を露地でも使用できるようにするため、スカエボラなどの天敵温存植物とナミテントウを併用する技術の開発を進めた。②では、レタスビッグベイン病媒介菌の土壤中での密度と発病の関係性を調べるとともに、トマト黄化葉巻ウイルスの弱毒株の選抜を進めた。

・主な研究成果

飛翔能力を欠くナミテントウの製剤は、施設野菜における生物農薬として6月に販売が開始され、同時に本技術の利用マニュアルの配布も開始した。レタスビッグベイン病の抗体を用いた定量法については、研究成果情報「レタスビッグベイン病を媒介する *Olpidium virulentus* の血清学的定量法」としてまとめた。また、トマト黄化葉巻病を抑制できる弱毒ウイルスの有望系統については、学会発表を行った。そのほか、上記①、②に関連して開発した技術、明らかにした知見は、今後実用上有用であることから、原著論文や学会発表などで報告した。

・広報・普及・産学官連携活動

飛翔能力を欠くナミテントウなどの天敵利用技術、バイオフィューミゲーション（アブラナ科植物の鋤き込みなどによる土壌消毒法）による土壌病害防除技術について、近畿地域マッチングフォーラムで紹介した。飛翔能力を欠くナミテントウの利用技術については、ミニシンポジウムや現地検討会も開催して地域での普及促進を図った。また、広島大学よりインターンシップの学生を受け入れ、病虫害の生態解明と防除法などについて指導した。2核リゾクトニアを利用した病害防除に関しては、岐阜大学と協定研究「土壌病害の診断および防除技術開発に関する研究」を締結した（2016年3月まで）。

・その他

三浦一芸主任研究員の「分子生物学的手法を利用した新しい害虫防除技術開発に関する一連の研究」に対して、日本応用動物昆虫学会 2015 年度学会賞が授与された。また、世古智一・三浦一芸両主任研究員の飛ばないナミテントウの育成と利用技術開発の成果については、農研機構の NARO RESEARCH PRIZE 2014、平成 26 年度（第 10 回）若手農林水産研究者表彰（農水省）も受賞し、NHK の科学番組「サイエンス ZERO」でも放映されるなど注目を集め、2014 年農林水産研究成果 10 大トピックス（農水省）の第 1 位となった。

Ⅲ 研究の実施状況

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：大麦育種研究グループ
- ・研究担当者：吉岡藤治、高橋飛鳥
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①温暖地西部の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成、②胚乳成分等を改変し付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成に取り組んだ。①では、早生・多収で精麦白度が高い六条裸麦「四国裸 132 号」を奨励品種決定調査に新たに配付した。長崎県との共同育成による味噌用裸麦系統として「長崎裸 1 号」を選抜した（次年度に品種登録出願予定）。また「オンデマンド事業」で、モチ性品種・系統の栽培試験と「キラリモチ」の加工試験を開始した。②では、「バリューチェーンプロ」において「四国裸糯 127 号」を含む *amo1* 遺伝子を持つ系統の品質特性や製粉・製麺加工特性について検討し、また、所研究強化費において「キラリモチ」「せときらら」「ゆめちから」のホームベーカリー用パンミックス粉を開発して、共に新規用途開発の可能性を見出した。「機能性食品開発プロ」においては、「キラリモチ」の高 β -グルカン化追肥体系を明らかにするとともに、ヒト試験用の麦ごはんレトルトパック（1日2食×100名×12週間分）の製造・配付を手配した。摂食期間は終了し、試験結果を解析中である。

・主な研究成果

2011 年度に育成した低硝子率の六条裸麦品種「ハルヒメボシ」について、奨励品種に採用した愛媛県から示された普及状況・計画（「マンネンボシ」代替として 2018 年産で約 1,600ha）を受けて普及成果情報「硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収の裸麦品種『ハルヒメボシ』」として提出し、大課題「作物開発・利用」の主要普及成果として採択された。

・広報・普及・産学官連携活動

「もち麦」人気を中心に新たな展開が期待される国産裸麦の生産と利用」をテーマに中国四国地域マッチングフォーラム（10/8）を香川県高松市で、「大麦パワーで生活習慣病をやっつけろ！ーメタボはダメよ～ダメダメ!!ー」をテーマに、高 β -グルカン大麦利用連絡会第 2 回オフラインミーティング（12/13）を東京で開催した。ベーカリー素材 EXPO（6/18）に「キラリモチ」シフォンケーキを出展した。食と農のサイエンスカフェ in ふくやま（9/27）で大麦・裸麦について、コーディネーター支援研修（12/11）で国産もち麦品種について、医食農連携プラットフォーム研究会（1/31）で健康機能性食材としてのもち麦を紹介した。

美作大学などと「要介護高齢者を対象とする『キラリモチ』もち麦ごはんの健康機能性評価」について協定研究を結び、継続摂取による排便効果についての試験を開始した。8月に新居浜高専からのインターンシップ 1 名を受け入れた（その時の研究成果を育種学会で連名発表）。

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：大豆育種研究グループ
- ・研究担当者：高田吉丈、猿田正恭
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成、②草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発、③大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発に取り組んだ。①では、ラッカセイわい化ウイルス（PSV）抵抗性遺伝子を「サチユタカ」に導入した 2 系統が PSV 抵抗性を有することを接種試験で確認した。また、「つるの卵 1 号」の有するインゲンマメ南部モザイクウイルス（SBMV）抵抗性遺伝子が第 9 染色体に座乗することを明らかにした。②では、海外品種との交配後代の「善系 124 号」、「善系 125 号」、「善系 126 号」などを生産力検定試験に供し、標準品種に比べて 20%程度多収の系統があることを明らかにした。また、醤油用の権利保護品種「たつまる」は、兵庫県の一部で平成 27 年度より実用生産を始めることになったので、限定普及品種へ格上げした。③では、晩播で多収になる味噌用品種「あきまる」は、広島県で奨励品種に採用され、普及成果情報としてまとめた。

・主な研究成果

Ⅲ 研究の実施状況

普及成果情報：淡色味噌に好適で晩播栽培において多収の大豆品種「あきまる」

研究成果情報：大豆のラッカセイわい化ウイルス抵抗性遺伝子の座乗位置

「あきまる」奨励品種採用：広島県

「たつまる」限定普及に格上げ：普及地域は兵庫県たつの市

・ 広報・普及・産学官連携活動

平成 26 年度全国農業システム化研究会飼料用米・大豆の生産拡大に関する情報交換会（東海近畿北陸ブロック、平成 26 年 10 月 24 日）において、専門技術員に全国の大豆育成地で最近開発された大豆品種の特性を紹介した。

・ 領域名：作物機能開発研究領域

・ 研究グループ名：食品機能性研究グループ

・ 研究担当者：野方洋一、齋藤武、川瀬眞市朗、阿部大吾

・ 研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農作物成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発、②加齢に伴う生体防御機能の低下を抑止する農作物成分の作用の解明と利用技術の開発、③かんきつ成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発、④麦類に関する抗酸化能の評価、⑤需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発に取り組んだ。①では、ロスマリン酸が筋培養細胞の SIRT1 タンパクを増加させ、PGC1 α の脱アセチル化を促進することにより脂肪酸酸化を増加させることを明らかにした。ロスマリン酸の作用機序に関する本成果は、海外英文誌に投稿中である。また、ロスマリン酸は食餌誘導性肥満マウスの経口糖負荷試験の値を改善することを明らかにした。引き続き、動物試験で詳細を検討し、ロスマリン酸の肥満動物に対する有効性を明らかにする。②では、ノビレチンが、グランザイム B の発現制御に関与する可能性がある CREB および p38 MAPK のリン酸化を促進することを明らかにした。今後は、動物での効果を明らかにするために、マウスを用いてナチュラルキラー細胞の活性化およびサイトカイン産生に対する有効性を調べる。④では、小麦の主要品種の L-ORAC 値を測定し、大麦、小麦全粒粉の L- および H-ORAC 試験を完了した。今後は、加工品についてデータを収集する予定である。⑤では、イオン交換樹脂の利用により、コメのガム油から酸性糖化合物画分をグラム規模で精製する条件を確立した。今後は、精製効率の良いイオン交換樹脂を選定し、特許出願を予定している。

・ 主な研究成果

ノビレチンのナチュラルキラー細胞活性化の作用機序に関する成果は、海外英文誌および研究成果情報「ノビレチン等ポリメトキシフラボノイドはナチュラルキラー細胞を活性化する」としてまとめた。また、ジテルペンの上記効果に関する研究成果も英文誌に掲載予定である。ふすま自己消化ペプチドの非アルコール性脂肪性肝炎モデルマウスの病態改善効果について、研究成果情報「小麦ふすま自己消化物の非アルコール性脂肪性肝炎モデルマウスに対する効果」としてまとめた。また、中課題主要成果として採用された。

・ 広報・普及・産学官連携活動

農作物成分によるナチュラルキラー細胞の活性化について食品流通問題別研究会で紹介し、米糠の酸性糖については研究会で発表した。産学官連携活動として、ふすまペプチドに関する共同研究（大学）、米糠の酸性糖に関する協定研究（民間企業）を実施し、研究の推進に努めた。

・ 領域名：傾斜地園芸研究領域

・ 研究グループ名：カンキツ生産研究グループ

・ 研究担当者：根角博久、細川雅敏、星典宏、中元陽一、國賀武、植山秀紀、向井章恵

・ 研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①軽労化と高品質果実生産を可能とする園地整備技術と運搬作業体系の確立、②栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発、③ブランド化支援のための技術の実証と体系化に取り組んだ。①では、園内道設計のための支援システムに、切り盛り土量の算定機能および縦・横断図などの作図機能を付加し、操作マニュアルを作成した。また、高機能モノレールと動力運搬車による 2 人組作業で、1 列あたりの作業時間が 3 分の 2 に短縮されることをシミュレーションで明らかにした。さらに、切株掘削機を利用することで、作業道造成の

Ⅲ 研究の実施状況

障害となる切り株処理の作業時間を、人力による伐根に比べ2分の1程度に短縮できることを確認した。また、物理モデルのWEPPを適用すると水源への土砂流入の予測値と実測地がおおむね一致することや、土砂流入量と全リン流入量との間に高い相関があることを明らかにした。②については、「はれひめ」において、簡易土壌水分計の積算水位低下量を指標として目標糖度以上の果実を生産できることを実証した。また、葉の水ポテンシャルを基準として、その変化を予測し、目標値に近づけるアルゴリズムを換装した電磁弁制御器を試作した。さらに、電源のない園地で園内温度を精密に測定できる気温自動収集装置を試作するとともに、反射率や透湿性の異なるマルチシートを作製し、それらの被覆による苗木の生育促進効果を確認した。③については、開発してきた技術の体系的な活用方法を示すとともに、「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）」において実証を開始した。なお、開発中の小型除草ロボットについて、利用技術の開発などの研究も推進した。

・主な研究成果

測量をせずにPC上で園内道などの設計を検討できるシステムについては、研究成果情報「傾斜地カンキツ園における園内道整備のための設計支援システム」としてまとめた。また、「農業支援情報の基盤となる50mメッシュ気温データの作成手法」を普及成果情報としてまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

カンキツ革新技術フォーラム、アグリビジネス創出フェア、しまなみカンキツフェスタなどで研究内容について紹介した。また、小型除草ロボットについて、農作業安全セミナー、中国四国アグリテックセミナーなどで一部を紹介した。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：傾斜地野菜生産研究グループ

・研究担当者：川嶋浩樹、佐藤恵一、松田周、黒崎秀仁、畔柳武司、吉越恆、杉浦誠、添野和雄、矢野孝喜

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、中課題「温暖地施設園芸」に関連する、①施設園芸における環境制御技術の開発、②省資源パイプハウスの開発と実証、③自然エネルギー利用型栽培装置等の開発および④中課題「新形質花き創出」と関連するオーキシシン合成阻害剤を利用した草姿制御技術等の開発に取り組んだ。①では、温室における二酸化炭素施用におけるその施用効率の評価手法、循環扇の適切な配置法などを提示した。また、細霧冷房を乾湿球温度差に基づいて制御することにより、夏季においてもハウス内を外気温並みに維持できること、簡易設置型パッドアンドファンにおいて、パッド風速を1m/sとすることで冷房効率が最大になることなどを解明した。これらは、施設園芸における安定生産技術として意義のある技術である。②では、開発した日本型日光温室などを寒冷地への適用を図る実証試験（「先端プロ（中山間施設園芸・岩手）」）に供し、寒冷地においても保温性の高い構造であることや耐積雪性があることなどを明らかにするとともに、3次元室温推定モデルを作成した。保温技術として有効な布団資材の利用については、国内メーカーから製品化されるなど普及が進みつつある。③では、太陽エネルギー利用型灌水システムを利用した簡易養液栽培での施肥条件の改善方向を明らかにした。④では、パラフェニルボロン酸（PPBo）とフェニルボロン酸（BBo）がグラジオラス小花に対して開花遅延、鮮度保持効果を示すことなどを明らかにした。

・主な研究成果

温室における増収技術として重要な二酸化炭素施用に関して、これまで測定が難しかったその施用効率の評価手法を研究成果情報「温室へ施用した二酸化炭素の施用効率の評価手法」として取りまとめた。平成24年度普及成果情報で取りまとめた成果のうち、布団資材の活用については、温室の省エネ技術として有効なため民間企業（3社）から多層断熱資材が製品化され、普及が進みつつある。

・広報・普及・産学官連携活動

広報連携重点的促進費「施設園芸における布団資材の断熱性向上と用途拡大による実用化」、広報連携基礎的促進費「防風ネットによる温室暖房省エネ実証のための協力機関の開拓」によるセミナーの開催、GPEC2014とアグリビジネス創出フェアへの出展などの活動を行った。民間企業との共同研究1件、協定研究5件を実施中。新居浜高専（2名）、宇都宮大（1名）からインターンを受け入れた。

・その他

Ⅲ 研究の実施状況

佐藤恵一主任研究員の「Analysis of normalized daily change of air temperature using an S-shaped function to detect fog occurrence」に対して、日本農業気象学会論文賞が授与された。

- ・領域名：傾斜地園芸研究領域
- ・研究グループ名：園芸経営研究グループ
- ・研究担当者：棚田光雄、齋藤仁藏、堀江達哉
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①新しい「団地型マルドリ方式」の運営モデルの策定、②マルドリ方式を軸とするカンキツ作経営モデルの作成、③カンキツ作及び施設トマト作の多角化型ビジネスモデルの作成に取り組んだ。①では、「団地型マルドリ方式」導入事例を参加農家の戸数と規模により類型化し、各類型の特徴を踏まえて技術導入のあり方を検討する必要があること、園地流動化などによって類型の変化が起こり得るため、さまざまな事態に対応できるような管理運営ルールの検討が重要になることを指摘した。②では、現地実証地区の実態調査から、家族農業専従者2.5人、中晩柑を組み合わせ労力配分に考慮した品種構成、園地基盤整備や機械化の進展を条件に3～4haの大規模カンキツ作経営の形成を展望した。また、新しい「団地型マルドリ方式」の導入において、現状の施設負担面積（120a）の下で追加費用（施設償却費）が10万円/10a弱と見込まれることから、それを上回る追加粗収益を得るために、求められる高品質化実率（特選品比率）の目標値を試算して示した。③では、トマト加工およびカンキツ加工の先進的事例を対象にビジネスモデル視点から多角化の取り組みの特徴を検討した。トマト加工の事例では、生食品のブランド確立が加工品の訴求力を高めること、原料の厳選や栽培方法の特殊化による商品の差別化が有効であることなどを明らかにした。また、カンキツ加工の事例では、これまでにない高級ミカンジュースの提案とその価値の提供、高級志向をもつ消費者への顧客の絞り込み、試飲販売（対面販売）による社員自らの新規需要の掘り起こしが事業展開のポイントになることを明らかにした。

・主な研究成果

高品質原料用果実の糖度選別、原料品質を損なわない搾汁方式、高級ジュースとデザートなどの詰め合わせセット化により、生産・加工・販売の各過程での差別化を積み重ね利益をあげる加工事業拡大型カンキツ作ビジネスモデルを提示した。また、「マルドリ方式」を改植時に導入し未成園期間を2年短縮すれば、同期間中の労働費などの減少により育成費用が80%程度まで節減すること、高所得が期待される品種において収益面で有利性が発揮されることを生産モデルの試算により明らかにし、それぞれ研究成果情報「高品質原料用果実を活かした加工事業拡大型カンキツ作ビジネスモデル」および「カンキツ未成園における「マルドリ方式」の有効性と導入条件」として取りまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動研究

『「団地型マルドリ方式」導入の手引き』を生産者・指導機関に広く配布した。また、「団地型マルドリ方式」について、現地実証試験による具体的な取り組みを通して普及促進を図った。

- ・領域名 環境保全型野菜研究領域
- ・研究グループ名 生産基盤研究グループ
- ・研究担当者 伊藤陽子、福永亜矢子、佐藤恵利華
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①土壌病害虫被害の予測・診断技術の開発、②病害虫低減技術の開発と現地実証、③農産物の食品機能性物質の評価と栽培・育種への応用に取り組んだ。①では、ハウレンソウ萎凋病について土壌中の病原菌密度と水分条件が発病に及ぼす影響を調査し、病原菌低密度条件下では高水分条件で発病率が高くなることを明らかにした。ベビーリーフの *Rhizoctonia* 属菌による立枯性病害のDRC（土壌中の菌密度－発病度曲線）を作成するため、供試病原菌を選定し、接種密度制御法を確立した。これらの成果は当該病害発生に対する予測診断技術の開発および精度向上に役立つものである。②では、アブラナ科根こぶ病に対し、農家雨よけハウスにおいて、ダゾメット併用による発病低減効果を確認した。ハウレンソウ萎凋病に対し、京都府船井郡の現地農家雨よけハウスにおいて、カラシナ加用土壌還元消毒の有効性を確認した。これら現地試験の結果は、技術の現場への普及に役立つものである。③では、農産物カロテノイド由来の抗酸化性物質として、SOAC値測定のための技術移転講習を実施し測定を開始、

Ⅲ 研究の実施状況

ホウレンソウ品種、栽培時期による変動を調査した結果、品種間差異が認められた。機能性の指標となる物質の定量法の実用性を示すとともに、ホウレンソウにおける品種間差異を明らかにしたことは、食品機能性に着目した品種育成の基礎資料として有益である。

・主な研究成果

分子生物学的手法を用いた土壌中のサツマイモネコブセンチュウ密度測定法およびセンチュウ密度と被害の関係性についての知見を原著論文として発表するとともに、普及成果情報「殺線虫剤削減にむけた砂質土壌におけるサツマイモネコブセンチュウ被害予測」として取りまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

分子生物学的手法を用いたセンチュウ密度と被害程度の予測について近畿地域マッチングフォーラムで紹介した。また、一般市民への広報活動として、野菜の病原菌を中心に微生物について食と農のサイエンスカフェ in ふくやま(8/23)で話題提供したのに加え、地元のFM局でラジオ出演し、グループの研究紹介を行った。

・領域名：環境保全型野菜研究領域

・研究グループ名：野菜生産研究グループ

・研究担当者：生駒泰基、村上健二、吉田祐子、山崎敬亮

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①野菜の生育促進、高品質化に有効な光質制御資材の開発や遮光技術の開発、②小型ハウスに適用できる簡易設置型パッドアンドファン(PF)冷房技術の開発、③開発した技術の現地実証試験に取り組んだ。①イチゴにおいて、紫外線B波によるうどんこ病の発病抑制は昼間より夜間の照射で効果が優り、緑色防蛾灯によるヤガ類の加害抑制は終夜点灯で効果が高いことを明らかにした。両者の同時使用によってもそれぞれの効果は維持され、花芽形成や天敵類の活動にも影響を及ぼさないことを明らかにした。また、夏作ホウレンソウの暑熱対策として用いる遮光資材の効果は天候に左右されるが、日射量と生育との関係から、生育促進に有効となる遮光の閾値は、実測遮光率50%資材で日積算日射量が14.6MJ/m²/dayであることを確認した。②ではトマトの光合成速度、果実品質への影響を明らかにするとともに、PF冷房装置を利用したトマト苗の育苗装置を作製し、育苗装置内は対照区のハウス内より5℃程度気温が低下して、苗の生育および定植後の着果も対照区よりも促進されることを明らかにした。③では夏作ホウレンソウ栽培において、品質向上のための遮光制御技術と萎凋病対策の生物的土壌消毒技術について、現地で体系化の実証試験を行い、その効果や作業性において相互に障害とならないことを確認した。

・主な研究成果

簡易設置型パッドアンドファン冷房装置から放出される加湿冷気によって、トマトの葉の気孔閉鎖が抑制され、塩ストレスによる光合成速度の低下が緩和される。塩ストレスを与える栽培にパッドアンドファン冷房を組み合わせると果実糖度が上がる傾向を示すことを明らかにした。

・広報・普及・産学官連携活動

「FMいかる(京都府綾部市のコミュニティFM)」の帯番組『農業のライフ&ワーク』に出演し、各研究員が担当している開発技術について紹介を行った。

・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域

・研究グループ名：黒毛和種放牧飼料研究グループ

・研究担当者：山本直幸、大谷一郎、大島一修、柴田昌宏、後藤裕司、松本和典、堤道生

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術、②肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術、③自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術、④牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方策の開発に取り組んだ。①では、放牧期間延長技術の検討から、積雪の少ない温暖低標高地のススキ優占草地は、繁殖牛の妊娠中期までの冬季放牧地として活用でき、連年での冬季放牧後の分娩においても子牛の生時体重や発育性には影響しないことを明らかにした。また、シバ型草種であるセントオーガスチングラス(SA)の放牧地での被度はセンチピードグラスなどよりも高まること、庇蔭下でもSAの被度が高まることを確認し、晩秋季

Ⅲ 研究の実施状況

以降の利用可能性を示した。さらに、ライフサイクルアセスメント（LCA）による粗飼料多給型肉用牛肥育システムの環境影響評価から、肥育期間全体での環境影響が低減されるが、増体成績の低下により増体量あたりでの環境影響低減効果は相殺されることを明らかにした。②では、高糖分飼料イネ「たちすずか」WCS 給与により、繁殖牛では血中のビタミン E 濃度が高くなり分娩後の子宮修復が促進されること、過剰排卵措置後の採胎成績には影響しないこと、育成牛では WCS 切断長の違いによる発育性の差は認められないことを明らかにした。③では、去勢牛について、肥育中期に冬から春のイタリアンライグラス草地放牧と「たちすずか」WCS 多給を組み合わせた飼養で、肥育および枝肉成績は、慣行法とおおむね同等であること、筋肉内のレチノール含量には影響はなく、 β -カロテンは蓄積が認められ、肉質改善が見込まれることを明らかにした。自給飼料率は慣行法の 15.2% から 38.1% に上昇、飼料費は約 10% の削減を可能とした。「放牧仕上げ熟ビーフ[®]」では、生産者、普及組織などによる「熟ビーフ」連絡会と連携して生産・普及活動を行っている。④では、発情発現明瞭化と受胎率の安定化を図るための効率的な発情誘起技術の開発に取り組んでいる。

・主な研究成果

放牧期間延長技術は、周年放牧への導入が期待されることから研究成果情報「冬季のススキ優占草地は子牛生産性に影響を及ぼすことなく放牧利用できる」としてまとめた。SA の生育特性、肥育システムにおける LCA、WCS 給与による肥育成績などは、生産現場での利活用に結びつく成果で新規性が高く、原著論文として発表した。

・広報・普及・産学官連携活動

「たちすずか」普及連絡会とたちすずか情報連絡会（農研機構畜産草地研究所）との情報交換により連携を図った。「熟ビーフ」連絡会とともにイベントに出展し、取組事例紹介、試食提供、アンケート調査を行った。

・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域

・研究グループ名：鳥獣害対策研究グループ

・研究担当者：江口祐輔、上田弘則、堂山宗一郎

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①イノシシ被害を抑制する草地管理技術の確立②電気刺激を用いた被害対策技術の開発、③野生動物の侵入防止技術の開発、④野生動物の被害を抑制する竹林管理技術の確立、⑤シカにおける研究環境の整備に取り組んだ。①では、これまでにライ麦はイノシシの被害を受けにくいことを明らかにしたが、このライ麦を多品種の牧草と混播することの被害抑制効果を検証した。②では、被害作物に直接通電させることで野生獣に嫌悪刺激を与えられることを明らかにし、シイタケ栽培などで新しい電気柵の使用方法を開発した。③では、多獣種に対して歩行困難となる技術の実証試験を行った。④では、竹林の間伐比率を高めて野生動物の出没状況を調査している。⑤では、シカの放飼場と隔離および弁別試験を行うシカ舎を完成させた。

・主な研究成果

イノシシ被害を抑制する草地管理技術については、イノシシにおける牧草の摂食行動、被害予測、そして、その被害対策に焦点をあてた研究はなく、新規性と現場への影響が大きいことから原著論文として投稿中である。

シカの本格的な試験開始に先立ち、シーズ創出のために、広島県内においてシカの行動調査を行い、誘引や電気柵に対する反応データを収集している。

・広報・普及・産学官連携活動

研究グループとして、年間 50 回を超える受託の被害対策研修を行い、近畿中国四国管内をはじめ、全国で研修普及活動を行った。研修内容は、大型・中型哺乳類や鳥類の対策、獣害に強い環境管理、被害を軽減させる捕獲方法など多岐にわたった。また、近畿中国四国農業研究センターの主催で鳥獣被害対策技術指導研修会を開催し、今年度は徳島県で年間 5 回研修を行った。また、大学、高校、小学校において特別講義や出前授業を行い、次世代の人材育成にも力を入れた。研究グループの成果については、年間を通して農業雑誌、農業新聞、畜産雑誌、農業共済誌に連載、掲載された。学術論文は 1 編が掲載された。また、本研究グループの現場における長年の取り組みが評価され、今年、中国新聞社の取材班が出版した「猪変（いへん）」において、地域への貢献、研究に対する姿勢が研究者のあるべき姿として記載されている。

IV 平成 26 年度研究予算課題一覧

I 食料安定供給のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地域の条件・資源を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立		
(1) 新世代水田輪作の基盤技術と低コスト生産システムの構築		
ア 地域の条件に対応した低コスト・高生産性水田輪作システムの確立と実証		
(ア) 中小規模水田に対応した生産性向上のための輪作システムの確立		
a 地下水位制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発		
(a) 地下水位制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地下水位制御システムを利用した水稻の節水型直播栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 大豆の不耕起密条無中耕無培土栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 小麦と大麦の安定多収高品質栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 塩安肥料が小麦子実カドミウム濃度に及ぼす影響の解明	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(f) 地下水位制御システムを利用したダイズ多収栽培技術の開発(ダイズ栽培と圃場試験の専門知識、手法の習得)	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(g) 水源不足圃場での地下水位制御システム活用効果の実証	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
b 水稻直播・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発		
(a) 食用米・新規需要米の乾田直播栽培の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 大豆の狭畦無中耕無培土栽培技術の開発および現地実証	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 大豆の青立ち等被害の防止技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 播種作業における播種機調整の半自動化	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 簡易耕による麦類・大豆栽培技術の開発	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 低草高型草種による畦畔法面の省力的管理技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 水稻乾田直播栽培における新規除草体系の確立	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(h) 水稻直播栽培における出芽、苗立ち安定化技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(i) 苗立ち安定化のための湛水直播水稻種子近傍の微生物群プロファイリング	輪作体系研究グループ 病虫害研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(j) 大豆の収量限界向上に向けた基盤研究	輪作体系研究グループ 農地・水環境研究グループ 病虫害研究グループ	運営費交付金(社会的 要請等対応研究費)
(k) 大豆晩播による外来難防除雑草防除技術の開発	機械作業・情報研究グループ 農地・水環境研究グループ 輪作体系研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(l) 芝生畦畔転換技術の実証	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(m) 大豆品種「あきまる」の晩播狭畦栽培と味噌加工品質評価	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(n) 畦畔法面の植生転換による管理作業の省力化	輪作体系研究グループ	再エネ
(o) 小型ロボット利用技術の開発/実用機の結合試験を踏まえた改良および芝生畦畔における除草実証試験	輪作体系研究グループ	低コスト
(p) 水稻湛水直播栽培における種子近傍土壌微生物相変化と出芽性に関する研究	輪作体系研究グループ	助成金

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
c 中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価		
(a) 中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地下水位制御システムを導入した高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価	農業経営研究グループ 輪作体系研究グループ 病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(2) 土地利用型耕種農業を支える先導的品種育成と基盤的技術の開発		
ア 米粉等加工用・業務用水稲品種の育成及び米の未利用成分利用技術の開発		
a 気象変動に対応し、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稲品種の育成		
(a) 温暖地西部向き水稲品種の育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 低カドミ吸収イネ品種の実用化に向けた系統育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) ゲノム情報を利用したイネ高温耐性品種の育成(2)温暖地西部向き優良品種	水稲育種研究グループ	気候変動
(d) 胴割れ米発生率が低い高温耐性品種の育成	水稲育種研究グループ	気候変動
(e) ジーンバンク事業	水稲育種研究グループ	ジーンバンク
b 低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺用等加工向け多収水稲品種の育成		
(a) 加工向け多収水稲品種の育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 温暖地に適した米粉用多収水稲品種の開発	水稲育種研究グループ	低コスト
c 米粉利用などに適した穀粒成分特性の解明と利用技術の開発		
(a) 製粉特性の優れる系統の簡易選抜法の開発および品質特性の解明	水稲育種研究グループ	運営費交付金(一般)
d 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発		
(a) 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 水稲収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定多収素材の開発		
a 収量性 QTL の収量向上効果の検証と多収水稲の理想型モデルの確立		
(a) 収量ポテンシャル向上に適した穂のシンク構造の評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 代用花粉の給与によるミツバチ行動制御による成長促進効果の実証—温暖地	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
b 気象変動に対する生育・品質・収量等の安定化に関与する遺伝的要因と生理生態機構の解明		
(a) 収量安定性に寄与する 1 穂粒数の変動性の解析	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 登熟期の高温が水稲胚乳組織の発達・老化に及ぼす影響の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般) 助成金 科研費
ウ 気候区分に対応した用途別高品質・安定多収小麦品種の育成		
a 栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成		
(a) 子実へのカドミウムの蓄積性が低い小麦系統「中国 165 号」の品種化に向けたカドミウム蓄積性、赤かび病抵抗性の継続的評価	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) 兵庫県内製パン企業における小麦新品種「せときらら」を用いたパン試作	小麦育種研究グループ	産学官連携活動促進費
(c) 温暖地及び暖地向けパン・中華めん用小麦品種の育成	小麦育種研究グループ	バリュープロ
(d) ジーンバンク事業費/植物遺伝資源部門(特性評価・再増殖)	小麦育種研究グループ	ジーンバンク
b 小麦の品質向上技術の開発		
(a) 品質関連遺伝子型解析とグルテンポリマー解析による国内品種系統の加工適性の評価	小麦育種研究グループ	バリュープロ
(b) 新たな実需ニーズに応える寒冷地・多雪地向け新需要大麦品種等の育成と普及	小麦育種研究グループ	農食研究推進事業
c DNA マーカー等の開発・利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発		
(a) 普通小麦の有用遺伝子の導入によるデュラム小麦の国内安定生産を可能にする育種素材の開発	小麦育種研究グループ	運営費交付金(先行的・試行的研究促進費)
エ 需要拡大に向けた用途別高品質・安定多収大麦品種の育成		
a 栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成		
(a) 大麦遺伝資源の特性調査と増殖	大麦育種研究グループ	ジーンバンク
(b) モチ性裸麦品種・系統の地域適応性・加工適性試験	大麦育種研究グループ	オンデマンド事業
b 胚乳成分等を改変し、付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成		
(a) 良色相・高整粒歩合の高βグルカン含量の大麦品種の育成	大麦育種研究グループ	バリュープロ
(b) 「キラリモチ」の高位安定化栽培技術の開発	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (機能性食品プロ)
(c) モチ性大麦粉および高製パン性小麦粉を利用した高機能性大麦パンミックス粉の開発	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
オ 気候区分に対応した安定多収・良品質大豆品種の育成と品質制御技術の開発		
a 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成		
(a) 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 大豆の収量限界向上に向けた基盤的研究	大豆育種研究グループ	運営費交付金(社会的要請等対応研究費)
(c) 高温・干ばつ耐性の導入とマーカーの開発	大豆育種研究グループ	気候変動
(d) ジーンバンク事業	大豆育種研究グループ	ジーンバンク
(e) ダイズウイルス病に対する抵抗性遺伝子の単離と機能解明、育種利用	大豆育種研究グループ	ゲノム
b 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発		
(a) 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
c 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発		
(a) 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(3) 農業技術の経営的評価と経営管理システムの確立		
ア 新技術の経営的評価と技術開発の方向及び課題の提示		
a 農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示		

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(a) 近畿中国四国における農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 日本型アグロパストラルの成立条件の解明	農業経営研究グループ	科研費
b 経営部門別新技術及び技術体系の経営的評価と普及手法の提示		
(a) 中山間水田作地域における先進的経営の評価と課題解明	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 新技術・新品種の導入・普及が地域に及ぼす経済効果の解明	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 地域農業を革新する6次産業化ビジネスモデルの構築		
a 多角化型園芸作ビジネスモデルの策定		
(a) 中山間地のトマト作等施設園芸経営における多角化ビジネスモデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) カンキツ作経営における多角化ビジネスモデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
b 多角化型園芸作ビジネスモデルの構築		
(a) シャインマスカットを導入するブドウ経営のビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 人・地域づくりに貢献する主体形成・価値創造型の農業・農村支援モデル	農業経営研究グループ	科研費
c 直売所を核とした地域農業多角化ビジネスモデルの策定		
(a) 中山間地域における直売所活動の多角化ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 新商品の消費者評価	農業経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(c) 小規模有機農家の販売収入確保を図る直売市ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 観光客をターゲットにした直売所ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
ウ 新規参入経営支援のための経営管理技術の開発		
a 技術・収支データベースと標準財務指標を組み込んだ経営診断システムの開発		
(a) 農業経営診断手法の構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 永年性木本作経営における有生固定資本財の評価法に関する研究	農業経営研究グループ	科研費
2 自給飼料基盤の拡大・強化による飼料生産性向上と効率的利用技術の開発		
ア 低コスト栽培向きの飼料用米品種及び稲発酵粗飼料用品種の育成		
a 低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種の育成		
(a) 温暖地西部向き多収飼料用米品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
b 高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成		
(a) 温暖地西部向き稲発酵粗飼料用品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 多収で消化性に優れた稲発酵粗飼料用品種等の育成	水稻育種研究グループ	低コスト
イ 地域条件を活かした多様な自給飼料多給型家畜生産及び高付加価値畜産物生産技術の開発		
(ア) 飼料用稲や牧草等の多様な自給飼料資源を活用した高品質牛肉生産技術の開発		
a 高糖分飼料用稲等の生産・調製支援システムの開発		

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(a) 牧場調製型収穫システムの開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) WCS 用稲収穫機改良および現地試験機器の整備	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(c) 画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした 微細断収穫調製・給与体系の開発実証	機械作業・情報研究グループ	農食研究推進事業
b 牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発		
(a) 黒毛和種繁殖雌牛の MPT を活用した放牧地評価	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(b) 資源循環型および自給飼料多給型肉用牛生産システムの LCA	黒毛和種放牧飼料研究グループ	科研費 運営費交付金(一般)
(c) 放牧用草種の生育特性解明と造成技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
c 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発		
(a) 黒毛和種繁殖雌牛の子育て能力と CD38 遺伝子変異との関連性解析	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業
(c) 分娩後に良好な繁殖性を発揮できる黒毛和種繁殖牛への「たちすずか」WCS 給与手法の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(d) 黒毛和種繁殖牛における繁殖成績向上のための飼養給与プログラムの開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
d 自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発		
(a) 自給粗飼料を活用した黒毛和種去勢牛の肥育技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般) 科研費
(b) 耕作放棄地等を活用した黒毛和種去勢牛の放牧肥育に関する研究	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(c) 肉用牛における暑熱期の栄養素配分と筋肉性状の関連解明に基づく飼養管理技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	気候変動
(d) 放牧仕上げ熟ビーフ	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 放牧仕上げ熟ビーフの取り組み強化に向けた現場活動	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(広報連携重点的促進費)
3 家畜の代謝特性に基づく飼養管理及び家畜の安定供給のための育種・繁殖技術の開発		
ア 受精・妊娠機構の解明と調節による雌牛の繁殖性向上技術の開発		
a 牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方策の開発		
(a) 効率的な発情誘起技術および非侵襲性発情発見装置の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
4 園芸作物の高収益安定生産システムの開発		
(1) 日本型の高収益施設園芸生産システムの構築		
ア 日光温室等の活用による温暖地における高収益・安定生産施設園芸技術の開発		
a 日本型日光温室およびパイプハウスリノベーション技術の開発		
(a) 日本型日光温室の半閉鎖環境における CO2 環境の解析	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) CO2 長期・長時間施用を核とした環境制御技術を開発し東海地域の園芸産地を活性化する	傾斜地野菜生産研究グループ	農食研究推進事業
(c) 数値流体力学を用いた解析による温室の隙間換気の推定	傾斜地野菜生産研究グループ	科研費
(d) パイプハウス耐風対策のための強風域推定手法の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(e) 多層断熱被覆資材等を利用したパイプハウスの保温性向上技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 日本型日光温室等に利用できる省エネルギー対策資材の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(g) 施設園芸における布団資材の断熱性向上と用途拡大による実用化	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(広報連携重点的促進費)
(h) 防風ネットによる温室暖房省エネ実証のための協力機関の開拓	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(広報連携重点的促進費)
b 中山間地域資源を活用した環境負荷低減制御技術の開発		
(a) 西南暖地を中心にした施設園芸向け未利用熱エネルギーの発掘	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般) 再エネ
(b) 低コスト細霧冷房システムの実用化	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 日光温室の導入検討に活用できる支援システムの開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 温室内の多湿・結露を軽減する環境制御法の提示	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
c 日本型日光温室等による夏秋トマト生産を核にした高収益・周年安定生産技術体系の構築		
(a) 地域特性に合わせた周年栽培に適する園芸作物の選定	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 簡易設置型パッドアンドファンによるトマト安定生産技術の確立	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(c) 開発技術導入による夏秋トマト作の安定生産・作期拡大技術の実証	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(d) 情報共有化を図る遠隔モニタリングシステム開発と端境期解消生産モデルの構築	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(e) 日射量対応型自動灌水装置による夏秋トマトの節水・減肥肥培管理技術の確立	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般、 革新的緊急展開)
(f) 非低温処理時の環境条件が間欠冷蔵処理効果の発現に及ぼす影響	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(g) 狭隘・不整形な立地や傾斜地に適応する耐候性ハウスの寒冷地における実証研究	傾斜地野菜生産研究グループ	再エネ
(h) 蓄熱・高断熱資材の実用化による暖房コスト低減	傾斜地野菜生産研究グループ	再エネ
(i) 施設内で汎用利用可能な自律走行車両の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(j) 先端センシング技術を活用した表現型自動測定システムの開発	傾斜地野菜生産研究グループ	ゲノム
(k) オンライン群落構造解析(LAI吸光係数など)手法の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	再エネ
(l) オープンCPU基盤を用いた低コスト自律分散型施設環境計測制御情報システムの構築	傾斜地野菜生産研究グループ	科研費
(m) 中小規模園芸ハウスを対象とした複合エコ環境制御技術の確立	傾斜地野菜生産研究グループ	農食研究推進事業
(n) ジーンバンク事業費/植物遺伝資源部門(特性評価・再増殖・栄養体保存)	傾斜地野菜生産研究グループ	ジーンバンク
(o) ジーンバンク事業費/植物遺伝資源部門(イチゴの特性評価・栄養体保存)	傾斜地野菜生産研究グループ	ジーンバンク
イ 分子生物学的手法による新形質花きの創出		
a 遺伝子組換えによる花色・香り・花形等重要形質の改変技術の開発		
(a) オーキシン生合成経路と阻害剤作用の解析	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) モモの硬さ(日持ち性)に関する選抜DNAマーカーの開発	傾斜地野菜生産研究グループ	ゲノム
(c) グラジオラスの開花におけるオーキシンの役割と花持ちへの応用	傾斜地野菜生産研究グループ	科研費

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(2) 果樹・茶の持続的高品質安定生産技術の開発		
ア カンキツのブランド化支援のための栽培情報の高度利用生産技術と園地整備技術の開発		
a 軽労化と高品質果実生産を可能とする園地整備技術と運搬作業体系の開発		
(a) 園内道整備のための設計支援システムの開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 園地整備技術の開発・実証	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(c) モノレールの高機能化技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 傾斜地カンキツ園の作業道整備技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) カンキツ園のかん水のための効率的な水源確保技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 点滴かん水施設の水源における土砂流入量を予測する手法の確立	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 雨水利用のための揚水施設の試作と実証	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
b 栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発		
(a) 低コストな土壌水分、樹体水分状態、樹体栄養状態の簡易指標と ICT の活用によるマルドリ方式の高度利用高品質カンキツ生産支援技術の実証	水田作研究グループ	運営費交付金(一般、革新的緊急展開)
(b) 模擬植物で土壌の吸引圧、ポテンシャル蒸発量、植物の水ストレスを計測する手法の開発	水田作研究グループ	科研費
(c) 樹の水分状態に基づいたかん水管理技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 団地型マルドリ方式の栽培状況の見える化と ICT 活用技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(e) 傾斜地カンキツ園の精密栽培情報評価システムの開発とその新品種導入への利用技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) アメダスデータからの園地環境推定技術と衛星データの活用による栽培適地評価技術の開発・実証	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(g) 数値気象モデルによる柑橘団地の局所蒸発散量推定手法の開発	カンキツ生産研究グループ	科研費
(h) 数値気象モデルによる精密メッシュ気温データ作成技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(i) 栽培環境を制御するマルチ資材の活用指針の策定	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(j) 低コスト化のための耐久性抑草シートと貯蔵シートの開発	カンキツ生産研究グループ	助成金
c ブランド化支援のための技術の実証と体系化		
(a) マルドリ方式を基軸とした生産技術体系と営農モデルの策定	カンキツ生産研究グループ 園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般、革新的緊急展開)
(b) マルドリ方式を軸とするカンキツ作経営モデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 高品質果実生産とブランド化を推進するためのカンキツ産地モデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 畦畔除草ロボット利用技術の実証	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(e) 小型ロボット利用技術の開発/実用機の結合試験を踏まえた改良および芝生畦畔における除草実証試験	カンキツ生産研究グループ	低コスト
(f) タデ藍収穫機の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
5 地域特性に応じた環境保全型農業生産システムの確立		
(1) 土壌生産力の総合的管理による持続的生産技術の開発		
ア 環境負荷物質の広域動態モデル策定と生産技術の環境負荷評価法の開発		
a 土地利用に基づく河川水質予測モデルの広域・汎用化		
(a) 土地利用に基づく河川水質予測モデルの広域・汎用化	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) 河川窒素濃度の高い農業流域における流出窒素の時空間変動実態の解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(c) 水田高度利用技術による人為的地下水位変動が流域の栄養塩類流出に及ぼす影響の解明	農地・水環境研究グループ	科研費
(d) 人工社会を組込んだ水文流出モデルによる水田減少に伴う栄養塩流出変動リスク評価	農地・水環境研究グループ	科研費
(e) 渇水リスク農業地域における持続可能な流域地下水ハイブリッド再利用システムの構築	農地・水環境研究グループ	科研費
b 水質浄化・環境負荷低減技術の開発と実証		
(a) 水質浄化・環境負荷低減技術の開発と実証	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 拍動灌水装置の普及拡大に向けた技術指導および導入実態の調査	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(c) 拍動かん水による果樹の省力的栽培技術の開発	農地・水環境研究グループ	農食研究推進事業
c 水質浄化・環境負荷低減技術の環境影響評価		
(a) 拍動灌水装置を用いた環境負荷低減技術	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業 気候変動
(b) 拍動灌水装置の適用作目拡大の検討	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般、 所研究活動強化費)
(c) 拍動かん水による果樹の省力的栽培技術の開発	農地・水環境研究グループ	農食研究推進事業
(d) 堆肥洗浄による低カリウム堆肥製造の可能性の検討	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般、 所研究活動強化費)
(e) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進(既存情報を用いた化学肥料と地域資源活用のLCA)	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業
(f) ハイブリッド型伏流式人工湿地システムのLCAー活性汚泥法との比較ー	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(2) 生物機能等の農業代替技術を組み込んだ環境保全型病害虫・雑草防除技術の開発と体系化		
ア 土着天敵等を利用した難防除害虫の安定制御技術の構築		
a 優良天敵の効率的選出法と天敵増強法の開発		
(a) 行動解析等に基づいた捕食性天敵の有用形質の評価	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 有用天敵の薬剤抵抗性検討選抜技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 色彩粘着板を用いた微小害虫のDNAによる種判別手法の開発	病虫害研究グループ	発生子察
(d) 農林生態系における捕食者ー捕食者多種系の分子同定システムの開発と実証	病虫害研究グループ	科研費
(3) 環境保全型農業及び有機農業の生産システムの確立		
ア 地域条件に対応した環境保全型生産システムの確立		
(ア) 土壌病虫害診断と耕種的防除技術開発による野菜の環境保全型生産システムの構築		
a メタゲノム解析等を用いた土壌病虫害被害の予測・診断技術の開発		
(a) 土壌病虫害発生リスク評価法の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業
(b)RIPA 法による植物ウイルス病診断の利用拡大	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) レタスビッグベイン病の土壌診断技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 共生ネットワークの分子基盤とその応用展開	生産基盤研究グループ	JST
b 生育制御と病虫害防除に有効な光質環境の解明と照明技術の開発		
(a) 生育制御と病虫害防除に有効な光質環境の解明と照明技術の開発(夏作ホウレンソウにおける遮光が生育促進に効果的な日射条件の解明)	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) 新規赤外線遮断資材が夏季ホウレンソウの生育に及ぼす影響	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 野菜類の生育促進を目的としたフィルム等への吹付型光質制御剤の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(d) 夏作ホウレンソウにおける遮光が生育促進に効果的な日射条件の解明	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(e) 気化潜熱利用培地冷却技術を活用した高設栽培による無育苗栽培法の利用技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(f) 非低温処理時の環境条件が間欠冷蔵処理効果の発現に及ぼす影響	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(g) 温暖化が野菜生産に及ぼす影響評価(ホウレンソウ品質成分・イチゴ開花時期温暖化影響評価)	野菜生産研究グループ	気候変動
c 露地や非閉鎖環境の施設での野菜栽培に活用できる土着天敵利用技術の開発		
(a) 景観植物「スカエボラ」を用いた植生管理技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 土着天敵タバコカスミカメの持続的密度管理によるウイルス媒介虫防除技術の開発・実証	病虫害研究グループ	農食研究推進事業
(c) 持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発	病虫害研究グループ	SIP
(d) 露地果菜類における飛ばないナミテントウ利用法の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) DNAによる捕食歴解析からの捕食性土着天敵の評価	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
d 耕種的手法を中心とした病害虫低減・高品位生産技術の開発		
(a) 緑肥作物等を用いた生物的土壌消毒に用いる鋤き込み資材のリスク評価	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般、 所研究活動強化費)
(b) カラシナ・エンバク等の効果的鋤込み方法の検討と夏作ホウレンソウにおける病害軽減効果の検証	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) アブラナ科野菜根こぶ病の制御技術の開発	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 生物的土壌消毒と持続的土壌管理による土壌病害防除技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 施用効果の安定性に優れ、低コスト省力型栽培を可能にする新規微生物資材の開発	病虫害研究グループ	農食研究推進事業
(f) 還元消毒時の土壌環境変化と消毒効果の関係の解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) トマト黄化葉巻病の生物資材等利用による防除	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(h) レタスピッグバイン病の被害低減効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(i) ジーンバンク事業費/微生物遺伝資源部門(収集・増殖・特性)	病虫害研究グループ	ジーンバンク
(j) 既存の自然換気型温室に利用可能な簡易設置型パッドアンドファン冷房の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
e 地域重要野菜を対象とした技術体系の構築と現地実証		
(a) ホウレンソウの環境保全的高品質・安定生産体系の構築	病虫害研究グループ 生産基盤研究グループ 野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) ホウレンソウにおける害虫防除体系の構築	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) SOAC法による農産物に含まれるカロテノイド類の酸化性評価と栽培・育種への応用	生産基盤研究グループ	農食研究推進事業
(d) 地域重要野菜を対象とした技術体系の構築と現地実証	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) ジーンバンク事業/微生物遺伝資源部門(窓口・収集・特性)	病虫害研究グループ	ジーンバンク
(f) 光質制御被覆資材を用いた生育促進技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 光環境制御によるホウレンソウの品質向上技術に植物材料鋤き込み・被覆処理を組み合わせた栽培法の現地実証	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(h) 中山間の湧水等の資源を活用した局所温度管理による高品質苗生産技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

研究課題名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
イ 有機農業の成立条件の科学的解明と栽培技術の体系化 a 有機畑圃場等における病害虫発生抑制および物質循環機構の解明と輪作モデル体系の構築 (a) カラシナ、エンバク等の効果的鋤き込み方法の検討と夏作ホウレンソウにおける防除効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般) 気候変動
6 ITやロボット技術等の革新的技術の導入による高度生産・流通管理システムの開発 ア 土地利用型大規模経営に向けた農作業ロボット体系の開発 a 通信制御の共通化技術の開発 (a) 作業機用 ECU の開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 多様な農業情報の効率的収集技術及び統合利用技術の開発 a 生産現場における簡易データ収集・統合管理システムの開発 (a) PMS による多筆圃場の効率的な管理技術の実証 (b) データ・機能のオープン化と連携による多圃場営農管理システムの開発 (c) 渇水リスク農業地域における持続可能な流域地下水ハイブリッド再利用システムの構築 (d) 関東地方の過去 130 年間の土地利用・景観変遷データベースの構築と公開	機械作業・情報研究グループ 機械作業・情報研究グループ 機械作業・情報研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開) SIP 科研費 科研費
7 食品の安全性向上及び消費者の信頼確保のための技術の開発 ア かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発 a 栽培体系のリスク評価、追加防除時期の解明等の生産工程管理技術の強化・拡充 (a) 生育予測モデルを活用した小麦の気象対応型栽培技術の開発	栽培管理研究グループ	SIP

II 地球規模の課題に対応した研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地球温暖化に対応した農業技術の開発		
ア 土地利用型作物の気候変動対策技術と栽培管理支援システムの開発		
(ア) 気候変動下における水稻の高温障害対策技術の開発		
a 作物モデルに連動する群落微気象評価手法の開発		
(a) 平年差距離重み付け手法の改良	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
b 高温登熟障害の対策技術の開発		
(a) 温暖地における高品質米栽培法の検定	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般) 気候変動
(b) 変動気象に対応可能な水稻高温障害早期警戒・栽培支援システムの開発	栽培管理研究グループ	農食研究推進事業
(c) 水稻の高温障害発生メカニズムの解明と適応技術の開発	栽培管理研究グループ	SIP
c 気候変動下における地域気象特性を考慮した安定多収栽培技術の開発		
(a) 水稻多収栽培における籾数決定要因の解明	栽培管理研究グループ カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般) 気候変動
(b) 温暖化環境における水稻生産ポテンシャル向上のための形質の特定	栽培管理研究グループ	気候変動
(c) 暖地と温暖地西部に適した業務加工用多収品種栽培技術の開発と実証	栽培管理研究グループ	バリュープロ

III 新需要創出のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農産物・食品の機能性解明及び機能性に関する信頼性の高い情報の整備・活用のための研究開発		
ア 健康機能性に関する成分分析法及び評価法の開発と標準化		
a 農産物・食品の機能性成分含量および機能性・安全性評価データベースの開発		
(a) 主要大麦・小麦品種に含まれる食物繊維等品質成分の分析及びデータベース化	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (機能性食品プロ)
イ 代謝調節作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発		
a 高機能性農産物の特性解明と評価・利用技術の開発		
(a) 農作物成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
b かんきつ・りんご等果実の有効性解明と評価技術の開発		
(a) かんきつ・りんご等果実の有効性解明と評価技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
ウ 生体防御作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発		
(a) 生体防御に関わる健康機能性評価技術の開発と農産物における特性解明	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 26 年度 研究予算課題一覧

IV 地域資源活用のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農業生産のための基盤的地域資源の保安全管理技術の開発 (1) 野生鳥獣モニタリングシステム及び住民による鳥獣被害防止技術の確立 a 省力的で効果の高い侵入防止技術の開発 (a) シカの行動特性に基づく被害防止技術の開発 (b) 感覚刺激を用いた野生鳥獣被害対策技術の開発 (c) 野生鳥獣の運動能力・感覚能力・学習能力の解明 b 地域で実践可能な効果的対策プログラムの確立 (a) 農地周辺の環境管理による獣害軽減技術の開発 (b) 環境管理等に基づく獣害軽減技術の開発	鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ	運営費交付金 (一般) 運営費交付金 (所研究活動強化費) 運営費交付金 (一般) 運営費交付金 (一般) 運営費交付金 (一般)

V 研究情報活動

1. 主な研究成果

研究成果情報名	提出研究領域等
<p>【普及成果情報】</p> <p>淡色味噌に好適で晩播栽培において多収の大豆品種「あきまる」</p> <p>硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収の裸麦品種「ハルヒメボシ」</p> <p>二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバ (<i>Zoysia japonica</i>) の植栽技術</p> <p>殺線虫剤削減にむけた砂質土壌におけるサツマイモネコブセンチュウ被害予測</p> <p>農業支援情報の基盤となる 50m メッシュ気温データの作成手法</p> <p>農産物直売所が都市部に仮説店舗を開設するビジネスモデル「出張直売」</p>	<p>作物機能開発研究領域</p> <p>作物機能開発研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>環境保全型野菜研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p>
<p>【研究成果情報】</p> <p>大豆のラッカセイわい化ウイルス抵抗性遺伝子の座乗位置</p> <p>施用肥料中の塩化物イオン量が多いと小麦子実カドミウム濃度が高まる</p> <p>小麦ふすま自己消化物の非アルコール性脂肪性肝炎モデルマウスに対する効果</p> <p>ノビレチン等ポリメトキシフラボノイドはナチュラルキラー細胞を活性化する</p> <p>輸入小麦銘柄の品質は関連遺伝子型頻度によって特徴付けられる</p> <p>レタスピッグベイン病を媒介する <i>Oplidium virulentus</i> の血清学的定量法</p> <p>露地ナス栽培圃場の畝断面における根の分布の簡易調査法</p> <p>土壌還元消毒時の大気中への一酸化窒素放出はごく僅かである</p> <p>温室へ施用した二酸化炭素の利用効率の評価手法</p> <p>赤かび病菌感染コムギにおいて濡れ時間はかび毒蓄積リスクの評価指標になる</p> <p>傾斜地カンキツ園における園内道整備のための設計支援システム</p> <p>有機農家直売市が有機農家の販売収入向上と新規就農支援に果たす役割</p> <p>高品質原料用果実を活かした加工事業拡大型カンキツ作ビジネスモデル</p> <p>稲 WCS と野菜及び加工を組み合わせた中山間集落営農法人の付加価値向上</p> <p>カンキツ未成園における「マルドリ方式」の有効性と導入条件</p> <p>冬季のススキ優占草地は子牛生産性に影響を及ぼすことなく放牧できる</p>	<p>作物機能開発研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>作物機能開発研究領域</p> <p>作物機能開発研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>畜産草地・鳥獣害研究領域</p>

【分類】

普及成果情報

行政・普及機関、公立試験研究機関、生産者、民間企業にとって直接的に利用可能で、普及が大きい期待できる成果情報。

研究成果情報

行政・普及機関、公立試験研究機関、生産者、民間企業にとって直接的に利用可能なものでないが、その内容が非常に有用な基礎・基盤情報になりうるもの、または普及させるためには改良が必要だが将来的に非常に有望な成果情報。

V 研究情報活動

2. 研究成果の発表

1) 著書

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
	該当なし				

V 研究情報活動

2) 原著論文等

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	トマト低段密植栽培に対応した着果処理ロボットの開発(第2報)ーロボットの位置認識システムの開発と温室内での動作試験ー	黒崎秀仁 /CA, 大森弘美, 岩崎泰永, 高市益行	2014.11	農業食料工学会誌	76(6),541-548
2	地上部窒素吸収量の増大による水稻多収品種の収数増加とその限界	小林英和, 千葉雅大, 長田健二	2014.10	日本作物学会紀事	83(4),374-379
3	コムギ赤かび病におけるデオキシニバレノールの蓄積と濡れ時間との関係	黒瀬義孝	2014.5	日本植物病理学会報	80,115-118
4	Comparison of Quality-Related Alleles Among Australian and North American Wheat Classes Exported to Japan	池田達哉 /CA, 谷中美貴子, 高田兼則	2014.11	Cereal Chemistry	91,616-622
5	Life cycle assessment of beef cow-calf systems with and without grazing on abandoned cultivated lands in Japan	堤道生 /CA, 引田久美子 (山口県長門農林事務所), 高橋佳孝 (退職), 山本直幸	2014.9	Grassland Science	60,150-159
6	北東北地域の飼料イネ湛水直播栽培における栽培管理と各種要因がタイヌビエの収穫期残存量に及ぼす影響	橘雅明, 中山壮一, 竹澤邦夫, 河本英憲, 押部明德, 渡邊寛明	2014.6	雑草研究	59,57-64
7	緑肥作物鋤き込みによる土壌還元消滅時の一酸化二窒素発生と被覆資材の違いが与える影響	石岡巖 /CA, 前田守弘 (岡山大学大学院 環境生命科学研究科), 渡邊修一, 竹原利明	2014.8	日本土壌肥科学雑誌	85(4),341-348
8	様々なマメ科植物におけるチャバナキボシアツバの発育と産卵選好性	菊地淳志	2014.5	関西病虫害研究会報	56,149-151
9	農産物直売所が取り組む店舗外販売活動の今日的動向ー岡山県内の直売所へのアンケート調査結果からー	室岡順一	2014.9	農林業問題研究	50(2),51-56
10	Molecular basis of a shattering resistance boosting global dissemination of soybean.	船附秀行 /CA, 鈴木雅也 (北大農), 廣瀬垂矢 (退職(元北農研特別研究員等)), 稲葉大貴 (北大農), 山田哲也, 羽鹿牧太, 小松邦彦 (農水技術会議事務局), 片山健至 (香川大農), 佐山貴司 (生物研), 石本政男 (生物研), 藤野介延 /CA(北大農)	2014.12	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America	111(50), 17797-802
11	Suppression of aphids by augmentative release of larvae of flightless Harmonia axyridis	世古智一 /CA, 三浦一芸, 須見綾仁 (徳島農研), 亀代美香 (徳島農研), 兼田武典 (徳島農研), 中野昭雄 (徳島農研)	2014.6	Journal of Applied Entomology	138,326-337
12	Serological quantification of resting spores of Olpidium virulentus in roots and evaluation of relationship between resting spore density in soil and severity of lettuce big-vein disease.	野見山孝司 /CA, 竹原利明, 大崎秀樹, 富岡啓介, 関口博之, 笹谷孝英, 土屋健一 (九州大学大学院農学研究院), 古屋成人 (九州大学大学院農学研究院), 竹下稔 (九州大学大学院農学研究院)		Journal of General Plant Pathology	未定
13	Study of invasion control in masked palm civets (Paguma larvata) using Delboef illusion	加瀬ちひろ (麻布大学), 江口祐輔 /CA, 古谷益朗 (埼玉農林総合研究センター), 植竹勝治 (麻布大学), 田中智夫 (麻布大学)	2014.6	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	50(2),69-75
14	根の簡易調査法の提案と露地ナス圃場における調査事例	渡邊修一, 笠原賢明, 松森堅治, 吉川弘恭	2014.12	日本土壌肥科学雑誌	85(6),519-524
15	Genetic structure in relation to reproduction mode in Thrips tabaci (Insecta; Thysanoptera)	十川和士 (香川県農試), 三浦一芸 /CA, 相澤美里 (香川県農試), 渡邊文夫 (香川県農試), Richard Stouthamer (カリフォルニア大学)		Applied Entomology and Zoology	
16	Mating rates and the prevalence of male-killing Spiroplasma in Harmonia axyridis (Coleoptera: Coccinellidae).	對馬佑介 (広島大), 中村佳代 (広島大), 田上陽介 (静岡大), 三浦一芸 /CA		Entomological Science	

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
17	Open-Top Chambers with Solar-Heated Air Introduction Tunnels for the High-Temperature Treatment of Paddy Fields	千葉雅大, 寺尾富夫 /CA	2014.4	Plant Production Science	17,152-165
18	Whole Crop silage 用稲の低コスト収穫・調製体系に関する研究	高橋仁康, 窪田潤, 寺元郁博, 高橋英博, 堀江達哉, 恒川磯雄, 藤本寛, 奥野林太郎, 佐藤達也, 亀井雅浩	2015.3	農業食料工学会誌	77(2),105-112
19	シバ在来品種「朝駆」の導入が農村畦畔の群落高の推移および発生種に及ぼす影響	伏見昭秀, 橘雅明, 長沼和夫 (ゾイシアンジャパン株式会社)	2015.3	芝草研究	43(2),27-31
20	Polymethoxylated flavones potentiate the cytolytic activity of NK leukemia cell line KHYG-1 via enhanced expression of granzyme B.	齋藤武, 阿部大吾, 野方洋一 /CA	2015.1	Biochemical and Biophysical Research Communications	456(3),799-803
21	Coffee diterpenes potentiate the cytolytic activity of KHYG-1 NK leukemia cells.	齋藤武, 阿部大吾, 野方洋一 /CA	2015.3	Food Science and Technology Research	21(2),281-284
22	加工拡大型カンキツ作経営の事業展開と経営分析ー和歌山県有田地域S果樹園の事例ー	棚田光雄	2014.6	農林業問題研究	50(1),77-82
23	A practical formula for quantifying the thermal conductivity of Tottori dune sand	望月秀俊, 坂口巖 (名古屋大学), 片山新 (名古屋大学)	2014.10	Soil Science and Plant Nutrition	60(5),613-618
24	有機農業者中心の直売市の活動実態と課題	尾島一史, 佐藤豊信 (岡山大学), 駄田井久 (岡山大学)	2014.12	日本農業経済学会論文集	*,124-129
25	Isolation and characterization of two mitoviruses and a putative alphapartitivirus from Fusarium spp.	大崎秀樹, 佐々木厚子, 野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 竹原利明		Virus Genes	
26	傾斜地水田域の排水床の粗粒化抑制に水制が及ぼす効果	向井章恵, 堀野治彦 (大阪府立大学大学院), 樽屋啓之, 中桐貴生 (大阪府立大学大学院), 櫻井伸治 (大阪府立大学大学院)	2014.10	農業農村工学会論文集	82(5),13-20
27	中小河川の多自然川づくりと排水路における生物生息場創出	向井章恵, 堀野治彦 (大阪府立大学大学院), 樽屋啓之, 中桐貴生 (大阪府立大学大学院)	2015.3	農業農村工学会誌	83(3),183-186
28	寒冷地における地上部形態を異にする水稲品種間でのタイヌビエ必要除草期間の差異	橘雅明	2015.3	雑草研究	60,1-4
29	Phytoextraction by high-Cd-accumulating rice to reduce Cd in wheat grains grown in Cd-polluted fields	茨木俊行 (福岡県農業総合試験場), 藤富慎一 (福岡県農業総合試験場), 石塚明子 (福岡県農業総合試験場), 谷中美貴子		Soil Science and Plant Nutrition	60(2),266-275
30	三瓶山の火入れ管理下にあるススキ (Miscanthus sinensis Anderss.) 草地の植生に及ぼす放牧の影響	高橋佳孝, 井上雅仁 (島根県立三瓶自然館), 堤道生	2014.7	日本草地学会誌	60,102-108
31	Introgression of useful genes from Thinopyrum intermedium to wheat for improvement of bread-making quality	Monika Garg (鳥取大学), 谷中美貴子, 田中裕之 (鳥取大学), 辻本壽 (鳥取大学)	2014.6	Plant Breeding	133(3),327-334
32	夏期放牧における褐毛和種熊本系と黒毛和種繁殖牛の個体維持行動の比較	伊藤秀一 (東海大), 岩下祐輔 (東海大), 萩原慎太郎 (東海大), 山本直幸, 作本亮介 (生物研), 岡本智伸 (東海大), 谷峰人 (東海大), 矢用健一 (生物研)	2014.12	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	50(4),1-7
33	Usefulness of Japanese-radish residue in biological soil disinfestation to suppress spinach wilt disease accompanying with proliferation of soil bacteria in the Firmicutes.	Subrata Mowlick (山形大学), 井上興 (山口県農林総合技術センター), 竹原利明, 加来伸夫 (山形大学), 殿内暁夫 (弘前大学), 上木勝司 (山形大学), 上木厚子 (山形大学)	2014.7	Crop Protection	61,64-73

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
34	Exploring the areas of applicability of whole-genome prediction methods for Asian rice (<i>Oryza sativa</i> L.)	小野木章雄 (東大農学生命科学), 出田収, 井下侑人 (東大農学部生命科学), 江花薫子 (農業生物資源研究所), 吉岡拓磨 (神戸大院農), 山崎将紀 (神戸大院農), 岩田洋佳 (東大農学部生命科学)	2015.1	Theoretical and Applied Genetics	128,41-53
35	Quantitative trait loci associated with lodging resistance in soybean cultivar 'Toyoharuka'	山口直矢 (道総研), 佐山貴司 (生物研), 山崎敬之 (道総研), 三好智明 (道総研), 船附秀行	2014.12	Breeding Science	64(4),300-308
36	Apomictic parthenogenesis in a parasitoid wasp <i>Meteorus pulchricornis</i> , uncommon in the haplodiploid order Hymenoptera	筒井容子 (神戸大), 前藤薫 (神戸大), 濱口京子 (森林総研), 井崎陽介 (神戸大), 高見泰興 (神戸大), 内藤親彦 (神戸大), 三浦一芸	2014.6	Bulletin of Entomological Research	104,307-313
37	有機農法の先駆者による青年農業者の育成方法—埼玉県小川町霜里農場40年の取り組みから—	稲泉博己 /CA(東京農業大学), 下口ニナ (東京農業大学), 安江紘幸, 大室健治	2014.12	日本農業経済学会論文集	*,184-189
38	公共的農業ビジネスモデルの特徴と成立条件—石川県奥能登地域における広域連携合同販売会社のK社を事例として—	安江紘幸 /CA, 大室健治	2014.12	日本農業経済学会論文集	*,108-113
39	Work Hours and Yield for Large-Scale Tomato Production in Japan	黒崎秀仁, 大森弘美, 瀧本浩, 岩崎泰永	2014.5	Acta Horticulturae	1037,753-758
40	クズや人工飼料による蛾類5種の発育と増殖	菊地淳志	2014.8	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	56,10-15
41	Effect of Net-Covered Windbreak on Leakage Rate of a Greenhouse	畔柳武司, 松田周, 川嶋浩樹, 長崎裕司	2014.5	Acta Horticulturae	1037,947-954
42	Effect of Temperature on Development of Primary Axillary Flower Bunch in Strawberry Bench Culture	山崎敬亮, 熊倉裕史, 瀧本浩	2014.8	Acta Horticulturae	1049,809-812
43	暖地型芝草の生育に及ぼす施肥、庇蔭の影響および耐寒性	大谷一郎, 高橋佳孝, 堤道生	2014.9	近畿中国四国農業研究	25,21-26
44	「マルドリ方式」の改植時導入によるカンキツ早期成園化の経済性事前評価	棚田光雄, 根角博久	2014.9	近畿中国四国農業研究	25,33-38
45	Effect of indoor concentrate feeding vs. outdoor grazing on the expression of genes involved in muscle growth and nutrient content in Japanese Black steer muscle.	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 山本直幸	2014.10	Open Journal of Animal Sciences	4,297-304
46	Influence of housing density and grazing on heat shock protein 27 expression in skeletal muscle of beef cattle.	柴田昌宏, 曳野泰子, 松本和典, 山本直幸	2014.10	Journal of Fisheries and Livestock Production	2,2,1000117
47	Rice whole crop silage feeding and grazing: growth performance, carcass characteristics and meat quality in Japanese Black steers.	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 山本直幸	2014.8	60th International Congress of Meat Science and Technology Proceedings	S-II-09
48	中山間地域農家の所得拡大を目指した夏秋トマトの低コスト・省力・安定生産技術体系の取組と課題	長崎裕司, 柴田昇平, 木下貴文, 久保雄生 (山口県農林総合技術センター), 古橋典子 (山口県農林総合技術センター), 岡田牧恵 (広島県立総合技術研究所農業技術センター), 山本和博 (愛媛県農林水産研究所), 村井恒治 (徳島県農林水産総合技術支援センター), 篠原啓子 (徳島県農林水産総合技術支援センター)	2014.6	近畿中国四国農業研究	24,3-10
49	Transmission of Lettuce big-vein associated virus and Mirafiori lettuce big-vein virus by <i>Olpidium brassicae</i> .	野見山孝司 /CA, 井上博喜, 関口博之, 富岡啓介, 大崎秀樹, 竹原利明, 笹谷孝英	2014.4	Proceedings of the Ninth Symposium of the International Working Group on Plant Viruses with Fungal Vectors	*,25-27

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
50	'たちすずか'等飼料イネ栽培における窒素等施肥管理上の注意点	大家理哉(岡山県農林水産総合センター農業研究所), 鷲尾建紀(岡山県農林水産総合センター農業研究所), 河野幸雄(広島県立総合技術研究所畜産技術センター), 猪谷富雄(県立広島大学生命環境学部), 藤本寛	2014.9	近畿中国四国農業研究	25,27-32
51	トマト低段密植栽培における子葉直上摘心後の腋芽を利用した苗の生育と収量	篠原啓子(徳島県立農林水産総合技術支援センター), 村井恒治(徳島県立農林水産総合技術支援センター), 木下貴文, 長崎裕司, 板東一宏(徳島県立農林水産総合技術支援センター)	2014.9	近畿中国四国農業研究	25,15-19
52	植物工場における光制御による生長促進	吉越恆, 山本晴彦(山口大学農学部)	2014.9	照明学会誌	98,503-507
53	植物寄生性線虫と土壌伝染性病害の複合病	佐藤恵利華	2014.4	土と微生物	68(1),21-26
54	肉用牛の科学:第1章「わが国における肉用牛産業」-第6節「肉用牛の機能と役割」-	柴田昌宏	2015.1	養賢堂	*.20-22
55	植物工場における人工照明による野菜生産	山本晴彦(山口大学農学部), 吉越恆, 岩谷潔((株)アグリライト研究所), 園山芳充((株)アグリライト研究所)	2014.12	照明学会誌	98,630-634
56	水文流出モデルを用いた流域からの窒素流出量推定-現状と課題-	清水裕太(日本学術振興会特別研究員PD), 小野寺真一(広島大学), 松森堅治	2014.11	日本水文科学学会誌	44(4),207-223
57	岩手県沿岸地域の震災復興に資する園芸施設の現地評価	吉越恆, 長崎裕司, 松田周, 川嶋浩樹, 杉浦誠	2015.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	14,65-76
58	建設足場資材利用園芸ハウスの新規開発とその導入による野菜・花き生産システムの構築	川嶋浩樹	2015.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	13,77-129
59	「コシヒカリ」との作期分散が可能な大粒で極良食味の水稲新品種「みずほの輝き」の育成	重宗明子, 三浦清之, 上原泰樹, 笹原英樹, 後藤明俊, 太田久稔, 清水博之, 大槻寛, 小牧有三(鹿児島県農業開発総合センター), 福井清美(元鹿児島県農業開発総合センター), 長岡一朗	2015.3	中央農業総合研究センター研究報告	24,1-14
60	温暖地向けりボキシゲナーゼ全欠のダイズ新品種「こがねさやか」の育成とその特性	高田吉丈, 猿田正恭, 岡部昭典, 菊池彰夫, 小野貞芳(元近農研)	2015.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	14,51-64
61	中国地区刊行応用動物昆虫関係目録(2013)	菊地淳志	2014.8	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	56,42-44
62	中山間地域の直売所の新たなビジネスモデル「出張直売」	室岡順一	2014.4	農業経営通信	259,6-7
63	直売所・生産者・消費者にメリットをもたらす直売所の新ビジネス	室岡順一	2014.7	農業経営通信	260,4-5
64	小麦赤かび病におけるかび毒蓄積と濡れ時間との関係	黒瀬義孝	2015.1	植物防疫	69(1),43-47
65	多様な流通チャネルの構築による有機農業の普及・定着	尾島一史	2014.4	農業経営通信	259,8-9
66	桑の実の発酵とその成分分析(第2報)	高澤弘明(成美大学短期大学部生活福祉科), 井上守正(兵庫県立工業技術センター分析技術部), 原田千左子(兵庫県立工業技術センター分析技術部), 福永亜矢子, 加糖優志(成美大学短期大学部生活福祉科), 高階正美(成美大学短期大学部生活福祉科)	2015.3	成美大学短期大学部紀要	43,7-19

V 研究情報活動

3) 学会発表等

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
1	Damage to the Livestock Industry Caused by Wild Animals	江口祐輔	2014.7	第3回神戸アニマルケア国際会議 2014	*,60
2	大型野生動物の行動特性および被害対策	上田弘則	2014.7	第3回神戸アニマルケア国際会議 2014	*,62
3	Kinect センサを利用した植物の成長モニタリング	黒崎秀仁, 岩崎泰永, 濱本浩, 田中幹人 (テクノシステム株式会社), 梅田大樹	2014.9	日本生物環境工学会 2014 年度東京大会講演要旨	*,284-285
4	トマトの密植移動栽培システムの開発ー移動シミュレーションと移動栽培ベッドの試作ー	黒崎秀仁, 岩崎泰永, 大森弘美, 太田智彦, 田中秀幸 (株式会社 GRA), 林茂彦, 坪田将吾, 山本聡史	2014.5	第73回農業食料工学会年次大会講演要旨	*,79
5	ダイコン炭疽病菌 Colletotrichum dematium のホウレンソウに対する病原性	富岡啓介, 関口博之, 野見山孝司, 大崎秀樹, 伊藤陽子, 竹原利明	2014.6	日本菌学会第58回大会講演要旨集	*,85
6	Pathogenicity evaluation of the causal agent of radish anthracnose, Colletotrichum dematium (Persoon) grove, to spinach	富岡啓介, 関口博之, 野見山孝司, 大崎秀樹, 伊藤陽子, 竹原利明	2014.8	Book of Abstracts for The 10th International Mycological Congress (IMC10)	*,539
7	Generation of nitrate non-utilizing mutants from pathogens of Madagascar periwinkle anthracnose	富岡啓介, 野見山孝司, 関口博之, 大崎秀樹, 竹原利明	2014.8	Book of Abstracts for The 10th International Mycological Congress (IMC10)	*,540
8	褐毛和種牛繁殖システムのライフサイクルアセスメント	堤道生	2014.9	日本暖地畜産学会報	57(2),198
9	褐毛和種去勢牛の周年放牧肥育のライフサイクルアセスメント	堤道生, 中村好徳, 金子真, 林義朗, 荅博行, 山田明央, 小林良次	2014.4	日本草地学会誌	60(別),52
10	瀬戸内海島しょ部の果樹栽培地域での地下水利用	高橋英博, 谷口智雅 (三重大学)	2014.10	2014 年度日本水文学会学術大会発表要旨集	29,77-78
11	農産物直売所による「出張直売」活動の問題改善ー中国地方の中山間地域に立地する直売所の店舗実験ー	室岡順一	2014.9	第62回農村生活研究大会	*,96-97
12	アメダスによる直達・散乱日射量時別値推定法の改良	植山秀紀	2014.12	中国・四国の農業気象	27,34-35
13	模擬植物(根)を使った土壌およびカンキツの水ポテンシャル測定	黒瀬義孝	2014.12	中国・四国の農業気象	27,22-23
14	温室の隙間換気回数と温室外面の風圧係数の関係	畔柳武司	2014.9	日本生物環境工学会 2014 年東京大会講演要旨	*,44-45
15	防風ネットが温室の保温性に及ぼす影響	畔柳武司	2014.9	園芸学研究	13(別2),423
16	非対称補強をしたダブルアーチパイプハウスの耐雪強度	松田周, 中元陽一, 川嶋浩樹, 吉越恆	2014.8	2014 年度農業施設学会大会講演要旨	*,47-48
17	土地利用を考慮した乱流シミュレーションモデルの基礎的検討	松田周	2014.12	中国・四国の農業気象	27,46-47
18	ホウレンソウ萎凋病発生リスク評価法の開発	佐藤恵利華, 関口博之, 村上弘治	2014.10	土と微生物	68(2),114
19	小型ユニット化した簡易設置型パッドアンドファンの風量と冷却能設計に関する一実験	吉越恆, 川嶋浩樹	2014.12	中国・四国の農業気象	27,38-39
20	地域資源を活用した環境保全型農業生産技術とその多面的環境影響評価	志村もと子	2014.12	2014 年度第93回関西土壌肥料協議会講演会要旨集	*,24-33
21	Potential reductions in life-cycle greenhouse gas emissions from paddy rice production: Assessing the influence of puddling, transplanting density, and irrigation depth	志村もと子, 高橋英博, 伊藤千春 (秋田農試), 渋谷允 (秋田農試), 林清忠, 松森堅治	2014.10	The 11th International Conference on EcoBalance	11,245
22	人工湿地ろ過システムと活性汚泥法の環境影響評価 (LCA)	志村もと子, 高橋英博	2015.3	第49回日本水環境学会年会	*,470
23	地下水位制御システム設置枠圃場におけるダイズ作付け期間中の水収支	笠原賢明, 清水裕太, 松森堅治, 望月秀俊, 竹田博之, 奥野林太郎	2014.9	日本土壌肥料学会講演要旨集	60,11
24	高保温性能で大幅な省エネを可能にする日本型日光温室の開発	川嶋浩樹	2014.5	日本生物環境工学会四国支部 2014 徳島大会資料	*,10-17
25	Detection of dsRNAs in three species of the genus Fusarium	大崎秀樹, 佐々木厚子, 野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 竹原利明	2014.8	Book of Abstracts for The 10th International Mycological Congress (IMC10)	*,505

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
26	トマト黄化葉巻ウイルス弱毒株選抜とその干渉効果	大崎秀樹,野見山孝司,関口博之,富岡啓介,竹原利明	2014.6	平成 26 年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集	*,128
27	遮光除去の導入による夏作ホウレンソウの品質向上技術の現地実証	吉田祐子,瀨本浩,山崎敬亮,村上健二,生駒泰基	2014.9	園芸学研究	13(別 2),470
28	公設試へのアンケート調査に基づくイチゴ促成栽培における育苗の現状	山崎敬亮,村上健二,吉田祐子,生駒泰基	2014.9	園芸学研究	13(別 2),449
29	イチゴ無育苗栽培法への気化潜熱利用培地冷却技術の導入効果	山崎敬亮,村上健二,吉田祐子,生駒泰基,金森健一(島根県農業技術センター)	2015.3	園芸学研究	14(別 1),324
30	簡易型パッドアンドファン装置を局所冷却法の冷却期間の違いがホウレンソウの生育に及ぼす影響	村上健二,山崎敬亮,吉田祐子,生駒泰基,長崎裕司,嶋津光鑑(岐阜大)	2014.9	園芸学研究	13(別 2),469
31	Rhizoctonia solani AG-4 causing damping-off of turnip green, sugar beet and rocket in Japan.	関口博之,村上弘治,佐藤恵利華,富岡啓介,平子直行(正八つくば),雨宮良太(正八つくば),早川翔吾(正八つくば),皆川遊(正八つくば),中田昌人(正八つくば),百町満朗(岐阜大学),對馬誠也(農環研)	2014.8	Book of Abstracts for The 10th International Mycological Congress (IMC10)	*,538
32	Confirmation of Fusarium lactis Pirotta&Riboni as a pathogen causing fruit rot of sweet pepper in Japan.	関口博之,野見山孝司,富岡啓介,大崎秀樹,竹原利明	2014.8	Book of Abstracts for The 10th International Mycological Congress (IMC10)	*,516
33	テンサイから分離した生育促進細菌のホウレンソウへの接種効果	関口博之,岡崎和之,池田成志	2014.10	環境微生物系学会合同大会 2014 講演要旨集	*,221
34	ベビーリーフ用のコマツナ,テンサイおよびルッコラに発生した Rhizoctonia solani AG-4 による立枯性病害	関口博之,村上弘治,佐藤恵利華,富岡啓介,平子直行(正八つくば),雨宮良太(正八つくば),早川翔吾(正八つくば),皆川遊(正八つくば),中田昌人(正八つくば),百町満朗(岐阜大学),對馬誠也(農環研)	2014.6	平成 26 年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集	*,50
35	イノシシにおける被害対策の重要性	江口祐輔	2014.9	日本哺乳類学会 2014 年度大会プログラム・講演要旨集	*,39
36	現地圃場におけるカラシナ鋤込み太陽熱消毒によるホウレンソウの土壌病害軽減効果(第2報)	伊藤陽子,竹原利明,富岡啓介,野見山孝司,須賀有子,佐藤恵利華,福永亜矢子,関口博之,生駒泰基	2014.11	日本植物病理学会誌	80(4),254
37	Combination of biofumigation and reductive soil disinfestation in Japan.	竹原利明	2014.9	Aspects of Applied Biology: 5th International Symposium of Biofumigation. (2014.9.9-12, Harper Adams Univ.)	126,19-20
38	温暖地西部向け小麦の品種育成について	谷中美貴子,石川直幸,池田達哉,船附稚子,高田兼則	2014.5	日本農芸化学会中四国第 39 回講演会講演要旨集	*,12
39	ライムギとイタリアンライグラスの混播によるイノシシの採食被害軽減効果	上田弘則,江口祐輔	2014.9	日本哺乳類学会 2014 年度大会	*,190
40	夏作ホウレンソウの一重項酸素消去活性評価法(SOAC法)によるカロテノイド由来抗酸化性の品種間差	福永亜矢子,西川万貴,若木学,石川祐子	2015.3	園芸学研究	14(別 1),381
41	土壌還元消毒等の処理がアブラナ科野菜根こぶ病菌密度に及ぼす影響	福永亜矢子,佐野修司(大阪環水研),小坂吉則(大阪府泉州農と緑),森岡こころ(大阪府泉州農と緑),村上弘治	2014.9	日本土壌肥科学会講演要旨集	60,45
42	A filamentous fungus grown on the surface of iron-coated rice seeds sown directly under flooded conditions	森伸介,関口博之,高橋仁康,藤本寛,野見山孝司,岡部昭典,大崎秀樹,富岡啓介	2014.8	The 10th International Mycological Congress 2014	*,*
43	水稲湛水直播種子近傍土壌における芳香族カルボン酸の発生と発芽に及ぼす影響	森伸介,山崎健一(農業環境技術研究所),榊原風太(農業環境技術研究所),高木和弘(農業環境技術研究所),岡部昭典	2014.9	日本土壌肥科学会講演要旨集	60,97
44	有機物添加が水稲湛水直播の出芽に及ぼす影響と種子近傍土壌の微生物相解析	森伸介,関口博之,岡部昭典	2014.10	環境微生物系学会合同大会講演要旨集	*,217
45	DVR モデルにおける気温平年値を使った予測の問題点と解決策	黒瀬義孝,野津原昭二(気象庁),伊藤明(気象庁)	2015.3	日本農業気象学会 2015 年全国大会講演要旨	*,128

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
46	オープンフィールドテストによるイノシシの警戒と慣れの解析	堂山宗一郎, 江口祐輔, 上田弘則, 植竹勝治(麻布大学獣医学部), 田中智夫(麻布大学獣医学部)	2014.9	日本哺乳類学会 2014 年度大会プログラム・講演要旨集	*,138
47	マルチシートの物理特性がカンキツ類の生育に及ぼす影響(第1報)	國賀武, 竹内新二(中国紙工業), 根角博久	2014.9	園芸学研究	13(別2),325
48	風向が一定しない地域に対応した温風導入型オープントップチャンバーの改良	千葉雅大, 長田健二, 小林英和, 寺尾富夫	2014.8	日本作物学会中国支部研究集録	54,37
49	大規模圃場整備地区における地下水制御システム暗渠排水の硝酸態窒素濃度	松森堅治, 清水裕太(日本学術振興会特別研究員 PD), 笠原賢明	2014.9	日本土壌肥料学会講要	60,14
50	周年マルチ点滴かん水同時施肥法(マルドリ方式)による地下水再利用システムの現地実証試験	松森堅治, 向井章恵, 渡邊修一, 笠原賢明, 根角博久, 清水裕太(日本学術振興会特別研究員 PD)	2014.10	日本水文科学学会学術大会発表要旨集	29,75-76
51	web 版農業経営診断サービスの特徴とユーザビリティ評価	大室健治, 佐藤正衛, 松本浩一	2014.11	日本経営診断学会第 47 回全国大会報告要旨集	*,171-174
52	地域デザイン展開における公・共・私が連携したアクターズネットワークの役割ー兵庫県小野市きすみの地区を事例としてー	大室健治, 安江紘幸, 下口ニナ(東京農業大学), 稲泉博己(東京農業大学)	2014.9	第3回地域デザイン学会全国大会予稿集	*,49-52
53	Development of Web Service system for Farm Management Diagnosis in Japan	大室健治	2014.8	Asia Pacific Association of Educators in Agriculture and Environment 6th International Conference Abstracts	*,22
54	イネにおけるオーキシン生合成経路の解析	添野和雄, 國土祐未子, 石井貴広, 中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2015.3	第 56 回日本植物生理学会年會要旨集	*,306
55	中山間の現地農家圃場における大豆の低収要因解析	岡部昭典, 竹田博之, 渡邊修一	2014.7	日本作物学会中国支部研究集録	54,13-14
56	湿潤不織布による培地冷却がトマトの初期生育に及ぼす影響	杉浦誠, 木下貴文, 矢野孝喜	2014.12	日本作物学会四国支部会報	51,40-41
57	Superovulatory response and reproductive performance after flushing in postpartum suckling Japanese Black cows over a 5-year period	大島一修, 落合寿成, 山本直幸, 小島孝敏(家畜改良センター, 元近農研)	2014.8	Reproduction in Domestic Ruminants VIII	*,552
58	間欠冷蔵処理における 1 回目の冷蔵期間の長さがイチゴの開花に及ぼす影響	矢野孝喜, 松崎朝浩(香川県農業試験場), 山崎敬亮, 杉浦誠, 川嶋浩樹, 長崎裕司, 吉田裕一(岡山大学院環境生命科学科)	2014.9	園芸学研究	138(別2),444
59	日射制御型自動灌水装置と肥効調節型肥料を用いたトマト低段密植栽培における溶出時期の違いが生育および収量に及ぼす影響	矢野孝喜, 木下貴文, 杉浦誠, 川嶋浩樹	2015.3	園芸学研究	14(別1),337
60	Colletotrichum gloeosporioides 種複合体に属するニチニチソウ炭疽病菌の硝酸塩利用能欠損変異株	富岡啓介, 野見山孝司, 関口博之, 大崎秀樹, 竹原利明	2014.12	日本微生物資源学会誌	30(2),150
61	圃場整備を伴うカンキツ園における土砂とリンの流出	向井章恵, 根角博久	2014.11	農業農村工学会中国四国支部講演会講演要旨集	*,75-76
62	出穂前の気温が極短穂型稲発酵粗飼料専用品種「たちあやか」の穂長に与える影響	中込弘二, 神田則昭(広島県立総合技術研究所 畜産技術センター), 藤本寛, 出田収, 重宗明子, 福島陽	2015.3	日本作物学会第 239 回講演会	239,23
63	少量播種乾田直播栽培技術の開発	藤本寛	2014.8	日本作物学会中国支部研究集録	54,45-46
64	乾田直播研究のシテンー乾田直播のメリット・デメリット	藤本寛	2014.9	日本土壌肥料学会講演要旨集	60,220
65	極短穂飼料用イネ品種の直交表を用いた種子生産方法の検討	藤本寛, 森伸介	2015.3	日本作物学会第 239 回講演会要旨集	*,4
66	製パン性に優れる温暖地向けコムギ新品種「せときらら」の育成	高田兼則, 谷中美貴子, 石川直幸, 池田達哉, 船附稚子	2014.5	第 6 回グルテン研究会	*,*
67	Leymus racemosus 転座染色体および Gpc-B1 を導入した小麦系統の農業形質	高田兼則, 岸井正浩(CIMMYT), 谷中美貴子	2015.3	育種学研究	17(別),203

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
68	籾数からみた水稲多収品種「北陸193号」の最適出穂時期の検討	小林英和, 植山秀紀, 千葉雅大, 長田健二	2015.3	日本作物学会紀事	84(別1),137
69	水稲多収品種北陸193号における窒素多肥条件での一穂籾数の変動	小林英和, 千葉雅大, 長田健二	2014.8	日本作物学会中国支部研究集録	54,41-42
70	ダイズの脱粒性を左右する裂莢性QTLのマッピング	船附秀行, 鈴木雅也(北大農), 廣瀬亜矢(退職(元北農研特別研究員等)), 稲葉大貴(北大農), 山田哲也, 羽鹿牧太, 小松邦彦(農水技術会議事務局), 佐山貴司(生物研), 片山健至(香川大), 石本政男(生物研), 藤野介延(北大農)	2015.3	育種学研究	17(別1),74
71	「せときらら」×「ゆめちから」の分離集団におけるコムギの子実タンパク質含有率とSPAD値との関係	谷中美貴子, 船附稚子, 高田兼則	2015.3	育種学研究	17(別1),201
72	次世代シーケンサーによる水稲湛水直播種子近傍土壌の微生物(細菌)相解析	森伸介, 関口博之, 富岡啓介, 藤本寛, 岡部昭典	2015.3	日本作物学会	*,220
73	Advanced support system based on precise meteorological data for citrus orchards	植山秀紀, 星典宏, 根角博久	2015.2	Agriculture and Climate Change Conference 2015	*,*
74	建設足場資材利用園芸ハウスの低コスト化における基礎杭選定に関する一考察	長崎裕司, 石田昌司(株式会社オーガニックnico), 中村新(株式会社オーガニックnico)	2014.8	2014年度農業施設学会大会講演要旨	*,77-78
75	普通小麦からデュラム小麦に導入したグルテニンサブユニットの生地物性への影響	船附稚子, 大楠秀樹(日本製粉株式会社), 谷中美貴子, 池田達哉, 高田兼則	2015.3	育種学研究	17(別1),62
76	高温登熟に優れ、良食味で多収の水稲新品種「中国201号」の育成と普及	出田収, 重宗明子, 中込弘二, 船附稚子, 土屋隆生(広島県穀物改良協会)	2014.7	日本作物学会中国支部研究集録	54,7-8
77	ダイズのインゲンマメ南部モザイクウイルスに対する抵抗性のマッピング	猿田正恭, 高田吉丈	2014.9	育種学研究	16(別2),219
78	温暖地向けりボキシゲナーゼ全欠のダイズ新品種「こがねさやか」の育成	猿田正恭, 高田吉丈, 岡部昭典, 菊池彰夫	2015.3	育種学研究	17(別1),140
79	Soybean breeding for resistance to viruses causing seed coot mottling in Japan.	猿田正恭	2014.10	7th Crop Science Seminar in East Asia 2014	*,*
80	胴割れ発生程度の異なる水稲品種における籾および玄米の吸水特性	長田健二, 大平陽一, 佐々木良治, 小林英和, 千葉雅大	2014.8	日本作物学会中国支部研究集録	54,35-36
81	水稲多収品種における気候登熟量示数の栽培地および出穂期による変動	長田健二, 大角壮弘, 吉永悟志, 中野洋(農林水産技術会議事務局)	2015.3	日本作物学会第239回講演会要旨集	*,26
82	防風ネットが暖房時の温室の熱損失に及ぼす影響	畔柳武司	2015.3	日本農業気象学会2015年全国大会講演要旨	*,83
83	シートの物理特性がカンキツ類の貯蔵に及ぼす影響(第1報)	國賀武, 兼常康彦(山口県), 竹内新二(中国紙工業), 根角博久	2015.3	園芸学研究	14(別1),444
84	カンキツ栽培における周年シートマルチ条件下での局所かん水が根群形成に及ぼす影響	星典宏, 根角博久, 植山秀紀, 國賀武	2014.9	園芸学研究	13(別2),316
85	米由来糖鎖化合物に対する化学処理および水浸漬の影響	川瀬眞市朗	2015.3	第239回日本作物学会講演会(藤沢)	84(別1),228
86	米抽出物とレクチンとの反応性	川瀬眞市朗	2015.3	第239回日本作物学会講演会(藤沢)	84(別1),233
87	Negative effects of infection with lettuce big-vein associated virus on lettuce growth.	野見山孝司, 笹谷孝英, 関口博之, 富岡啓介, 大崎秀樹, 竹下稔(九州大学大学院農学研究院), 竹原利明, 古屋成人(九州大学大学院農学研究院), 土屋健一(九州大学大学院農学研究院)	2014.10	The 3rd Korea-Japan Joint Symposium on Plant Pathology	*,199
88	タバコカスミカメの温存に有効な景観植物の選定と複数天敵種温存の可能性	安部順一朗, 綱島健司(岡山農総セ), 飛川光治(岡山農総セ), 西優輔(岡山農総セ), 日本典秀	2014.12	第24回天敵利用研究会	*,12

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
89	景観植物スカエボラによる天敵温存効果の検証と生産現場への導入	安部順一朗, 世古智一, 飛川光治 (岡山農総セ), 川村宜久 (岡山農総セ), 綱島健司 (岡山農総セ)	2015.3	第 59 回日本応用動物昆虫学会大会	*,82
90	黒毛和種去勢牛の放牧ならびに飼料イネ WCS 給与が肥育・枝肉成績、肉質に及ぼす影響	柴田昌宏, 曳野泰子, 今成麻衣, 松本和典, 室谷進, 中島郁世, 山本直幸	2015.3	日本畜産学会第 119 回大会講演要旨	*,140
91	地下水制御システムによりダイズの増収効果が期待できる圃場の地下水水位	竹田博之, 岡部昭典, 望月秀俊, 清水裕太, 松森堅治, 窪田潤, 奥野林太郎	2014.7	日本作物学会中国支部研究集録	54,19-20
92	開花～開花揃期と子実肥大初期における葉面積指数とダイズの地上部乾物重の関係	竹田博之, 岡部昭典	2015.3	日本作物学会第 239 回講演会要旨集	*,224
93	簡易設置パッドアンドファン装置を用いたトマト育苗法の開発	村上健二, 山崎敬亮, 生駒泰基, 吉田祐子, 長崎裕司, 杉浦誠, 嶋津光鑑 (岐阜大応用生物科学部)	2015.3	園芸学研究	14(別 1),341
94	ブドウの市場構造の変化—新品種シャインマスカットの動向に焦点を当てて—	大室健治	2015.3	2015 年度日本農業経済学会大会報告要旨	*,K12
95	地下水制御システム FOEAS による土壌水分分布について	望月秀俊	2014.8	平成 26 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*,66-67
96	オーガニックファーマーズマーケット発展のための運営の要点	尾島一史, 佐藤豊信 (岡山大学), 駄田井久 (岡山大学)	2014.10	2014 年度地域農林経済学会個別報告	*,*
97	マルドリ方式高度利用によるカンキツ栽培のための自動点滴かん水施肥設計概念の検証	根角博久, 植山秀紀, 黒瀬義孝, 星典宏, 國賀武, 大濱秀一 (愛媛県), 村上要三 (愛媛県), 井上久義	2014.9	園芸学研究	13(別 2),129
98	野生動物の行動特性と被害対策について	江口祐輔	2015.2	平成 26 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (岡山)	*,60-61
99	オオムギ穀粒硬度や胚乳成分に関する選抜 DNA マーカー開発	高橋飛鳥	2014.4	麦類研究会	118,26
100	アミロースや β -グルカン含量の異なる裸麦系統の粉品質と製麺性	高橋飛鳥, 吉岡藤治	2014.9	育種学研究	16(別 2),172
101	異なる ant 遺伝子が大麦の穂発芽性に及ぼす影響	吉岡藤治, 鈴木健太 (新居浜高専), 高橋飛鳥	2015.3	育種学研究	17(別 2),195
102	ウメ輪紋病の緊急防除に関する研究の現状と課題	中野正明	2014.11	農研機構セミナー「最近の侵入病害虫リスク管理を巡る研究の現状と課題」	*,4
103	高温登熟性に優れ、良食味で多収の水稲新品種「中国 201 号」の育成と普及	出田収, 重宗明子, 中込弘二, 船附稚子, 土屋隆生 (広島県穀物改良協会)	2014.7	日本作物学会中国支部研究集録	54,7-8
104	乾燥空気の同時噴霧による細霧冷房の冷却性能強化	佐藤恵一	2014.12	中国四国の農業気象	27,36-37
105	セントオーガスチングラスの放牧条件での被度拡大と庇蔭の影響	大谷一郎, 高橋佳孝, 堤道生	2015.3	日本草地学会誌	61(別),105
106	有機採草生産における温室効果ガス排出量およびエネルギー消費	堤道生, 小野泰 (北里大), 實戸雅之 (北里大), 小笠原英毅 (北里大)	2015.3	日本草地学会誌	61(別),21
107	黒毛和種去勢牛粗飼料多給肥育の環境影響評価	堤道生, 柴田昌宏	2015.3	日本草地学会誌	61(別),22
108	トマト農家による加工・販売事業の取り組みと課題	堀江達哉	2014.10	農林業問題研究	*,*
109	ダイズ新品種「あきまる」の地下水制御システム (FOEAS) による晩播栽培	岡部昭典, 竹田博之, 山崎諒	2015.3	日本作物学会第 239 回講演会要旨集	*,40
110	イノシシは場所を手がかりとして餌を獲得できるか	江口祐輔, 上田弘則, 堂山宗一郎	2015.3	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	51(1),21
111	Analysis of tryptophol-mediated auxin biosynthesis pathway	Ayako Nakamura(横浜市立大学・木原生物学研究所), Yumiko Kokudo, Takahiro Ishi, Megumi Narukawa-Nara(横浜市立大学・木原生物学研究所), Kazuo Soeno, Yukihisa Shimada(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2014.10	X II France-Japan Workshop on Plant Science 2014 Plant Responses to Environment Abstracts	*,68
112	オーキシン生合成阻害剤を用いたトマトの花成制御	菊地理絵 (神奈川大), 東出忠桐, 添野和雄, 嶋田幸久 (横浜市立大学・木原生物学研究所)	2014.9	育種学研究 日本育種学会第 126 回講演会要旨集	*,193

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
113	瀬戸内海島嶼部における地下水利用一尾道市瀬戸田町生口島の事例一	谷口智雅(三重大学),小野寺真一(広島大学),高橋英博,齋藤光代(岡山大学),清水裕太(日本学術振興会特別研究員PD)	2014.5	日本地球惑星科学連合2014年大会予稿集	*,AHW-28-P15
114	省エネルギー・高生産を目指したバラ局所加温栽培技術の開発	深山陽子(神奈川農技セ),原靖英(神奈川農業アカデミー),馬場勝(ネボン),畔柳武司,林真紀夫(東海大学)	2014.9	日本生物環境工学会2014年東京大会講演要旨	*,310-311
115	ダイズ黒根腐病菌(Calonectria ilicicola)のnit変異株の作出	黒田智久(新潟農総研作物研),竹原利明,石川浩司(新潟県経営普及課)	2014.11	日本植物病理学会報	80,239
116	タマバチ科におけるゴール形成能力の喪失と再獲得一分子系統学的アプローチ	井手竜也(九州大),楠見淳子(九州大),三浦一芸,阿部芳久(九州大)	2014.9	第74回日本昆虫学会広島大会講演要旨集	*,76
117	クマゼミとミンミンゼミの地理的分布形成過程について	横地亮祐(広島大),三浦一芸	2014.9	第74回日本昆虫学会広島大会講演要旨	*,42
118	流域スケールでの地下水および窒素の再利用に関する研究	小野寺真一(広島大学),清水裕太(日本学術振興会特別研究員PD),齋藤光代(岡山大学),松森堅治,高橋英博,金広哲(広島大学),谷口智雅(広島大学)	2014.10	日本水文科学学会学術大会発表要旨集	29,91-92
119	An assessment of impact of ammonia volatilization on the water	清水裕太(日本学術振興会特別研究員PD),松森堅治,志村もと子,渡邊修一,望月秀俊,石岡徹,笠原賢明	2014.11	AGRO'2014-9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in AGro-Industries environment from intensive poultry farming in western Japan	*,601-605
120	地下水水位制御システム設置枠圃場におけるダイズ・コムギ作付け時の窒素流出特性	清水裕太(日本学術振興会特別研究員PD),笠原賢明,松森堅治,望月秀俊,竹田博之,石川直幸,奥野林太郎	2014.9	日本土壌肥科学会講要	60,15
121	郊外流域におけるSWATモデルを用いた時間単位での窒素輸送量の推定	清水裕太(日本学術振興会特別研究員PD),小野寺真一(広島大学),松森堅治	2014.4	日本地球惑星科学連合2014年大会	AHW28-05
122	産地形成に寄与する実践コミュニティの役割一北海道S町農協馬鈴薯振興会を対象として一	河野洋一(帯広畜産大学),大室健治,稲泉博己(東京農業大学)	2014.9	平成26年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	*,132-133
123	Institutional support for community development through organic farming:case from ogawa town,Japan	下口ニナ(東京農業大学),稲泉博己(東京農業大学),大室健治	2014.8	Asia Pacific Assosiation of Educators in Agriculture and Environment 6th International Conference Abstracts	*,46
124	イネにおける新規オーキシン生合成阻害剤の作用解析	中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所),青山龍司(横浜市立大学・木原生物学研究所),國土祐未子,石井貴広,佐藤明子(横浜市立大学・木原生物学研究所),菊地理恵(神奈川大),寛雄介(横浜市立大学・木原生物学研究所),添野和雄,嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2015.3	第56回日本植物生理学会年會要旨集	*,306
125	ショウガ白星病とミョウガ葉枯病の病原菌比較	矢野和孝(高知農技セ),富岡啓介,森田泰彰(高知農技セ)	2014.11	日本植物病理学会報	80(4),236
126	ダイズ耐裂莢性遺伝子はディリジェント様タンパク質が関与する新たな裂莢機構を示す	藤野介延(北大農),鈴木雅也(北大農),廣瀬亜矢(退職(元北農研特別研究員等)),稲葉大貴(北大農),山田哲也,羽鹿牧太,小松邦彦(農水技術会議事務局),片山健至(香川大農),佐山貴司(生物研),石本政男(生物研),船附秀行	2015.3	Plant and Cell Physiology	56(Suppl), 261
127	広島県で栽培した西南暖地向け水稲新系統「中国201号」の食味評価	土屋隆生(広島県穀物改良協会),塚本栄孝(JA全農ひろしま),船附稚子,重宗明子,中込弘二,出田収	2014.7	日本作物学会中国支部研究集録	54,25-26
128	軟質性・高温登熟耐性を持った酒米選抜のための少量米での簡易評価手法の検討	山崎梨沙(広島県立総合技術研究所),大土井律之(広島県立総合技術研究所),勝場善之助(広島県立総合技術研究所),出田収,船附稚子,重宗明子,中込弘二	2014.10	平成26年度醸造学会要旨	*,9

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
129	国産ダイズ品種間の組換え自殖系統における難解析形質のゲノム予測モデルの構築と選抜の試行	津田麻衣(農業生物資源研究所), 清水武彦(農業生物資源研究所), 町田佳代(農業生物資源研究所), 猿田正恭, 山田哲也, 石本政男(農業生物資源研究所), 加賀秋人(農業生物資源研究所)	2014.9	育種学研究	16(別2),19
130	ダイズ裂莢性 QTL に関する準同質遺伝子系統を用いた裂莢機構の生理学的解析	稲葉大貴(北大農), 鈴木雅也(北大農), 船附秀行, 藤野介延(北大農)	2015.3	第 239 回日本作物学会講演会講演要旨集	*,199
131	促成栽培ナス圃場におけるスワルスキーカブリダニの温存に適した景観植物の検討	西優輔(岡山農総セ), 畔柳泰典(岡山農総セ), 綱島健司(岡山農総セ), 安部順一朗	2015.3	第 59 回日本応用動物昆虫学会大会	*,82
132	促成栽培キュウリにおけるタバコカスミカメのバンカー植物の混植が各植物の生育、収量に及ぼす影響	綱島健司(岡山農総セ), 安部順一朗, 飛川光治(岡山農総セ), 西優輔(岡山農総セ)	2014.9	日本園芸学会平成 26 年度秋季大会	13,454
133	イチゴ高設栽培システムの違いが無育苗栽培法によるイチゴ促成栽培の初期生育と花芽分化に及ぼす影響	金森健一(島根農技セ), 山崎敬亮, 松崎朝浩(香川農試), 内山知二(大阪環農水研), 森川信也(大阪環農水研), 大西亮樹(愛媛農水研), 石津文人(島根農技セ)	2015.3	園芸学研究	14(別1),159
134	本州中山間地における飼料専用品種「たちあやか」「たちすずか」の種子生産に関する研究	土方浩嗣(家畜改良センター茨城牧場長野支場), 中込弘二, 川口優(家畜改良センター茨城牧場長野支場)	2015.3	日本草地学会信州大会	61(別),159
135	ダイコン鋤き込みによる生物的土壌燻蒸処理後のハウレンソウ萎凋病の発病とその要因	吉岡陸人(山口農総セ), 竹原利明, 鍛冶原寛(山口農総セ)	2015.3	平成 27 年度日本植物病理学会大会講演要旨集	*,116
136	マイクロサテライト遺伝型解析で検出された Rhizoctonia solani AG-1 IA のイネ・ダイズ個体群の相互感染およびトウモロコシ個体群の分化	牧田結衣(名城大農), 竹原利明, 西川盾士(サカタのタネ), 稲垣公治(名城大農), 荒川征夫(名城大農)	2015.3	平成 27 年度日本植物病理学会大会講演要旨集	*,53
137	実践コミュニティとしての郷土芸能活動が農村の維持発展に果たす役割ー岩手県 O 地区の事例ー	平口嘉典(女子栄養大学), 安江紘幸, 大室健治, 稲泉博己(東京農業大学)	2015.3	2015 年度日本農業経済学会大会報告要旨	*,K19
138	広域連携した大規模水田作経営における最適営農計画ー石川県奥能登地域の K 社を事例としてー	安江紘幸, 大室健治	2014.9	平成 26 年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	*,76-77
139	アミロース含量の異なるいくつかの大麦澱粉の構造と性質	井ノ内直良(福山大学生命工学部), 高橋飛鳥, 増原大成(福山大学生命工学部), 中浦嘉子(福山大学生命工学部), 吉岡藤治	2015.3	日本農芸化学会	**,*
140	大麦または大麦β-グルカン抽出物の摂取が食餌性肥満マウスの耐糖能に及ぼす影響	加藤美智子(大妻女子大学), 小前幸三, 一ノ瀬靖則, 吉岡藤治, 青江誠一郎(大妻女子大学)	2014.5	日本栄養・食糧学会 2014 年講演会	**,*
141	異なる LED 照射条件で育成したリーフレタス栽培品種の成長解析	西澤美秋(山口大学農学部), 吉越恆, 大竹範子(昭和電工), 米田正(昭和電工), 鈴木廣志(昭和電工), 三小田崇(中原採種場), 諸岡謙(中原採種場), 山本晴彦(山口大学農学部), 山内直樹(山口大学農学部), 執行正義(山口大学農学部)	2014.9	園芸学会平成 26 年度秋季大会研究発表およびシンポジウム講演要旨	13(2),189
142	ストックの糸状菌病に対する生物防除微生物 Pythium oligandrum の施用効果	平里奈(山形大), 三橋由香里(山形大), 井上美咲(山形大), 菅原敬(山形西村山農普), 小林隆(山形大), 竹中重仁, 長谷修(山形大)	2015.3	日本植物病理学会創立 100 周年記念大会講演要旨集	*,105
143	日本水稲の集団構造と諸特性	山崎将紀(神戸大院農), 江花薫子(生物研), 出田収	2014.11	近畿作物・育種研究会講演要旨集	178,13
144	イネ発育予測のためのモデルパラメータの高速推定: 粒子群最適化 (PSO) と GPU コンピューティングの応用	青池亨(東大農), 渡部真哉(東大農), 小野木章雄(東大農), 出田収, 吉岡拓磨(神戸大院農), 江花薫子(生物研), 山崎将紀(神戸大院農), 中川博視, 岩田洋佳(東大農)	2014.9	育種学研究	16(別2),118

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
145	イネ出穂期予測モデル構築の高速化:PSO アルゴリズムと GPU 並列計算の応用	青池亨(東大農),渡部真哉(東大農),小野木章雄(東大農),出田収,吉岡拓磨(神戸大院農),江花薫子(生物研),山崎将紀(神戸大院農),中川博視,岩田洋佳(東大農)	2014.7	イネ遺伝学・分子生物学ワークショップ 2014	*,30
146	イノシシの図形弁別に用いる実験手法の検討	坂倉健太(麻布大学),江口祐輔,堂山宗一郎,上田弘則,植竹勝治(麻布大学),田中智夫(麻布大学)	2015.3	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	51(1),51
147	ブタは色の識別を手がかりに餌を獲得できるのか	柴原暖佳(麻布大学),江口祐輔,植竹勝治(麻布大学),田中智夫(麻布大学)	2015.3	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	51(1),22
148	水田圃場整備による河川窒素濃度への影響	松森堅治	2014.12	平成 26 年度第 6 回霞ヶ浦勉強会	*,26-45

V 研究情報活動

4) その他

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	平成 25 年度問題別研究会及び試験研究推進会議の概要	菊地淳志	2014.8	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	56,49-50
2	グループの農作業の進み具合がすぐ分かるスマホ用アプリ	寺元郁博	2014.12	近中四農研ニュース	55.3
3	大規模農家の有無と農地の維持	渡部博明	2014.9	近中四農研ニュース	53.4
4	「マルドリ方式」によって高品質果実率をどれ位改善すればよいか?	棚田光雄	2014.9	近中四農研ニュース	53.5
5	中国・四国雑草研究会	橘雅明	2014.9	雑草研究	59,189
6	園内道の整備のための設計支援システム	細川雅敏	2015.3	近中四農研ニュース	56.4
7	循環扇が作り出す温室内の空気の流れを可視化する	畔柳武司	2014.12	近中四農研ニュース	55.5
8	地下水水位制御システムを利用した梅雨明け後播種大豆の苗立ち安定向上技術	竹田博之	2014.10	近中四農研ニュース	54.3
9	多収の“もち麦”品種の育成に向けて	吉岡藤治	2014.10	近中四農研ニュース	54.4
10	高温に強い水稲品種の育成に向けて	出田収	2014.12	近中四農研ニュース	55.4
11	高温下でも品質が優れ、良食味で多収の水稲新品種「恋の予感」	出田収	2014.12	近中四農研ニュース	55.6
12	農業用フィルム・資材・園芸施設の技術開発と高機能化、耐久性・物性・栽培試験の評価、市場動向：施設園芸における被覆断熱資材の役割とその保温・断熱性能・効果、研究動向	川嶋浩樹	2014.8	AndTech	*,103-110
13	冬作イタリアンライグラス草地のイノシシによる採食被害の実態と対策	上田弘則	2014.12	酪農ジャーナル	67,33-35
14	管理作業の省力化・軽労化を推進—中山間地域の稲作をどうするのか—	亀井雅浩	2014.12	機械化農業(株式会社新農林社)	3164,17-21
15	農業技術体系 イネ 基本技術：深植弱深水栽培による白未熟粒の抑制	千葉雅大	2015.2	農山漁村文化協会	522-29-51-27-8
16	果実・果汁飲料と機能性成分(16)カンキツ機能性成分とアラキドン酸代謝系酵素阻害活性	野方洋一	2014.4	食品と容器	55(4), 218-224
17	大豆の生産・品質向上に関する技術等について	岡部昭典	2014.12	平成 24・25 年度近畿産大豆生産・需要拡大協議会報告書	*,7-8
18	カンキツ園における圃場整備が流出水に及ぼす影響	向井章恵	2015.3	果実日本	70,52-55
19	寒冷地の稲発酵粗飼料生産におけるタイヌビエの許容残草量	橘雅明	2015.1	植調	48,377-381
20	多収で製パン性に優れる温暖地向けパン用小麦新品種「せときらら」	高田兼則	2014.6	米麦改良	6月号,14-19
21	近年における胴割れ米発生状況と軽減対策	長田健二	2014.5	NOSAI	66(5),35-42
22	豆腐研究 加熱絞豆乳と豆腐特性との関係	川瀬真市朗	2014.5	フードジャーナル	*,46-49
23	農業総覧防除・資材編 ショクガタマバエ	安部順一朗	2015.3	農山漁村文化協会	*,93-100
24	小型除草ロボットの開発	中元陽一	2014.10	JATAFF ジャーナル	2(10),5-9
25	草刈りロボットの開発	中元陽一	2014.12	機械化農業	3164,30-33
26	最新農業技術 土壌施肥 vol.7：転換畑ダイズ不耕起狭畦栽培の梅雨期ならびに梅雨明け後播種における地下水水位制御システムの利用	竹田博之	2015.3	農山漁村文化協会	*,179-189
27	最新畜産ハンドブック：第3章「家畜の生体機構」—第3節「産肉の生体機構」	柴田昌宏	2014.7	講談社	*,145-152
28	放牧牛の繁殖管理を大幅に省力化できる繁殖プログラム	後藤裕司	2014.6	酪農ジャーナル	6,22-24
29	繁殖プログラムを利用した放牧牛の省力的繁殖管理	後藤裕司, 手島茂樹	2014.7	畜産技術	7,24-27

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
30	高温登熟性に優れ、良食味で多収の水稲新品種「恋の予感」	出田収	2014.12	米麦改良	12,8-11
31	大規模タイル地図をオフラインにAndroid 端末で使う	寺元郁博	2014.10	FOSS4G 2014 Osaka	50 名
32	近中四農研におけるコムギの子実カドミウムの低減化に向けた品種開発	谷中美貴子	2014.9	平成 26 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産推進部会冬作技術研究会	27 名
33	打って出る！「出張直売」のススメ	室岡順一	2014.9	農産物直売所”農力”UP 講座	53 名
34	農産物直売所 打って出る！「出張直売」のススメ	室岡順一	2014.11	農産物直売所 打って出る！「出張直売」のススメ	*,1-15
35	低段密植トマトへの CO2 局所施用が収量、施用効率へ及ぼす影響	畔柳武司, 磯崎真英 (三重農研), 太田雄也 (三重農研), 鈴木賢 (紀州地域農業改良普及セ)	2014.8	収量、収益の増加につながる CO2 施用の新技术	46 名
36	2013 ベトナム施設園芸現地研修ツアーに参加して	畔柳武司	2014.4	施設と園芸	165,50-55
37	分子生物学的手法を用いたセンチュウ密度と被害程度の予測	佐藤恵利華	2014.11	平成 26 年度近畿地域マッチングフォーラム	91 名
38	リアルタイム PCR による定量検出	佐藤恵利華	2014.10	京都大学学術出版会	*,69-71
39	家畜ふん堆肥等施用と化学肥料施用の LCA、環境影響の経済評価	志村もと子, 高橋英博	2015.2	第 32 回土・水研究会	180 名
40	人工湿地と活性汚泥法の環境影響評価 (LCA)	志村もと子, 高橋英博	2014.8	第 9 回人工湿地ワークショップ 2014in 仙台	40 名
41	被覆資材の基礎知識	川嶋浩樹	2014.5	第 16 回施設園芸技術初級講座 ((一社) 日本施設園芸協会)	*,111-127
42	傾斜地園芸研究領域の研究紹介	川嶋浩樹	2014.7	平成 26 年度行政部局と農研機構との野菜に関する情報・意見交換会 (野菜茶業研究所)	45 名
43	最新省エネ・節油技術の現状と展望	川嶋浩樹	2014.7	平成 26 年度栃木県花き生産者大会 ((一社) とちぎ農産物マーケティング協会、全国農業協同組合連合会栃木県本部)	*,37-45
44	ハウスの高強度化と省エネ技術実証経過	川嶋浩樹	2014.7	第 5 回未来農業検討会 (佐藤産業)	50 名
45	Development of new energy-saving pipe-frame greenhouse	川嶋浩樹	2014.10	Taishan Academic Forum (泰安学術フォーラム) (山東省教育庁)	300 名
46	花づくり、これからの省エネ対策	川嶋浩樹	2014.10	香川県花き研究会 (花の里かがわ推進委員会)	100 名
47	施設園芸における省エネ技術の現状と新技术	川嶋浩樹	2014.10	平成 26 年度まとまりある園芸産地活性化事業にかかる「低コスト・省エネ及びハウス内環境制御技術講演会」(須崎農業振興センター)	90 名
48	施設園芸における省エネ・保温技術の現状	川嶋浩樹	2014.12	平成 26 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 野菜推進部会問題別研究会「施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術」(近畿中国四国農業試験研究推進会議野菜推進部会)	*,79-88
49	飛ばテン研究におけるこれまでの経緯と今後の展望	世古智一	2014.6	平成 26 年度農研機構近畿中国四国農業研究センターミニシンポジウムおよび現地検討会「飛ばない天敵による害虫防除：施設から露地への新展開」	75 名
50	飛ばないテントウムシから最近の天敵事情について	世古智一	2014.8	第 5 回全国施設園芸生産者会議	40 名
51	環境保全型害虫防除体系を構築する上での飛ばないナミテントウの使い道	世古智一	2014.11	平成 26 年度近畿地域マッチングフォーラム	91 名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
52	施設野菜類におけるテントトップの有効性と課題	世古智一	2014.12	平成 26 年度農研機構近畿中国四国農業研究センター現地検討会「飛ばないナミテントウ製剤「テントトップ」&バンカー植物「スカエボラ」～普及に向けての課題と対策～」	51 名
53	飛ばないナミテントウ利用技術マニュアル (研究成果集付き)	世古智一	2014.6	近畿中国四国農業研究センター	1-34
54	飛ばないテントウムシ福山で開発害虫駆除に	世古智一	2014.6	HOME J ステーション (広島ホームテレビ)	
55	"生物"の農薬!飛ばないテントウムシで害虫駆除	世古智一	2014.7	テレビ派 (広島テレビ)	
56	飛ばないテントウムシが誕生 害虫駆除へ	世古智一	2014.7	今日感テレビ (RKB 毎日放送)	
57	テントウムシおまけ知識	世古智一	2014.8	CREAM QUIZ ミラクル9 (テレビ朝日)	
58	害虫駆除用飛ばないテントウムシ	世古智一	2014.8	NHK ニュースおはよう日本 (NHK)	
59	農研機構主任研究員 世古智一さん	世古智一	2014.9	NEWS ZERO ZERO human (日本テレビ)	
60	夢の生物農薬“飛ばないテントウムシ”	世古智一, 三浦一芸	2014.10	サイエンスゼロ (NHK)	
61	生物農薬について	世古智一	2014.7	JAM The WORLD (FM ラジオ J-WAVE)	
62	飛ばないテントウムシ	世古智一	2014.7	気分爽快! 多田しげおの朝から PON「情報サプリメント」(名古屋 CBC ラジオ)	
63	野菜等の光応答メカニズムの解明及び高度利用技術の開発: 第 6 編 光質制御被覆材を用いた光の RGB 比制御による葉菜類の生育促進	山崎敬亮, 市村拓野 (三菱樹脂株式会社産業フィルム開発センター), 瀧本浩	2015.2	プロジェクト研究成果シリーズ	532,73-84
64	温暖化を克服! イチゴ安定生産技術の最前線	山崎敬亮	2014.8	イチゴ栽培技術研究会 (和歌山県)	70 名
65	クリスマスのイチゴを守れ! 温暖化に負けないイチゴ栽培	山崎敬亮	2014.10	農業のライブ&ワーク (FM いかる)	
66	気化潜熱を利用した培地冷却能を有するイチゴ高設栽培装置の紹介	山崎敬亮	2014.12	公開討論 (イチゴ高設栽培標準化フォーラム) 飛躍的な生産性向上を実現するイチゴ生産プラットフォームとは	120 名
67	イノシシ	江口祐輔, 堂山宗一郎	2014.11	ダーウィンが来た! (NHK)	
68	海を渡るイノシシ	江口祐輔	2014.11	番記者 (日本テレビ)	
69	野生動物問題解決に向けての取り組みや研究成果の紹介	江口祐輔	2014.10	JICA 研修事業 GIS・リモートセンシングを利用した生物多様性保全のための野生動物保護管理計画	8 名
70	日射制御型拍動自動灌水技術について	渡邊修一	2014.8	「日射制御型拍動自動灌水技術」研修会 (山形県村山総合支庁西庁舎 2F)	40 名
71	拍動灌水の特徴と普及状況	渡邊修一	2014.8	近畿中国四国農業試験研究推進会議土壌肥料推進部会問題別研究会	40 名
72	"減肥を目指した"露地栽培への点滴かん水導入の手引き	渡邊修一, 笠原賢明, 漆原昌二 (岩手県農業研究センター)	2014.10	「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト B2 系」研究成果	
73	土壌伝染性フザリウム病との闘い	竹原利明	2014.5	岡山植物病理セミナー (講演) (岡山大学), 5 月 10 日	約 70 名
74	有機農業技術の研究展開と「有機農業実践の手引き」について	竹原利明	2014.11	平成 26 年度行政ニーズ対応研修講師 (有機農業普及支援研修(野菜), 農林水産研修所つくば館, 11 月 27 日)	23 名
75	バイオフィューミゲーションによる土壌病害の防除	竹原利明	2014.11	平成 26 年度近畿地域マッチングフォーラム	91 名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
76	やせいどうぶつ	上田弘則	2014.4	野菜栽培体験道場(邑智小学校)	30名
77	被害実態に応じた対策のポイント	上田弘則	2014.6	第1回鳥獣被害対策技術指導研修会(徳島県・近中四主催)	40名
78	野生動物の生態からわかる被害対策	上田弘則	2014.7	平成26年度農作物鳥獣害防止指導者育成研修	40名
79	鳥獣害対策	上田弘則	2014.7	広島県農業技術大学校2年生カリキュラム	30名
80	野生動物の行動と被害対策1(大型獣)	上田弘則	2014.8	第2回鳥獣被害対策技術指導研修会(徳島県・近中四主催)	40名
81	野生動物の行動と被害対策2(中型獣)	上田弘則	2014.10	第3回鳥獣被害対策技術指導研修会(徳島県・近中四主催)	40名
82	ほにゅうるい	上田弘則	2014.6	野菜栽培体験道場(邑智小学校)	30名
83	やせいどうぶつとのつきあいかた	上田弘則	2014.10	野菜栽培体験道場(邑智小学校/JICA)	40名
84	野生動物の生態を踏まえた被害対策	上田弘則	2014.11	三重県獣害対策指導者育成講座	60名
85	シカの被害対策～生態と行動から学ぶ～	上田弘則	2014.11	津地域獣害防止対策研修会	100名
86	農家が自立して行う対策と獣害に強い集落作り	上田弘則	2014.11	イノシシ等被害防止対策研修会(三原市)	100名
87	冬場の餌を考える	上田弘則	2014.12	第4回鳥獣被害対策技術指導研修会(徳島県・近中四主催)	40名
88	サル用防護柵の設置研修	上田弘則	2014.7	サル被害防止対策研修会(美郷町)	10名
89	焼きいも事典	上田弘則	2014.10	一般財団法人いも類振興会	*125-127
90	鳥獣害対策のまとめ	上田弘則	2015.1	第5回鳥獣被害対策技術指導研修会(徳島県・近中四主催)	20名
91	農業のライフ&ワーク「アブラナ科野菜根こぶ病」	福永亜矢子	2014.11	FMいかる	
92	農業のライフ&ワーク「農産物の抗酸化性」	福永亜矢子	2014.12	FMいかる	
93	大学院からの研生活	森伸介	2014.10	生物応用化学科研究室演習(二)	30名
94	農業気象早期警戒・栽培支援システム(AMATERAS)について	黒瀬義孝	2014.9	中国四国地域農業気象協議会	36名
95	海を泳ぐイノシシについて	堂山宗一郎	2014.11	気分爽快!!朝からPON(CBCラジオ)	
96	イノシシの生態と行動について	堂山宗一郎	2014.11	Nスタ(TBS)	
97	野生動物の行動から被害対策を考える	堂山宗一郎	2014.6	獣被害対策研修会(主催:宇都井自治会)	30名
98	鳥獣の生態と地域ぐるみで行う鳥獣被害防止対策について	堂山宗一郎	2014.6	小海地区鳥獣被害防止対策研修会(主催:土庄町農林水産課)	20名
99	鳥獣害対策	堂山宗一郎	2014.7	サマーアグリミーティング2014in島根(主催:全国農業協同組合島根本部)	100名
100	鳥獣別対策研修 イノシシ	堂山宗一郎	2014.8	鳥獣被害対策実施隊員育成研修(主催:鹿児島県農業農村振興協会)	65名
101	イノシシの目線で行う被害対策	堂山宗一郎	2014.9	鳥獣被害対策研修会(主催:菊川市有害鳥獣対策協議会)	50名
102	鳥獣の生態と地域ぐるみで行う鳥獣被害防止対策について	堂山宗一郎	2014.10	鳥獣被害防止対策講習会(主催:土庄町農林水産課)	30名
103	野生動物の行動から考える被害対策	堂山宗一郎	2014.11	鳥獣被害対策研修会(主催:県央地区有害鳥獣被害対策推進ブロック協議会)	100名
104	イノシシを知って被害対策を考える	堂山宗一郎	2014.12	建部町イノシシ対策講演会(主催:岡山市経済局)	80名
105	イノシシを知って被害対策を考える	堂山宗一郎	2014.12	伊島町イノシシ対策講演会(主催:岡山市経済局)	60名
106	野生動物について	堂山宗一郎	2014.4	邑智小学校課外授業(主催:邑智小学校)	30名
107	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.4	鳥獣被害対策研修会 大田市三瓶町志学(主催:大田市農林水産課)	20名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
108	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.5	鳥獣被害対策研修会 大田市久手町 (主催:大田市農林水産課)	20名
109	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.5	鳥獣被害対策研修会 大田市静間町 (主催:大田市農林水産課)	20名
110	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.5	鳥獣被害対策研修会1 大田市大田町 (主催:大田市農林水産課)	20名
111	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.5	鳥獣被害対策研修会2 大田市大田町 (主催:大田市農林水産課)	20名
112	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.6	鳥獣被害対策研修会 大田市温泉津町 (主催:大田市農林水産課)	20名
113	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.6	鳥獣被害対策研修会3 大田市大田町 (主催:大田市農林水産課)	20名
114	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.6	鳥獣被害対策研修会4 大田市大田町 (主催:大田市農林水産課)	20名
115	サルを知って被害を防ぐ	堂山宗一郎	2014.8	鳥獣被害対策研修会 大田市久利町 (主催:大田市農林水産課)	30名
116	鳥獣害対策の進め方	堂山宗一郎	2014.5	鳥獣被害対策研修会 大田市三瓶町池田 (主催:大田市農林水産課)	20名
117	野生動物について	堂山宗一郎	2014.10	邑智小学校課外授業 (主催:邑智小学校)	30名
118	日本の野生動物管理について	堂山宗一郎	2014.10	JICA 研修生研修 (主催:美郷町)	10名
119	なぜ被害を防げないのか 多獣種に対応するための侵入防止柵(現地実習)	堂山宗一郎	2014.6	平成26年度鳥獣被害対策技術指導研修会 (主催:徳島県,近畿中国四国農業研究センター)	50名
120	野生動物の行動と被害対策2(中型獣)	堂山宗一郎	2014.10	平成26年度鳥獣被害対策技術指導研修会 (主催:徳島県,近畿中国四国農業研究センター)	50名
121	指導実践	堂山宗一郎	2014.12	平成26年度鳥獣被害対策技術指導研修会 (主催:徳島県,近畿中国四国農業研究センター)	30名
122	ここがポイント!鳥獣害対策	堂山宗一郎	2014.10	鳥獣害対策勉強会 (主催:JA雲南)	20名
123	鳥獣害対策 Q & A	堂山宗一郎	2014.10	鳥獣被害対策現地検討会 (主催:四国地域野生鳥獣対策ネットワーク)	100名
124	検討会 Q&A	堂山宗一郎	2014.12	鳥獣被害対策現地検討会 (主催:中国地域野生鳥獣対策ネットワーク)	30名
125	クマについて	堂山宗一郎	2014.6	久屋小学校授業 (主催:大田市立久屋小学校)	60名
126	樹園地の園内道整備のための設計支援システムー操作マニュアルー	細川雅敏,田中宏明(農林水産省農林水産技術会議事務局),島崎昌彦,向井章恵,中元陽一,根角博久	2015.1	近畿中国四国農業研究センター	*1-65
127	測量なしで園内道の概要設計を可能にする「園内道設計支援システム」	細川雅敏	2015.3	果実日本(日本園芸農業協同組合連合会)	70(3),38-41
128	野生動物の行動からわかる被害対策	江口祐輔	2014.7	平成26年度埼玉県鳥獣害防止指導者育成研修	40名
129	イノシシの特定計画の考え方	江口祐輔	2014.7	環境省委託自然環境研究センター特定鳥獣の保護管理に係る研修会(基礎編)	50名
130	野生動物の行動とつきあいかた	江口祐輔	2014.9	野生鳥獣とのつきあい方の講演会(宮城県白石市)	120名
131	被害防止対策(イノシシ等)について	江口祐輔	2014.11	平成26年度農作物獣害防止対策支援事業現地検討会(東京都)	60名
132	Wolbachia 感染天敵製剤の放飼は生態系に影響を与えるか?	三浦一芸,渡部真也(広島大),陰山大輔(生物研),日本典秀	2014.5	昆虫DNA研究会第11回研究集会プログラム	100名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
133	ネギアザミウマのバイオタイプ	三浦一芸	2014.7	第19回農林害虫防除研究大会 (徳島大会)	120名
134	黄色粘着板からの虫の回収とDNA抽出について	三浦一芸	2014.10	日本応用動物昆虫学会中国支部・日本昆虫学会中国支部平成26年度合同例会	50名
135	高温における水稲の品質低下軽減のための対策技術	千葉雅大	2014.7	宮城県酒造技術者交流会技術研修会	200名
136	どうしてグレープフルーツジュースを飲んだあと薬を飲んではいけないか	國賀武	2014.11	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	178,21-23
137	集落営農法人の経営規模の将来予測と成立条件ー山陽地方を対象とした統計分析と事例分析ー	渡部博明	2014.7	近畿中国四国農業営農推進部会問題別研究会	34名
138	Web版農業経営診断サービスの特徴と今後の改良方向	大室健治, 佐藤正衛, 松本浩一	2014.7	平成26年度近畿中国四国農業試験研究推進会議営農推進部会問題別研究会	約40名
139	大豆新品種の特性と栽培方法について	岡部昭典	2014.8	近畿産大豆生産・需要拡大協議会現地検討会	50名
140	授乳期の黒毛和種繁殖牛に対する「たちすずか」WCS給与が分娩後の繁殖成績に与える影響	大島一修, 後藤裕司, 山本直幸	2014.9	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証(課題番号25073C)」現地検討会	約100名
141	血中ROMs濃度と繁殖成績の関係	大島一修, 後藤裕司, 山本直幸	2014.9	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証(課題番号25073C)」現地検討会	約100名
142	新技術(マルドリ方式)の活用と経済性	棚田光雄	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム「産地力強化に向けた技術の挑戦」(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	76名
143	水だけを用いて穀類廃棄物から脂質を抽出する技術	川瀬眞市朗	2015.2	第14回LS-BT合同研究発表会	約400名
144	『原色 雑草診断・防除事典』カミツレモドキ	橘雅明	2014.6	農山漁村文化協会	*, 畑38-39
145	『原色 雑草診断・防除事典』ハルザキヤマガラシ	橘雅明	2014.6	農山漁村文化協会	*, 畑8-9
146	少量播種はイネ本来の力を発揮させる	藤本寛	2014.5	現代農業	5月号, 140-141
147	いろんな直播を見てみよう ダイレクトシーディングツアー	藤本寛	2014.8	中国四国土を考える会 岡山・鳥取・島根エリア研修会	約30名
148	イチゴのはなし	矢野孝喜	2014.10	第4回四国研究センターサイエンスカフェ	21名
149	生産性に優れる暖地向けパン用小麦「せときらら」の品種特性および小麦の製パン性	高田兼則	2014.12	平成26年度普及指導員等研修CO2 新品種・新技術コーディネーター研修(麦類)	8名
150	パンづくりの科学	高田兼則	2014.8	山口大学公開講座「小麦栽培から始めるパンづくり」	30名
151	ヒトと雑草の戦いー近未来の畦畔管理ー	伏見昭秀	2014.11	第11回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	20名
152	大豆の脱粒を司る遺伝子を確認	船附秀行, 藤野介延(北大農)	2015.2	ニューカントリー	731,54-55
153	異常天候早期警戒情報を活用した農作物の発育予測	黒瀬義孝	2015.1	近畿地域農業気象協議会	28名
154	農業利用のための領域気象モデル計算値の補正とその利用	植山秀紀	2014.11	平成26年度総合研究試験研究推進会議(農業気象分野)第8回農業気象研究会ー作物の気象災害におけるメッシュ気象データの活用と展望ー	58名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
155	園地からの流出水は「マルドリ方式」の水源として利用可能か	向井章恵	2014.7	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	176,22-23
156	新たなハウス内冷房システム「簡易設置型パッドアンドファン」	長崎裕司	2014.6	グリーンレポート(全農)	250,6-7
157	省エネ技術ならびに省力化の研究の開発動向ー近中四農研の取組を中心にー	長崎裕司	2014.9	広島県フラワー活性化協議会講演	40名
158	Durum breeding using common wheat in WARC	船附稚子	2014.4	Durum Research Seminar	25名
159	胴割れ米の発生要因と対策	長田健二	2014.11	平成26年度普及指導員等研修CO1①新品種・新技術コーディネーター研修(米①)	16名
160	飼料用米の品種と多収栽培	長田健二	2014.10	平成26年度全国農業システム化研究会「飼料用米・大豆の生産拡大に関する情報交換会(東海近畿北陸ブロック)」	20名
161	飼料用米生産に適した品種の特徴と栽培法	長田健二	2014.12	香川県西讃農業改良普及センター研修会	20名
162	水稲温暖化対策について	長田健二	2015.1	アグリ香寺研修会	40名
163	水稲の高温登熟障害を軽減する栽培法と高温に強い新品種の開発	長田健二	2015.2	岡山地区農業共済組合「水稲登熟不良等に関する講習会」	約70名
164	大豆の新品種に関する情報提供	高田吉丈	2014.10	平成26年度全国農業システム化研究会飼料用米・大豆の生産拡大に関する情報交換会(東海近畿北陸ブロック)	20名
165	トマトの低段密植栽培に対応したロボット開発	黒崎秀仁	2014.12	平成26年度事業化を加速する産学連携支援事業セミナー「未来の農業を創ろう!~農業ロボット・植物工場の最前線~(中四国アグリテック、農林水産省)	37名
166	カンキツ品種「たまみ」「せとみ」「はるみ」「不知火」「せとみ」の官能試験から捉えた消費者の嗜好性~中晩柑新品種の販売戦略への活用を考える~	齋藤仁蔵	2014.7	平成26年度近畿中国四国農業試験研究推進会議営農推進部会問題別研究会	34名
167	「甘いもの好き」と「酸っぱいもの好き」ではミカンの味の感じ方に違いがあるのか	齋藤仁蔵	2015.1	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	28(5),23-25
168	天敵温存による害虫防除技術	安部順一郎	2014.6	天敵及び温存植物講習会(倉敷かさや農業協同組合笠岡営農センター)	15名
169	天敵温存による害虫防除技術	安部順一郎	2014.6	促成なす天敵勉強会(倉敷かさや農業協同組合JA岡山西福井新田ナス生産組合)	20名
170	露地での「飛ばない天敵」の実用化に向けて	安部順一郎	2014.6	平成26年度農研機構近畿中国四国農業研究センターミニシンポジウムおよび現地検討会「飛ばない天敵による害虫防除:施設から露地への新展開」	75名
171	スカエボラ導入による天敵類の定着・増殖促進効果	安部順一郎	2014.12	平成26年度農研機構近畿中国四国農業研究センター現地検討会「飛ばないナミテントウ製剤「テントップ」&バンカー植物「スカエボラ」~普及に向けての課題と対策~」	51名
172	天敵を活かした野菜の害虫退治ー天敵銀行と飛ばないナミテントウの話ー	安部順一郎	2014.10	平成26年度綾部研究拠点一般公開	50名
173	花を植えて天敵の住み家を作る	安部順一郎	2014.11	平成26年度近畿地域マッチングフォーラム	91名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
174	露地野菜における土壌蓄積リン利用技術の開発と減肥の実証	渡邊修一, 笠原賢明, 吉川弘恭	2015.2	気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクトー循環型農業のための有機資材とその利用技術の開発 (B-1系)ー施肥削減に向けた生産技術体系の開発 (B-2系)	540,172-176
175	ダイズ難裂莢遺伝子の単離と品種育成での利用	船附秀行	2015.2	北海道農業研究推進会議生物工学会	30名
176	夏作ホウレンソウの前にハウスに春作エダマメ栽培を導入することにより土壌病害を防止する	吉田祐子	2015.2	「農業のライフ&ワーク」(FMいかる)	
177	畦畔用小型除草ロボットの開発	中元陽一	2014.12	平成26年度事業化を加速する産学連携支援事業セミナー「未来の農業を創ろうー農業ロボット・植物工場の最前線ー」(中四国アグリテック、農林水産省)	37名
178	タデ藍簡易収穫機の開発について	中元陽一	2014.10	「タデ藍の機械収穫作業機」圃場刈取り実演会(徳島県立農林水産総合技術支援センター)	31名
179	小型除草ロボットの開発状況について	中元陽一	2014.8	「小型ロボットによる畦畔除草等自動化技術の開発」成果発表セミナー「除草ロボットで草刈りを楽に、安全に」(近畿中国四国農業研究センター)	97名
180	「株ゆるめ」処理等の機械開発	中元陽一	2014.11	「クリ新品種「ぼろたん」の産地拡大の阻害要因である凍害発生の抑制技術」成果伝達会(農系機構果樹研究所、農研機構近畿中国四国研究センター、兵庫県立農林水産技術総合センター、兵庫県丹波農業改良普及センター、岐阜県中山間農業研究所、岐阜県農政部農業経営課、岐阜県恵那農林事務所)	70名
181	農作業安全と快適化に関する現在と未来ー近中四農研における取り組みー	中元陽一	2014.12	平成26年度農研機構セミナー農作業安全セミナー西日本版ー安全かつ快適な農作業実現のためにー(近畿中国四国農業研究センター)	70名
182	指導実践	堂山宗一郎	2015.1	平成26年度鳥獣被害対策技術指導研修会(主催:徳島県,近畿中国四国農業研究センター)	40名
183	野生動物の行動から被害対策を考える	堂山宗一郎	2015.1	薩摩川内市鳥獣被害講習会(主催:薩摩川内市鳥獣被害対策協議会)	80名
184	スマートフォン用収穫作業記録作成アプリについて	寺元郁博	2015.2	確信技術等波及展開支援事業(稲作技術カタログ)	100名
185	地下水位制御システム(フォアス)の導入	竹田博之	2014.8	「中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証」現地見学会	102名
186	夏のハウスにおける遮熱対策	村上健二	2014.7	「農業のライフ&ワーク」FMいかる	
187	中山間地での軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証	奥野林太郎	2015.3	水田農業における革新的で夢のある技術体系の確立に向けたワークショップ	約80名
188	製パン性に関わる小麦品種の遺伝的素質について	池田達哉	2015.3	Pain {(株) J・I・B}	62(3), 14-18
189	敵を知って行う被害対策	堂山宗一郎	2015.2	小豆郡青年農業者等島内研修会	50名
190	間違いだらけの被害対策	堂山宗一郎	2015.2	大田市水上町鳥獣被害対策研修会	40名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
191	野生動物の行動からわかる被害対策	江口祐輔	2014.7	平成 26 年度埼玉県鳥獣害防止 指導者育成研修	40 名
192	サル被害対策とイノシシ・シカ被害 等に強い集落対策	江口祐輔	2014.11	大分県玖珠郡鳥獣害アドバイザー 養成研修	60 名
193	サル被害対策とイノシシ・シカ被害 等に強い集落対策	江口祐輔	2014.11	大分県津久見市鳥獣害アドバイザー 養成研修	55 名
194	イノシシから田畑を守る	江口祐輔	2015.1	北和の農を考えるつどい(奈良 県)	120 名
195	被害発生の要因	江口祐輔	2014.6	平成 26 年度第 1 回鳥獣被害対 策技術指導研修会	40 名
196	野生動物の行動と防護柵設置の注意 点	江口祐輔	2014.8	平成 26 年度第 2 回鳥獣被害対 策技術指導研修会	30 名
197	季節に応じた被害対策の実践	江口祐輔	2014.10	平成 26 年度第 3 回鳥獣被害対 策技術指導研修会	30 名
198	農家に伝わるやり取りの実践	江口祐輔	2014.12	平成 26 年度第 4 回鳥獣被害対 策技術指導研修会	30 名
199	野生動物の行動と被害対策の考え方	江口祐輔	2014.11	大和地域農業振興部会イノシシ 等被害防止対策研修会(広島)	70 名
200	被害対策の考え方について	江口祐輔	2014.4	島根県県央事務所研修	6 名
201	集落や農家が取り組める獣害対策	江口祐輔	2014.7	日高町農業会長会鳥獣害視察研 修	42 名
202	鳥獣害対策の考え方	江口祐輔	2014.7	室戸農業委員会被害対策研修	20 名
203	被害対策の考え方 イノシシを中心 に	江口祐輔	2014.11	農林水産省地域リーダー育成研 修事業宮崎研修	100 名
204	イノシシ被害対策の考え方と実践	江口祐輔	2014.12	農林水産省地域リーダー育成研 修事業沖縄研修	70 名
205	イノシシ・シカの被害対策	江口祐輔	2015.2	農林水産省地域リーダー育成研 修事業愛媛研修	50 名
206	野生動物の行動と被害対策	江口祐輔	2014.12	神奈川県厚木市における鳥獣被 害対策に関する研修会	95 名
207	野生動物の行動と被害対策	江口祐輔	2015.1	静岡県森町鳥獣被害対策研修会	120 名
208	イノシシの行動特性と農作物被害防 止対策について	江口祐輔	2015.2	氷見市イノシシ被害防止対策研 修会	150 名
209	イノシシの行動と被害対策	江口祐輔	2015.2	長崎県鳥獣対策研修会	180 名
210	野生動物における被害対策の重要性	江口祐輔, 上田弘則, 堂山宗一郎	2015.2	総合試験研究推進会議病害虫研 究会	101 名
211	ICT の活用によるマルドリ方式の高 度利用～産地単位で高品質安定生産 を実現するために～	根角博久	2015.2	果実日本	70(2),61-63
212	軽労働で高収益を実現するための園 地確立を目指して	根角博久	2015.3	果実日本	70(3),34-37
213	マルドリ方式・ICT などを活用した 省力的な高品質カンキツ安定生産技 術体系とその実現のための園地整備 技術の実証	根角博久	2014.11	アグリビジネス創出フェア(農 林水産省)	約 30 名
214	産地力強化に向けた技術の挑戦	根角博久	2014.11	しままみ・カンキツフェスタ 2014(愛媛県東予地方局今治支 局産地育成室、上島町、越智今 治農業協同組合)	40 名
215	マルドリ方式による高品質果実安定 生産技術の基礎と高度利用	根角博久	2014.10	平成 26 年度新品种・新技術コ ーディネーター活動支援事業 「新品种・新技術コーディネータ 研修会」(農林水産省)	12 名
216	フォーラム「産地力強化に向けた技 術の挑戦」の開催趣旨 産地ブラン ド確立型カンキツ作営農による収益 力強化の実現に向けて	根角博久	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム 産地力強化に向けた技術の挑戦 (革新的技術(カンキツ)コンソ ーシアム)	*,1-5
217	テーマ:水と施肥	根角博久	2014.12	静岡県施肥研究会	40 名
218	美味しい健康食材として注目される “もち麦”の国産品種「キラリモチ」	吉岡藤治, 高橋飛鳥	2014.10	農業日誌 平成 27 年(農林統計 協会)	*,308-309
219	美味しい健康食材として注目される “もち麦”品種「キラリモチ」	吉岡藤治	2014.9	技術と普及	51 (9月号),28

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
220	褐変しにくくβ-グルカン含量が高い“もち麦”品種「キラリモチ」	吉岡藤治	2014.11	技術と普及	51 (11月号),66
221	“もち麦”品種の育成と有望系統	吉岡藤治	2014.10	平成26年度中国四国地域マツチングフォーラム「“もち麦”人気を中心に新たな展開が期待される国産裸麦の生産と利用」	185名
222	美味しくβ-グルカン高含有の“もち麦”品種	吉岡藤治	2014.12	新品種・新技術コーディネーター研修会(麦類)	8名
223	美味しい機能性食材 大麦の品種特性とその活用	吉岡藤治	2015.1	第7回医食農連携プラットフォーム研究会	約40名
224	大麦・はだか麦・もち麦のはなし～食物繊維が豊富な、瀬戸内特産の機能性食材～	吉岡藤治	2014.9	食と農のサイエンスカフェ(近畿中国四国農業研究センター・福山)	17名
225	転炉スラグの施用がレタスビッグベイン病の発病に及ぼす影響	野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 大崎秀樹, 竹原利明	2015.3	平成26年度近畿中国四国農業試験研究推進会議病害虫推進部会問題別研究会	106名
226	農村における畦畔管理の省力化について	伏見昭秀	2015.3	平成26年度農と環境を守る地域協働活動支援事業 南丹・京都乙ブロック研修会(京都府南丹広域振興局)	200名
227	精密な圃地気象評価によるカンキツの高品質安定生産を目指して	植山秀紀	2014.5	香川の果樹	175,22-23
228	飼料用稲による耕畜連携が地域にもたらす経済効果について	友國宏一	2015.3	飼料稲栽培講習会・研修会(神石高原町)	45名
229	「たちすずか」WCSの黒毛和種育成牛に対する給与実証について	後藤裕司	2014.9	農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業「画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発調整」	約100名
230	超省エネハウスと布団資材の開発	川嶋浩樹	2015.2	第36回施設園芸総合セミナー((一社)日本施設園芸協会)	*,12-17
231	被覆資材の種類と利用	川嶋浩樹	2014.9	第9回施設園芸技術中級講座((一社)日本施設園芸協会)	*,1-12
232	苗立ち性・収量性・食味に優れた巨大胚品種「はいごころ」	出田収	2014.9	技術と普及	9,27
233	高温登熟性に優れ、良食味で多収の水稲新品種「恋の予感」	出田収	2015.2	グリーンレポート	548,7
234	2014年に登録(申請)された注目のイネ新品種「恋の予感」	出田収	2015.2	現代農業	2,310-311
235	茎枯・立枯症状を呈したダイズから分離されたPhomopsis longicolla	富岡啓介, 野見山孝司, 関口博之, 大崎秀樹, 竹原利明, 山崎諒, 竹田博之, 岡部昭典	2015.3	平成26年度近畿中国四国農業試験研究推進会議病害虫推進部会問題別研究会「高度管理手法による作物病害虫制御技術」	106名
236	「恋の予感」について	出田収	2014.9	お好みワイドひろしま(広島テレビ)	
237	異常気象に負けないお米「恋の予感」	出田収	2014.10	HOMEJステーション(広島ホームテレビ)	
238	恋の予感 夏の高温に強く、良食味で多収の水稲新品種	出田収	2014.11	コシヒカリ一族サミット	300名
239	高温下でも品質が優れ、良食味で多収の水稲新品種「恋の予感」を育成	出田収	2014.9	記者発表	*,*
240	授乳期の黒毛和種繁殖牛に対する「たちすずか」WCS給与が分娩後の繁殖成績に与える影響	大島一修	2015.3	平成26年度近畿中国四国農業試験研究推進会議畜産草地推進部会問題別研究会	約30名
241	中山間地域における大豆作の現状と課題ー広島県の集落営農法人を対象としてー	坂本英美	2014.7	平成26年度近中四農研推進会議営農推進部会問題別研究会資料	34名
242	水稲の高温障害に対応した技術対策と品質・食味向上について	長田健二	2015.3	平成26年度西讃地域「おいでまい」栽培者県外研修	24名
243	地下水位制御システム(FOEAS)を活用した大豆新品種「あきまる」の現地実証試験について	岡部昭典	2015.2	近畿産大豆生産・需要拡大協議会講演会	60名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
244	土壌水分制御をみかんのマルドリ栽培から考える。	星典宏	2015.2	醸造用ぶどう栽培を対象とした気候変動適応技術の検討会(北海道農業研究センター)	90名
245	マルチシート固定に最適!効率的に土のう作りができる器具を考案しました。	星典宏	2014.9	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	177,25-27
246	マルドリ方式の基本概念	星典宏	2014.9	農業技術研修生に対する特別講義(果樹研究所興津拠点)	30名
247	草地雑草ファイル:ワラビ	堤道生	2014.9	デーリィマン	9月号,62
248	高断熱資材で保温性を高め、ダブルアーチで構造強化したパイプハウス	川嶋浩樹	2014.7	最近の有用な農業技術~農業関係の研究機関の研究成果~(農林水産技術会議ホームページ)	
249	冬に備える施設園芸の簡単省エネ技術	川嶋浩樹	2014.10	農業共済新聞	10面
250	飛ばない天敵 可能性探る 近中四農研が 25. 26日に奈良で	世古智一	2014.6	日本農業新聞	14面
251	飛ばぬテントウムシ発売 狭い範囲にとどまり害虫駆除	世古智一	2014.6	中国新聞	27面
252	アブラムシ防除に飛ばないテントウムシ	世古智一	2014.6	読売新聞	33面
253	飛ばないナミテントウ 防除効果が長持ち 茨城「アグリセクト」販売スタート	世古智一	2014.6	日本農業新聞	14面
254	生物農薬 飛ばないテントウムシ 定着し大量に害虫退治	世古智一	2014.6	毎日新聞	28面
255	科学 飛ばないテントウムシ登場	世古智一	2014.6	朝日新聞	27面
256	施設野菜のアブラムシ防除 飛ばないナミテントウを製剤化	世古智一	2014.6	農業共済新聞	12面
257	飛ばないナミテントウ 露地へ適用めざす シンポで課題検討	世古智一	2014.6	日本農業新聞	16面
258	新技術 飛ばないナミテントウ	世古智一	2014.6	全国農業新聞	5面
259	仕事好きテントウムシ 飛ばない逃げないさばらない 福山の研究機関が開発	世古智一	2014.6	朝日新聞	33面
260	余録 飛ばないナミテントウ	世古智一	2014.7	毎日新聞	1面
261	飛ばないナミテントウ実用化	世古智一	2014.7	全国農業新聞	11面
262	生物農薬に実用化 飛ばないテントウムシ	世古智一	2014.7	山陽新聞	7面
263	顔 害虫駆除へ「飛ばないテントウムシ」を開発	世古智一	2014.7	読売新聞	2面
264	飛ばない天敵虫 アブラムシを黙々駆除 農研機構「農薬」として商品化	世古智一	2014.7	福島民報	23面
265	環境に優しく害虫退治 飛ばないテントウムシを開発	世古智一	2014.8	公明新聞	5面
266	天敵による害虫防除 飛ばテンでアブラムシを退治	世古智一	2014.10	農業日誌 平成27年(農林統計協会)	*302-303
267	害虫アブラムシをやっつける飛ばないテントウムシを発売	世古智一	2014.8	子供の科学(誠文堂新光社)	77(9),5
268	人間探訪 世古智一 テントウムシを使った環境にやさしい生物農薬を開発。	世古智一	2014.12	潮(潮出版)	12,244-249
269	“飛ばテン”は農業のスタイルを変えてくれるか	世古智一	2014.11	産業技術メールマガジン(経済産業省)	
270	飛ばないテントウムシ、見参!逃げずサボらず害虫退治	世古智一	2014.6	朝日新聞デジタル(朝日新聞社)	
271	Flightless ladybug could lessen reliance on chemical pesticides	世古智一	2014.6	The Asahi Shimbun Digital(朝日新聞社)	
272	飛ばないテントウムシ商品化	世古智一	2014.7	フォトニュース(時事通信)	
273	研究の紹介「施設野菜類で実用化された飛ばないナミテントウ」	世古智一	2014.9	近中四農研ニュース	53,4

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
274	トピックス「海外で見たことー長期在外研究員派遣制度(オランダ・ワーヘニンゲン大学)」	世古智一	2014.10	近中四農研ニュース	54,6
275	原色 雑草診断・防除辞典 ヒルガオ	伏見昭秀	2014.6	農村漁村文化協会	124, 口絵 80
276	イノシシの採食被害は草地更新をしていない牧草地でも発生する	上田弘則	2014.9	農業日誌 平成 27 年(農林統計協会)	*42-44
277	草地雑草ファイル「ヒメスイバ」	大谷一郎	2014.11	デーリイマン	64(11),58
278	園内道の整備のための支援システム	細川雅敏	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*2
279	大規模経営体・地域の農地維持に貢献	渡部博明	2014.11	全国農業新聞	3 面
280	カンキツの改植園における「マルドリ方式」導入の有効性	棚田光雄	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*12
281	さやのねじれ抑える遺伝子ー大豆落ちこぼれ軽減	船附秀行	2014.12	日本農業新聞	16 面
282	大豆の落ちこぼれを救う遺伝子	船附秀行	2014.12	化学工業日報	4 面
283	大豆の落下防ぐ遺伝子を特定・・・収穫増に期待	船附秀行	2015.1	YOMIURI ONLINE	科学面
284	大豆落下防ぐ遺伝子	船附秀行	2014.12	読売新聞(北海道版)	25 面
285	近畿中国四国地域の大豆新品種	高田吉丈	2014.8	農業共済新聞	13 面
286	団地型マルドリ方式取り組みのポイント	齋藤仁蔵	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*19
287	中山間等の小規模営農に対応した農業機械 特集のねらい	亀井雅浩	2014.10	JATAFF ジャーナル(公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会)	2(10),4
288	地元を知る	亀井雅浩	2014.12	近中四農研ニュース	55,2
289	傾斜地果樹園の作業道造成技術	中元陽一	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*9
290	大豆の梅雨明け後播種と苗立ち安定化ー地下水水位制御システムの活用	竹田博之	2014.10	農業日誌 平成 27 年(農林統計協会)	*218 - 219
291	園地ごとの最適管理実現のための精密園地気象推定技術	植山秀紀	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*21
292	園地からの流出水は点滴かん水に必要な量を満たすか	向井章恵	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*5
293	記念碑	中野正明	2014.9	近中四農研ニュース	53,2
294	かんきつ団地型マルドリ 導入コストを削減 主要設備を共同で利用	齋藤仁蔵	2014.11	農業共済新聞	13 面
295	団地型マルドリ方式の栽培状況の“見える化”手法の開発	星典宏	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*20
296	マルチシート押さえのための効率的な土のう作り器具	星典宏	2014.8	カンキツ革新技術フォーラム産地力強化に向けた技術の挑戦(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム)	*11

V 研究情報活動

3. 知的財産権

1) 産業財産権の登録および出願

【国内特許】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願公開 年月日	登録年月日および 登録番号
高設栽培装置と、高設栽培装置における透湿防水シートの施行方法	山崎敬亮、熊倉裕史、浜本浩、岩本辰弘		H26.12.12 特許第 5660558 号
遺伝的に飛翔能力を欠くテントウムシの作出方法	世古智一、三浦一芸、 (国) 岡山大学)		H26.8.15 特許第 5594657 号
切り花収穫機	田中宏明、中元陽一、松崎健文、長崎裕司、香川将志、大黒正道、岡信光、畔柳武司、 (みのる産業(株)、奈良県)		H26.11.7 特許第 5640270 号
果実の着色調整方法	國賀武		H27.1.23 特許第 5682870 号
イチゴの花芽分化促進方法	山崎敬亮、熊倉裕史、浜本浩		H26.12.12 特許第 5660571 号
単粒化した鉄粉被覆稲種子の製造方法	山内稔		H27.3.27 特許第 5717110 号
リン脂質及び／又はリゾリン脂質の抽出方法	川瀬眞市朗	H23.10.13	
オーキシン生合成阻害剤	添野和雄、 (独) 理化学研究所)	H24.9.7 (国際公開)	
NK細胞活性化剤、NK細胞活性化方法及びスクリーニング方法	齋藤武	H24.9.20	
植物栽培装置及び植物栽培装置における可動ベッドの運用方法	長崎裕司、中元陽一、川嶋浩樹、畔柳武司	H24.9.27	
自動灌水方法及びその装置	長崎裕司、吉川弘恭、川嶋浩樹	H24.10.18	
農業用傾斜地構造	澤村篤、星典宏、根角博久、川嶋浩樹、細川雅敏	H24.10.25	
農地の水分管理システム	澤村篤、星典宏、根角博久	H24.10.25	
農業用ハウス 1	星典宏、根角博久、川嶋浩樹、長崎裕司、澤村篤	H24.10.25	
農業用ハウス 2	澤村篤、星典宏、川嶋浩樹、長崎裕司、畔柳武司	H24.10.25	
農業用ハウス 3	澤村篤、星典宏、川嶋浩樹、長崎裕司、柴田昇平	H24.11.1	
温室構造体および温室構造体の温度調整方法	澤村篤、川嶋浩樹、 (住友大阪セメント(株))	H25.2.28	
かん水制御装置及びかん水制御方法	星典宏、井上久義、植山秀紀、根角博久	H25.4.25	
排土板及び排土装置	田中宏明、中元陽一、岡信光、松崎健文、藤川益弘	H25.5.13	
単軌条運搬機の停止位置自動制御装置	中元陽一、角川修、田中宏明、岡信光、松崎健文	H25.5.13	
オオムギ属植物の 1H 染色体の一部を導入することによる小麦粉の生地物性を向上させる方法	池田達哉、高田兼則、 (日本製粉(株)、国立大学法人岡山大学)	H26.3.27	
アタッチメント及びこれを用いた果樹根元処理方法	田中宏明、藤川益弘、岡信光、中元陽一、 (兵庫県立農林水産技術総合センター)	H26.5.8	
小麦ふすま、大麦糠、または米糠由来するペプチドを含む脂肪性肝疾患を処置するための組成物	野方洋一、 (学校法人久留米大学)	H26.5.12	
オーキシン生合成阻害剤	添野和雄、 (公立大学法人横浜市立大学)	H26.6.30	
測定装置	柴田昇平、植山秀紀、 (九州沖縄農業研究センター)	H26.9.8	
土壌採取補助具及び土壌採取方法	田中宏明、岡信光、藤川益弘、松上勝利、中元陽一、大谷恭史	H26.9.8	

V 研究情報活動

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願公開 年月日	登録年月日および 登録番号
ボロン酸基を有するオーキシシン生合成阻害剤	添野和雄、石井貴広、 (公立大学法人横浜市立大学)	H26.9.18	
地域集中探索型天敵の作出方法	世古智一、三浦一芸	H26.11.6	
植物生育環境調節装置	長崎裕司、山崎敬亮、 (大阪府環境農林水産総合研究所、 奈良県農業技術センター、鳥取大 学、大日本プラスチック(株)、 (株)ヴェイル)	H26.11.20	
植物の生育促進剤	関口博之、 (北海道農業研究センター、東北大 学、帯広畜産大学)	H27.1.29	

※新たに登録された特許および現在出願公開中の特許について掲載。その他、出願公表前出願中特許 8 件。

【実用新案】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願公開 年月日	登録年月日および 登録番号
土採取用筒	星典宏、藤川益弘、松上勝利、高 尾二郎、大谷恭史		H26.8.13 登録第 3192779 号

2) 新品種の登録および出願

【品種登録】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育成者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
小麦	せときらら	吉岡藤治、高橋飛鳥、 柳澤貴司、長嶺敬、 高山敏之、土井芳憲、 松中仁、藤田雅也、 土門英司、杉浦誠、 伊藤昌光	H24.11.8	H26.5.2 第 23408 号
大麦	ハルヒメボン	吉岡藤治、高橋飛鳥、 柳澤貴司、長嶺敬、 高山敏之、土井芳憲、 松中仁、藤田雅也、 土門英司、杉浦誠、 伊藤昌光	H24.3.28	H26.9.8 第 23529 号

【出願品種】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育成者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
水稲	せとのかがやき	石井卓朗、出田収、 中込弘二、松下景、 春原嘉弘、前田英郎、 飯田修一	H25.4.17	
大豆	こがねさやか	高田吉丈、猿田正恭、 岡部昭典、菊池彰夫、 小野貞芳	H26.4.18	
大豆	たつまる	高田吉丈、猿田正恭、 岡部昭典、菊池彰夫	H26.4.18	
水稲	恋の予感	石井卓朗、出田収、 中込弘二、松下景、 春原嘉弘、前田英郎、 飯田修一	H26.5.23	

※新たに登録された品種および現在出願中の品種について掲載。

4. 広報活動

1) 記者発表 (資料配付含む)

年月日	発表内容
H26.6.16	「飛ばないナミテントウ」が利用可能に ー施設野菜でのアブラムシ防除に強力でやさしい味方誕生ー (販売開始：平成26年6月16日。シンポジウム：平成26年6月25日(水))
H26.7.15	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業(うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立)平成26年度カンキツ革新技術フォーラム「産地力強化に向けた技術の挑戦」の開催について(平成26年8月29日(金))
H26.8.22	平成26年度中国四国地域マッチングフォーラム ～“もち麦”人気を中心に新たな展開が期待される国産裸麦の生産と利用～ の開催について(平成26年10月8日(水))
H26.9.5	高温下でも品質が優れ、良食味で多収の水稲新品種「恋の予感」を育成
H26.9.8	農研機構近畿中国四国農業研究センター福山本所 一般公開のご案内(平成26年9月27日(土))
H26.9.22	農研機構近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点 一般公開のご案内(平成26年10月18日(土))
H26.10.3	農研機構近畿中国四国農業研究センター四国研究センター 一般公開のご案内 ～食と農のサイエンスカフェ「イチゴのはなし」同時開催～ (平成26年10月25日(土))
H26.10.22	平成26年度近畿地域マッチングフォーラム ～野菜生産における環境保全的な病害虫発生予測診断と対策技術～ の開催について(平成26年11月21日(金))
H26.12.1	大豆の落ちこぼれを救う遺伝子 ー機械収穫に対応した品種開発に弾みー (北海道農業研究センターのプレス)
H26.12.5	多収で用途が広く加工製品に青臭さのない 温暖地向け大豆新品種「こがねさやか」
H26.12.15	冊子「農産物直売所 打って出る!『出張直売』のススメ」を公開

2) 近畿中国四国農業研究センター刊行物 (会議資料等除く)

刊行物名	発行年月	印刷数
近畿中国四国農業研究成果情報(平成25年度)	H26.6	Web公開
飛ばないナミテントウ利用技術マニュアル(研究成果集付き)	H26.6 H26.10	800
近中四農研ニュース No.53	H26.9	950
高保温性能で暖房燃料使用量を大幅に削減する次世代型パイプハウスの開発成果集	H26.10	300
超省エネ・高強度な次世代型パイプハウス施工マニュアル	H26.10	300
近中四農研ニュース No.54	H26.11	950
”減肥を目指した”露地栽培への点滴かん水導入の手引き	H26.11	300
近中四農研ニュース No.55	H26.12	950
近畿中国四国農業研究センター要覧(和文)	H27.1	1,000
農産物直売所 打って出る!「出張直売」のススメ(DVD付)	H27.2	1,000
樹園地の園内道整備のための設計支援システムー操作マニュアルー	H27.2	400
マルドリ方式のためのソーラーポンプシステムマニュアル	H27.2	400
近畿中国四国農業研究センター年報(平成25年度)	H27.3	Web公開
近畿中国四国農業研究センター研究報告第14号	H27.3	650
近中四農研ニュース No.56	H27.3	950
近畿中国四国農研農業経営研究第25号	H27.3	420

V 研究情報活動

3) 一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催

一般公開

一般公開のテーマ名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
春のミニ一般公開（福山）	近畿中国四国農業研究センター	H26.4	福山本所	234
ミニ公開（四国）	近畿中国四国農業研究センター	H26.4	四国研究センター	1,013
一般公開（福山）「みてみよう！食をささえる農業研究」	近畿中国四国農業研究センター（中国四国農政局／種苗管理センター／果樹研究所）	H26.9	福山本所	1,730
一般公開（四国）「未来に羽ばたく四国農業！！農業でニッポンを元気に」	近畿中国四国農業研究センター	H26.10	四国研究センター	721
一般公開（綾部）「食の未来と環境を守る野菜づくり」	近畿中国四国農業研究センター	H26.10	綾部研究拠点	260

イベント（一般公開以外の主催イベント）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
食と農のサイエンスカフェ（四国・第3回）	近畿中国四国農業研究センター	H26.4	四国研究センター	26
第9回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H26.8	福山本所	31
第10回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H26.9	福山本所	17
食と農のサイエンスカフェ（四国・第4回）	近畿中国四国農業研究センター	H26.10	四国研究センター	21
第11回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H26.11	福山本所	20

科学技術離れ対策の協力状況（サイエンスキャンプ、出前レクチャーなど）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
授業	綾部市立綾部小学校	H26.7	綾部市立綾部小学校	90
職場体験学習	善通寺市立東部小学校	H26.8	四国研究センター	54
職場体験学習「チャレンジウィーク ふくやま」	福山市教育委員会	H26.8	福山本所	10
インターンシップ	新居浜工業高等専門学校	H26.8	四国研究センター	2
職場体験	大田市立第2中学校	H26.8	大田研究拠点	2
サイエンスセミナー「命を感じる和牛ファーム体験」	島根県立大田高等学校	H26.9	大田研究拠点	40
インターンシップ	島根県立邇摩高等学校	H26.10	大田研究拠点	2
事業所体験学習	近畿大学附属広島中学校福山校	H26.10	福山本所	4

科学技術離れ対策以外のイベントへの協力および参画状況

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
第3回ベーカリー素材 EXPO	ベーカリー素材 EXPO 実行委員会	H26.6	東京ビッグサイト（東京都江東区）
施設園芸・植物工場展 2014（GPEC）	日本施設園芸協会／農林水産省／経済産業省／全国農業協同組合中央会（JA 全中）／全国農業協同組合連合会（JA 全農）／全国農業会議所（公社）／全国農業共済協会／農林中央金庫／（株）日本政策金融公庫など	H26.7	東京ビッグサイト（東京都江東区）
和牛入門ゼミナール（実習の部・西日本）	全国和牛登録協会／全国肉用牛振興基金協会	H26.9	大田研究拠点
備後ものづくりフェア	備後地域地場産業振興センター／福山市／府中市／福山物産協会	H26.9	エフピコ RiM 福山市ものづくり交流館（広島県福山市）
食のブランドニッポンフェア「食のセミナー in 東京」	農研機構／森林総研／国際農林水産業研究センター	H26.9	トラストシティカンファレンス丸の内（東京都千代田区）

V 研究情報活動

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
おおだ秋の彼岸市	大田商工会議所	H26.9	大田町本通り (島根県大田市)
しまなみ・かんきつフェスタ 2014	愛媛県東予地方局今治支局産地育成室／上島町／越智今治農業協同組合／東予農業共済組合／近畿中国四国農業研究センター	H26.11	愛媛県東予地方局今治支局産地育成室技術普及グループ岩城駐在所 (愛媛県上島町)
アグリビジネス創出フェア 2014	農林水産省	H26.11	東京ビッグサイト (東京都江東区)
近畿農政局「消費者の部屋」特別展示	近畿農政局	H27.2～3	近畿農政局／京都中央郵便局 (京都府京都市)

シンポジウム・セミナー

シンポジウム・セミナー名など	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
デュラム小麦研究セミナー	近畿中国四国農業研究センター	H26.4	福山本所	25
「飛ばない天敵による害虫防除」ミニシンポジウム	近畿中国四国農業研究センター	H26.6	奈良県社会福祉総合センター (奈良県橿原市)	75
平成 26 年度「小型ロボットによる畦畔除草等自動化技術の開発」成果発表セミナー	近畿中国四国農業研究センター	H26.8	島根県中山間地域研究センター (島根県飯南町)	97
カンキツ革新技術フォーラム「産地力強化に向けた技術の挑戦」(攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業(うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術展開事業革新的技術(カンキツ)コンソーシアム(代表機関:近畿中国四国農業研究センター)	H26.8	みどりや (三重県熊野市)	130
平成 26 年度中国四国地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局／近畿中国四国農業研究センター	H26.10	サンポートホール高松 (香川県高松市)	185
広報・連携重点的促進技術交流セミナー「布団資材の性能評価手法・規格の確立に向けた技術的課題法	近畿中国四国農業研究センター	H26.10	四国研究センター	29
平成 26 年度近畿地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局／近畿中国四国農業研究センター	H26.11	兵庫県民会館 (兵庫県神戸市)	91
農作業安全セミナー	近畿中国四国農業研究センター	H26.12	エフピコ RiM 福山市ものづくり交流館 (広島県福山市)	60
『飛ばないナミテントウ製剤「テントップ」&バンカー植物「スカエボラ」～普及に向けての課題と対策～』現地検討会	近畿中国四国農業研究センター	H26.12	JA 土佐あき芸西支所 (高知県芸西村)	51
第 2 回『高β-グルカン大麦利用連絡会』オフラインミーティング	近畿中国四国農業研究センター	H26.12	AP 浜松町 (東京都港区)	83
広報・連携促進費(B) 技術交流セミナー「防風ネットによる温室暖房省エネ実証のための協力機関の開拓	近畿中国四国農業研究センター	H27.3	四国研究センター	5

V 研究情報活動

4) 技術相談および見学

生産者：農協、農業関係公益法人なども「生産者」に含める

消費者：消費者団体も含める

青少年：幼稚園児～高校生

行政：国行政、県行政

研究機関：大学、公立試、国研、独法

民間：民間企業、民間団体、民間の試験研究機関

(1) 技術相談

相談方法	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
インターネットによる相談件数	11	0	0	0	11	14	20	0	0	56
電話による相談件数	62	11	0	5	37	17	28	0	0	160
面談による相談件数	24	2	0	2	7	14	31	0	0	80
その他の手段による相談件数	12	0	3	1	3	6	4	1	0	30
合計	109	13	3	8	58	51	83	1	0	326

(2) 見学者

	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
外部からの見学者数(人)	465	130	74	0	61	114	62	20	0	926

V 研究情報活動

5. 図書資料の収集・受入、サービス

1) 収書数

① 単行書

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	91	55	146	3	3	6	152
四国研究センター	16	7	23	3	2	5	28
綾部研究拠点	2	4	6	0	0	0	6
大田研究拠点	7	3	10	0	0	0	10
合 計	116	69	185	6	5	11	196

② 逐次刊行物

単位：誌

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	132	309	441	33	28	61	502
四国研究センター	77	219	296	29	14	43	339
綾部研究拠点	23	49	72	12	0	12	84
大田研究拠点	9	99	108	15	8	23	131
合 計	241	676	917	89	50	139	1,056

③ その他の資料

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	0	53	53	0	0	0	53
四国研究センター	0	53	53	0	1	1	54
綾部研究拠点	0	21	21	0	5	5	26
大田研究拠点	0	84	84	0	0	0	84
合 計	0	211	211	0	6	6	217

2) 除籍数

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	単行書	逐次刊行物	計	単行書	逐次刊行物	計	
本所（福山）	0	0	0	0	0	0	0
四国研究センター	0	0	0	0	0	0	0
綾部研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
大田研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0

(注) 逐次刊行物は、製本に換算した冊数

3) サービス

	文献複写（件）		相互貸借（件）		貸出（冊）
	依 頼	提 供	依 頼	提 供	
本所（福山）	124	110	10	46	340
四国研究センター	126	25	15	22	501
合 計	250	135	25	68	841

VI 研究交流

1. 研究員などの受入・研修

1) 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

2) 国際協力機構 (JICA) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

3) 日本学術振興会 (JSPS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
日本	—	営農・環境研究領域	H25.4.1 ~ H28.3.31

4) 科学技術振興機構 (JST) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

5) その他の制度等による海外研究員の受入

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

6) 流動研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし		

7) 依頼研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし		

8) 技術講習生

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
麻布大学	畜産草地・鳥獣害研究領域	H26.6.16 ~ H26.7.18
国立大学法人広島大学	水田作研究領域	H26.8.18 ~ H26.8.22
独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校	傾斜地園芸研究領域	H26.8.18 ~ H26.8.29
独立行政法人国立高等専門学校機構新居浜工業高等専門学校	作物機能開発研究領域	H26.8.18 ~ H26.8.29
国立大学法人宇都宮大学	傾斜地園芸研究領域	H26.9.1 ~ H26.9.12

9) 国内留学

区分	受入者所属機関名	研究課題	受入先研究領域	期間
長期留学	該当なし			
短期留学	該当なし			

VI 研究交流

10) 連携大学院

受入者所属機関	研究課題	受入先研究領域	期 間
国立大学法人 広島大学	共生微生物 Wolbachia や Rickettsia を利用した天敵昆虫の大量増殖への応用研究	水田作研究領域	H25.4.1 ~ H27.3.31
国立大学法人 広島大学	タイリクヒメハナカメムシにおける細胞内共生細菌 Wolbachia の生態系影響評価	水田作研究領域	H26.4.1 ~ H29.3.31

2. 研究員の派遣

1) 流動研究員

氏 名	所 属	研究課題	派遣先	期 間
該当なし				

2) 国内留学

区 分	所 属	氏 名	研究課題	派遣先	期 間
長期留学	該当なし				
短期留学	作物機能開発 研究領域	川瀬眞市郎	需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発	中央農業総合研究センター	H26.10.1 ~ H26.11.28

3) 海外派遣・出張

制度・事業等 区	所 属	氏 名	目 的	派遣先	期 間
長期在外研究 員制度	水田作研究領域	世古智一	アブラナ科植物の化学的防御の発達がキスジノミハムシ近縁種の寄生性天敵の行動に及ぼす影響に関する研究	オランダ王国 ワーヘニンゲン大学	H25.5.6 ~ H26.5.5

3. 技術協力・指導

1) 連携大学院への派遣

氏 名	所 属	派遣先	期 間
三浦一芸	水田作研究領域	国立大学法人広島大学	H26.4.1 ~ H27.3.31
黒瀬義孝	水田作研究領域	国立大学法人広島大学	H26.4.1 ~ H27.3.31

2) 他機関主催研修会等への講師派遣

氏 名	講師所属	研修会等名	依 頼 者	期 間
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究 領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.4.29 ~ H26.4.29
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究 領域	鳥獣被害対策研修会「守れる畑づくり設置実習」	広島県	H26.5.8 ~ H26.5.9
竹原利明	水田作研究領域	岡山植物病理セミナー第35回講演会「土壌伝染性フザリウム病との闘い」	岡山大学大学院自然科学研究科	H26.5.10 ~ H26.5.10
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究 領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.5.10 ~ H26.5.10
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究 領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.5.11 ~ H26.5.11
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	第16回施設園芸技術初級講座「被覆資材の基礎知識」	一般社団法人日本施設園芸協会	H26.5.15 ~ H26.5.16

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.5.26 ~ H26.5.26
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.5.27 ~ H26.5.27
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.5.30 ~ H26.5.30
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.6.1 ~ H26.6.1
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣害と農業技術研修会「自分達でできる予防と対策」	井田まちづくりセンター	H26.6.1 ~ H26.6.1
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	獣被害対策研修会	宇津井自治会	H26.6.8 ~ H26.6.8
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害防止対策講習会「鳥獣（サル・シカ・イノシシ）の生態と地域ぐるみで行う鳥獣被害防止対策について」	土庄町鳥獣害対策協議会	H26.6.14 ~ H26.6.15
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.6.17 ~ H26.6.17
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.6.20 ~ H26.6.20
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	「中郷・宮沖・深屋地区」鳥獣被害対策現地研修会	広島県	H26.6.19 ~ H26.6.20
千葉雅大	水田作研究領域	宮城県酒造技術者交流会技術研修会	宮城県酒造技術者交流会	H26.7.1 ~ H26.7.3
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	サマーアグリミーティング2014in 島根	全国農業協同組合島根県本部	H26.7.11 ~ H26.7.12
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度鳥獣害防止指導者育成研修「主要獣害（イノシシ・シカなど）の被害対策について」	埼玉県	H26.7.15 ~ H26.7.16
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度鳥獣害防止指導者育成研修「主要獣害（イノシシ・シカなど）の被害対策について」	埼玉県	H26.7.15 ~ H26.7.16
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	沼津鳥獣塾	沼津市農業再生協議会	H26.7.16 ~ H26.7.18
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	平成26年度栃木県花き生産者大会	栃木県花き振興協議会	H26.7.18 ~ H26.7.19
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	梶原町有害鳥獣被害対策協議会	H26.7.24 ~ H26.7.26
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	特定鳥獣の保護管理に係る研修会（基礎編）	一般財団法人自然環境研究センター	H26.7.28 ~ H26.7.29
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策実施隊員等育成研修	公益社団法人鹿児島県農業・農村振興協会	H26.7.29 ~ H26.7.31
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	大田市	H26.8.1 ~ H26.8.1
渡邊修一	営農・環境研究領域	日射制御型拍動自動灌水技術研修会	山形県	H26.8.6 ~ H26.8.8
世古智一	水田作研究領域	大地を守る会第5回施設園芸生産者会議	株式会社大地を守る会	H26.8.7 ~ H26.8.8
高田兼則	水田作研究領域	山口大学公開講座「小麦栽培から始めるパンづくり」	山口大学地域連携推進センター	H26.8.20 ~ H26.8.20
山崎敬亮	環境保全型野菜研究領域	イチゴ栽培技術研究会	和歌山県	H26.8.22 ~ H26.8.22
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策実施隊員等育成研修	公益社団法人鹿児島県農業・農村振興協会	H26.8.27 ~ H26.8.29
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	第9回施設園芸技術中級講座「被覆資材の種類と利用」	一般社団法人日本施設園芸協会	H26.9.2 ~ H26.9.3
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策現地研修会	広島県	H26.9.3 ~ H26.9.4
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境（第1回）	香川県立農業大学校	H26.9.3 ~ H26.9.3
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境（第2回）	香川県立農業大学校	H26.9.10 ~ H26.9.10
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境（第3回）	香川県立農業大学校	H26.9.17 ~ H26.9.17
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境（第4回）	香川県立農業大学校	H26.9.22 ~ H26.9.22

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
長崎裕司	企画管理部	「施設園芸の省エネ技術」及び「花きの省力化技術」	広島県フラワー活性化協議会	H26.9.5 ~ H26.9.5
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	野生鳥獣とのつきあい方と農作物被害対策	白石市農作物有害鳥獣対策協議会	H26.9.10 ~ H26.9.12
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県	H26.9.10 ~ H26.9.13
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	菊川市有害鳥獣対策協議会	H26.9.16 ~ H26.9.18
室岡順一	営農・環境研究領域	農作物直売所“農力”UP講座	一般社団法人岡山県農業開発研究所	H26.9.17 ~ H26.9.17
森伸介	水田作研究領域	生物応用化学科研究室演習(二)特別講義	東京農業大学	H26.10.7 ~ H26.10.8
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	第65回広島県果樹研究同志会通常総会研修会	広島県果樹研究同志会	H26.10.9 ~ H26.10.9
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	榛原町有害鳥獣被害対策協議会	H26.10.16 ~ H26.10.18
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害防止対策講習会	土庄町鳥獣害防止対策協議会	H26.10.17 ~ H26.10.18
根角博久	傾斜地園芸研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業 新品種・新技術コーディネーター研修会(果樹CO5②)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H26.10.22 ~ H26.10.22
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策現地研修会	広島県	H26.10.23 ~ H26.10.23
長田健二	水田作研究領域	平成26年度全国農業システム研究会 飼料用米・大豆の生産拡大に関する情報交換会(東海近畿北陸ブロック)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H26.10.23 ~ H26.10.23
高田吉丈	作物機能開発研究領域	平成26年度全国農業システム研究会 飼料用米・大豆の生産拡大に関する情報交換会(東海近畿北陸ブロック)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H26.10.23 ~ H26.10.24
石岡巖	営農・環境研究領域	平成26年度土づくり研究会	土づくり肥料推進協議会	H26.10.30 ~ H26.10.31
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	低コスト・省エネ及びハウス内環境制御技術講演会	高知県須崎農業振興センター	H26.10.31 ~ H26.11.1
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度農作物獣害防止対策支援事業現地検討会	東京都農業振興事務所	H26.11.5 ~ H26.11.7
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修	大分県	H26.11.10 ~ H26.11.13
長田健二	水田作研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業 新品種・新技術コーディネーター研修会(米CO1①)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H26.11.13 ~ H26.11.13
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策講演会	福山市	H26.11.13 ~ H26.11.14
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	動物応用科学概論Ⅱ	麻布大学	H26.11.24 ~ H26.11.26
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度獣害対策指導者育成講座	三重県農林水産部	H26.11.25 ~ H26.11.26
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度津地域獣害防止対策研修会	津地域農業振興協議会	H26.11.26 ~ H26.11.27
竹原利明	水田作研究領域	平成26年度行政ニーズ対応研修(有機農業普及支援研修)	農林水産研修所	H26.11.27 ~ H26.11.27
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	榛原町有害鳥獣被害対策協議会	H26.11.27 ~ H26.11.29
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	鳥根県西部農林振興センター	H26.11.29 ~ H26.11.29
高橋佳孝	畜産草地・鳥獣害研究領域	第19回美方郡農山漁村活性化大会	兵庫県但馬県民局新温泉農業改良普及センター	H26.12.3 ~ H26.12.4
根角博久	傾斜地園芸研究領域	静岡県施肥研究会	静岡県施肥研究会	H26.12.4 ~ H26.12.5
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	イノシシ対策講演会	岡山市	H26.12.4 ~ H26.12.5
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	菊川市有害鳥獣対策協議会	H26.12.4 ~ H26.12.6

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
長崎裕司	企画管理部	平成26年度事業化を加速する産学連携支援事業第1回アグリ技術シーズセミナー「中国四国発！最新の農業技術～中国四国地域の産学官から最新の技術シーズを一挙に紹介～」	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会	H26.12.5 ～ H26.12.6
高田兼則	水田作研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業 新品種・新技術コーディネーター研修会(麦類CO2)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H26.12.11 ～ H26.12.12
吉岡藤治	作物機能開発研究領域	平成26年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業 新品種・新技術コーディネーター研修会(麦類CO2)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H26.12.11 ～ H26.12.12
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	有害鳥獣対策講習会	湘南有害鳥獣対策協議会	H26.12.11 ～ H26.12.12
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザーフォローアップ研修会	静岡県農業協同組合中央会	H26.12.17 ～ H26.12.20
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣害対策地域リーダー育成研修会	福島県農林水産部	H27.1.7 ～ H27.1.8
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	燃油価格高騰緊急対策 省エネ推進セミナー	宮城県農業再生協議会	H27.1.14 ～ H27.1.15
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	「北和の農を考えるつどい」	北部地域農業推進協議会	H27.1.16 ～ H27.1.17
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	薩摩川内市鳥獣被害対策講習会	薩摩川内市鳥獣被害防止対策協議会	H27.1.20 ～ H27.1.22
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	森町有害鳥獣対策協議会	H27.1.22 ～ H27.1.24
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害防止対策担当者等会議	鹿児島農政部農村振興課	H27.1.22 ～ H27.1.24
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	イノシシ被害防止対策研修会	氷見市鳥獣被害防止対策協議会	H27.2.4 ～ H27.2.5
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策現地研修会	三次市	H27.2.5 ～ H27.2.5
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成26年度小豆郡青年農業者等島内研修会	香川県小豆総合事務所	H27.2.6 ～ H27.2.7
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	長崎県鳥獣対策研修会	長崎県	H27.2.9 ～ H27.2.10
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	水上まちづくりセンター	H27.2.17 ～ H27.2.17
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	第36回施設園芸総合セミナー	一般社団法人日本施設園芸協会	H27.2.19 ～ H27.2.20
岡部昭典	水田作研究領域	平成26年度近畿産大豆生産・需要拡大協議会	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H27.2.26 ～ H27.2.26
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策講演会	福山市	H27.2.26 ～ H27.2.26
志村もと子	営農・環境研究領域	第32回土・水研究会「農業分野における反応性窒素(Nr)過剰問題とフローの適正化への取り組みーグローバルー圃場までー」	農業環境技術研究所	H27.2.26 ～ H27.2.28
長田健二	水田作研究領域	平成26年度損害評価会委員の研修	岡山地区農業共済組合 損害評価会運営協議会	H27.2.27 ～ H27.2.27
世古智一	水田作研究領域	平成26年度中国四国地域環境保全型農業推進コンクール表彰式及び環境保全型農業推進フォーラム	中国四国農政局	H27.3.2 ～ H27.3.2
高橋仁康	営農・環境研究領域	平成26年度高品質稲WCS生産・給与技術普及研修会	三重県中央農業改良普及センター	H27.3.6 ～ H27.3.6
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣害対策研修会	福井市	H27.3.6 ～ H27.3.7
伏見昭秀	水田作研究領域	平成26年度農と環境を守る地域協働活動支援事業南丹・京都乙訓ブロック別研修会	京都府農地・水・環境保全向上対策協議会	H27.3.10 ～ H27.3.11
世古智一	水田作研究領域	平成26年度農林水産関係研修者地方研修	農林水産技術会議事務局	H27.3.11 ～ H27.3.11

VI 研究交流

3) 当センター主催の技術指導

研修会等名	期間	開催場所	参加者数
鳥獣被害対策技術指導研修会	平成26年度中(計5回)	徳島県内	112

4) 依頼分析、試験および同定

区分	担当研究領域	件数
該当なし		

4. 共同研究

担当研究領域	共同研究相手先	件数
営農・環境研究領域	公的機関	1
	民間、その他	5
水田作研究領域	民間、その他	3
	公的機関、民間	2
作物機能開発研究領域	公的機関	2
傾斜地園芸研究領域	公的機関	2
	民間、その他	2
環境保全型野菜研究領域	民間、その他	1
畜産草地・鳥獣害研究領域	公的機関、民間	1

5. 協定研究

担当研究領域	協定研究相手先	件数
営農・環境研究領域	公的機関	1
	民間、その他	1
水田作研究領域	公的機関	8
	民間、その他	11
作物機能開発研究領域	公的機関	1
	民間、その他	1
傾斜地園芸研究領域	公的機関	6
	民間、その他	6
畜産草地・鳥獣害研究領域	公的機関	3
	民間、その他	1

6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況

施設名	利用者数
農産物等成分解析開放型研究施設	899
傾斜地農業開放型研究施設	218
第2共同実験棟	985

Ⅶ 組織・人事・会計

1. 組織

所 長		
— 四国農業研究監		四国地域の農業に関する試験及び研究並びに調査に関する業務
— 企画管理部	— 審 議 役	重要な総務に関する業務を総括整理
	— 研究調整役	特定の試験及び研究並びに調査の企画、立案及び調整に関する業務
	— 業務推進室	
	— 調査役	予算の要求、配分及び執行に係る計画の立案等に係る調査の業務
	— 企画チーム	(企画調整、交流調整)
	— 運営チーム	(連絡調整、運営調整、予算管理)
	— 管 理 課	
	— 庶務チーム	(労務・職員管理、庶務、厚生)
	— 会計チーム	(会計、審査、調達、資産管理)
	— 綾部管理チーム	(庶務、会計)
	— 大田管理チーム	(庶務、会計)
	— 情報広報課	試験及び研究並びに調査に係る情報の収集、整理、提供及び成果の広報並びに情報システムの管理
	— 四国企画管理室	
	— 調査役	四国研究センターにおける総務に関する特定の業務を総括し、及び総務に関する事項についての関係部署との連絡調整の業務
	— 連絡調整チーム	(企画調整、情報広報)
	— 管理チーム	(庶務、厚生、会計、調達、資産管理)
— 営農・環境研究領域		営農・環境研究領域は、近畿中国四国地域における水田営農に関する技術の開発及び経営評価並びに環境保全技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 水田作研究領域		水田作研究領域は、近畿中国四国地域における水稻・小麦の品種育成及び作物栽培管理に関する技術に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 作物機能開発研究領域		作物機能開発研究領域は、近畿中国四国地域における大麦・大豆品種の育成並びに農産物の健康機能性の解明及び有効利用技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 傾斜地園芸研究領域		傾斜地園芸研究領域は、近畿中国四国地域における傾斜地資源を活用したカンキツ等の果樹生産技術の開発及び施設等を利用した野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 環境保全型野菜研究領域		環境保全型野菜研究領域は、近畿中国四国地域における環境保全型野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 畜産草地・鳥獣害研究領域		畜産草地・鳥獣害研究領域は、近畿中国四国地域における地域飼料資源による黒毛和種の生産技術の開発及び鳥獣害対策技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 研究支援センター		試験及び研究並びに調査に供する圃場及び動植物の管理に関する業務
	— 業務第1科 (福山)	
	— ” (綾部研究拠点駐在)	
	— 業務第2科 (善通寺)	
	— 業務第3科 (大田)	

Ⅶ 組織・人事・会計

2. 人 事

1) 現在員数

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

所 属	指定職員	一般職員	技術専門 職員	研究職員	任期付 研究員	計
所長	1					1
所付						0
四国農業研究監				1		1
企画管理部		45	2	5		52
営農・環境研究領域				17		17
水田作研究領域				28		28
作物機能開発研究領域				8		8
傾斜地園芸研究領域				20	1	21
環境保全型野菜研究領域				8		8
畜産草地・鳥獣害研究領域				10	1	11
研究支援センター		1	63	2		66
計	1	46	65	99	2	213

※ 現在員：3 月 31 日付け定年退職、辞職を含む。

：派遣職員および育児休業を含む。

：育児休業に伴う任期付職員を除く。

2) 農研機構特別研究員

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

研 究 課 題	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
該当なし					

3) 委員等の就任状況

委 員 等	依 頼 元	所 属	氏 名	任 期
岡山県野生鳥獣保護管理対策協議会委員	岡山県環境文化部長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	江口祐輔	H23.6.23～H29.3.31
滋賀県農林水産関係試験研究外部評価委員会委員	滋賀県農政水産部長	環境保全型野菜研究領域長	佐藤隆徳	H23.8.10～H26.8.31
東京都鳥獣害対策委員会評価部会委員	東京都産業労働局農林水産部長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	江口祐輔	H25.2.16～H27.2.15
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰審査会審査員	農林水産省中国四国農政局長	営農・環境研究領域長	笹倉修司	H25.5.15～H27.3.31
山口県鳥獣被害防止対策協議会委員	山口県農林水産部長	畜産草地・鳥獣害研究領域主任研究員	上田弘則	H25.6.1～H28.5.31
山口県農林総合技術センター外部評価会議委員	山口県農林総合技術センター所長	営農・環境研究領域長	笹倉修司	H25.8.16～H27.3.31
専門調査員	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター長	水田作研究領域主任研究員	小林英和	H26.4.4～H27.3.31
大阪府立環境農林水産総合研究所研究アドバイザー委員会委員	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所理事長	企画管理部長	竹中重仁	H26.4.16～H27.3.31
岡山県農林水産総合センター農業研究所外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合センター農業研究所長	所長	尾関秀樹	H26.4.16～H27.3.31
香川大学公正研究委員会委員	国立大学法人香川大学長	四国農業研究監	中野正明	H26.4.16～H27.3.31
専門調査員	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター長	作物機能開発研究領域主任研究員	阿部大吾	H26.4.21～H27.3.31
香川県農業技術総合推進検討会委員	香川県知事	四国農業研究監	中野正明	H26.4.24～H26.7.25

Ⅶ 組織・人事・会計

委 員 等	依 頼 元	所 属	氏 名	任 期
水稲関係生育調節剤専門委員会 専門調査員	(財)日本植物調節剤 研究協会理事長	水田作研究領域上 席研究員	長田健二	H26.5.1～H27.3.31
水稲関係除草剤専門委員会専門 調査員	(財)日本植物調節剤 研究協会理事長	水田作研究領域主 任研究員	橘雅明	H26.5.1～H27.3.31
水稲関係除草剤専門委員会専門 調査員	(財)日本植物調節剤 研究協会理事長	水田作研究領域主 任研究員	伏見昭秀	H26.5.1～H27.3.31
緑地管理関係植物調節剤専門委 員会専門調査員	(財)日本植物調節剤 研究協会理事長	畜産草地・鳥獣害 研究領域上席研究 員	大谷一郎	H26.5.1～H27.3.31
中国四国農政局国営事業地区営 農基盤整備等推進委員会委員及 び幹事会幹事	農林水産省中国四国 農政局長	企画管理部長	竹中重仁	H26.5.2～H27.3.31
中国四国農政局国営事業地区営 農基盤整備等推進委員会作業部 会委員	農林水産省中国四国 農政局長	企画管理部業務推 進室長	長崎裕司	H26.5.2～H27.3.31
営農計画管理調査に係る有識者	農林水産省中国四国 農政局長	水田作研究領域上 席研究員	岡部昭典	H26.5.2～H28.3.31
外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合 センター畜産研究所 長	畜産草地・鳥獣害 研究領域長	篠田満	H26.5.2～H28.3.31
果樹・オリーブ研究所今後のあ り方検討会委員	香川県農政水産部長	四国農業研究監	中野正明	H26.6.9～H27.3.31
平成26年度事業化を加速する 産学連携支援事業におけるコー ディネーター	(財)日本植物調節剤 研究協会理事長	傾斜地園芸研究領 域上席研究員	川嶋浩樹	H26.6.13～H27.3.23
平成26年度計画基礎諸元調査 意見聴取会委員	(株)ヒップ	企画管理部業務推 進室企画チーム長	望月秀俊	H26.7.4～H27.3.13
燃油価格高騰緊急対策審査委員	(社)日本施設園芸協 会会長	傾斜地園芸研究領 域上席研究員	川嶋浩樹	H26.7.8～H27.3.31
香川県農業技術総合推進検討会 委員	香川県知事	四国農業研究監	中野正明	H26.7.26～H29.7.25
滋賀県農林水産関係試験研究外 部評価委員会委員	滋賀県農政水産部長	環境保全型野菜研 究領域長	佐藤隆徳	H26.9.1～H28.8.31
笠岡市バイオマス利活用推進協 議会委員	笠岡市長	営農・環境研究領 域上席研究員	松森堅治	H26.10.9～H28.10.2
兵庫県立農林水産技術総合セン ター外部評価専門委員会委員	兵庫県知事	畜産草地・鳥獣害 研究領域長	篠田満	H26.10.16～H27.3.31
東京都鳥獣害対策委員会評価部 会委員	東京都産業労働局農 林水産部長	畜産草地・鳥獣害 研究領域上席研究 員	江口祐輔	H27.2.16～H29.2.15

4) 叙位・叙勲

氏 名	所 属	名 称	受賞年月日
草野秀	元 四国農業試験場土 地利用部長	瑞宝小綬章	H26.4.1
故 川上剛志	元 四国農業試験場企 画連絡室研究交流科長	瑞宝双光章	H26.4.23
岡晃	元 中国農業試験場環 境部基盤整備研究室長	瑞宝双光章	H26.10.1
故 吉村亮	元 中国農業試験場畑 地利用部長	正五位 瑞宝小綬章	H27.2.23

5) 受賞

氏 名	所 属	名 称	受賞年月日	受 賞 課 題
長崎裕司	企画管理部業務推進室	農業施設学会貢献 賞	H26.8.28	
世古智一 三浦一芸	水田作研究領域	NARO RESEARCH PRIZE 2013 (グル ープ賞)	H26.9.25	飛翔能力を欠くナミテントウ製剤の 利用技術マニュアル
世古智一	水田作研究領域	若手農林水産研究 者賞	H26.11.12	飛ばないナミテントウの育成と生物 防除への応用に関する研究
大谷一郎	畜産草地・鳥獣害研究 領域	植物調節剤功労者 表彰	H26.12.12	

Ⅶ 組織・人事・会計

氏名	所属	名称	受賞年月日	受賞課題
佐藤恵一 黒瀬義孝	傾斜地園芸研究領域 水田作研究領域	日本農業気象学会 論文賞	H27.3.18	Analysis of normalized daily change of air temperature using an S-shaped function to detect fog occurrence
三浦一芸	水田作研究領域	日本応用動物昆虫 学会賞	H27.3.26	分子生物学的手法を利用した新しい害虫防除技術開発に関する一連の研究
竹中重仁	企画管理部長	日本植物病理学会 賞	H27.3.29	生物防除微生物 <i>Pythium oligandrum</i> の病害抑制機構解明に関する研究

6) 学位授与

氏名	所属	名称	取得年月日	論文名
寺元郁博	営農・環境研究領域	博士（農学）（筑波大学）	H26.9.30	農作業現場におけるリアルタイムデータ収集・活用のための携帯情報端末を核とした農業情報流通システムに関する研究

3. 会 計

1) 決算（所在地別内訳）

単位：千円

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
収 入					
1. 運営費交付金収入（前年度繰越金）	27,807	0	0	0	27,807
2. 事業収入	693	994	0	26,222	27,909
（1）生産物等売払収入	0	993	0	26,222	27,215
（2）その他事業収入	693	1	0	0	694
3. 受託収入	37,826	0	0	0	37,826
（1）受託研究収入	28,938	0	0	0	28,938
ア. 政府受託研究収入	27,394	0	0	0	27,394
イ. 地方公共団体受託研究収入	44	0	0	0	44
ウ. 独立行政法人受託研究収入	780	0	0	0	780
エ. 国立大学法人受託研究収入	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究収入	720	0	0	0	720
（2）共同研究収入	2,000	0	0	0	2,000
（3）受託調査等収入	0	0	0	0	0
（4）受託出張収入	6,888	0	0	0	6,888
ア. 地方公共団体受託出張収入	1,550	0	0	0	1,550
イ. 独立行政法人受託出張収入	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張収入	103	0	0	0	103
エ. その他受託出張収入	5,235	0	0	0	5,235
4. 補助金等収入	0	0	0	0	0
5. 事業外収入	5,186	0	0	99	5,285
6. 臨時収入	0	0	0	0	0
7. 通過資金預り金	137,939	0	0	0	137,939
8. 繰越積立金	20	0	0	0	20
計	209,471	994	0	26,321	236,786

Ⅶ 組織・人事・会計

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
支 出					
1. 運営費交付金	341,913	236,757	38,614	96,303	713,587
人件費	15,976	0	0	0	15,976
(1) 一般管理費	56,947	42,529	5,204	17,054	121,734
ア. 所運営費	12,596	2,176	54	1,680	16,506
イ. 管理諸費	44,351	40,353	5,150	15,374	105,228
(2) 業務経費	268,990	194,228	33,410	79,249	575,877
2. 事業収入経費	11,592	7,920	1,593	4,985	26,090
3. 受託収入経費	68,694	48,033	5,816	8,398	130,941
(1) 受託研究収入経費	60,462	47,794	5,816	7,748	121,820
ア. 政府受託研究収入	44,845	39,018	4,946	7,748	96,557
イ. 地方公共団体受託研究経費	0	44	0	0	44
ウ. 独立行政法人受託研究経費	14,897	8,732	870	0	24,499
エ. 国立大学法人受託研究経費	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究経費	720	0	0	0	720
(2) 共同研究経費	483	0	0	0	483
(3) 受託調査等経費	1,750	0	0	0	1,750
(4) 受託出張経費	5,999	239	0	650	6,888
ア. 地方公共団体受託出張経費	1,420	11	0	119	1,550
イ. 独立行政法人受託出張経費	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張経費	103	0	0	0	103
エ. その他受託出張経費	4,476	228	0	531	5,235
4. 補助金等経費	0	155	0	465	620
5. 事業外収入経費	3,395	1,114	50	726	5,285
6. 臨時収入経費	0	0	0	0	0
7. 通過資金預り金	156,454	2,909	0	2,063	161,426
計	582,048	296,888	46,073	112,940	1,037,949

2) 固定資産 (所在地別内訳)

平成 27 年 3 月 31 日現在

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
有形固定資産					
土 地 (㎡)	227,093.05	963,610.29	62,907.89	2,019,455.99	3,273,067.22
建物建面積 (㎡)	11,377.62	11,926.34	4,535.03	9,691.45	37,530.44
建物延面積 (㎡)	16,231.40	15,204.48	5,138.98	11,167.18	47,742.04
構 築 物 (式)	1	1	1	1	4
樹 木 (本)	374	745	35	255	1,409
立 木 (㎡)	0.00	4,045.92	0.00	6,698.57	10,744.49
機械装置 (点)	90	65	13	26	194
車輛運搬具 (点)	15	15	8	8	46
工具器具備品 (点)	276	258	88	80	702
無形固定資産					
ソフトウェア (点)	16	17	2	0	35

VIII 主な会議等

1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議

会議名	開催日	開催場所	参集者
近畿中国四国農業試験研究推進会議 評価企画会議	H26.8.8	広島県民文化センターふくやま	合計 42 名 (内訳) 農政局 3 名、府県関係者 23 名、果樹研 1 名、野茶研 1 名、 近中四農研 14 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 試験研究推進部会	H27.1.22 ~ H27.1.30	近畿中国四国農業研究センター 福山市生涯学習プラザ 広島県民文化センターふくやま 島根県民会館 野菜茶業研究所 (金谷)	合計 478 名 (延人数) 農林水産技術会議事務局 1 名、生産局 1 名、農政局 10 名、大学等 12 名、府県関係者 315 名、機構内 41 名、近中四農 研 86 名、その他 12 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 本会議	H27.2.6	福山市生涯学習プラザ	合計 58 名 (内訳) 農政局 3 名、府県関係 者 36 名、機構本部 2 名、果樹研 1 名、野茶研 1 名、農工研 1 名、 近中四農研 14 名

2. 近畿中国四国地域問題別研究会

会議名	開催日	開催場所	参加者数
線形計画法および XLP の講習会	H26.5.8 ~ H26.5.9	近畿中国四国農業研究 センター (福山市)	14 名
「集落営農」研究の展開と集落営農の今日的役割	H26.6.26	近畿中国四国農業研究 センター (福山市)	37 名
植生管理の Good Practice - 雑草の多面的機能を活用 する -	H26.7.16	JR ホテルクレメント高 松 (高松市)	80 名
高品質果実の安定生産と市場への安定供給	H26.7.22 ~ H26.7.23	グランドパレス徳島 (徳島市)、徳島市三軒 屋町、勝浦郡勝浦町、 名西郡神山町	90 名
ニーズ把握を起点とした農産物のバリューチェーン構 築	H26.7.30 ~ H26.7.31	福山市生涯学習プラザ (福山市)	34 名
魅力ある農産物の生産を目指した土壌肥沃度の評価と 対策	H26.8.28 ~ H26.8.29	ピュアリティまきび (岡山市)、岡山県農林 水産総合センター (赤 磐市)	60 名
温暖地域水稻育成系統立毛検討会	H26.9.11 ~ H26.9.12	近畿中国四国農業研究 センター (福山市)、 香川県農業試験場 (綾 歌郡綾川町)	51 名
冬作技術研究会	H26.9.18 ~ H26.9.19	近畿中国四国農業研究 センター (福山市)	27 名
食品加工原料仕向け緑茶の現状と技術的課題	H26.10.16 ~ H26.10.17	じばさん三重 (四日市 市)、水沢茶農協他	55 名
花き生産技術のイノベーションとその活用について	H26.10.23 ~ H26.10.24	ピアザ淡海 (大津市)	37 名
地域に根ざした鳥獣害対策を考える	H26.10.23	新潟県新潟市万代市民 会館 (新潟市)	32 名
露地野菜の省力生産技術	H26.10.30 ~ H26.10.31	阿波観光ホテル (徳島 市)、板野郡藍住町、 鳴門市	36 名
食品流通問題別研究会	H26.11.13 ~ H26.11.14	岡山国際交流センター (岡山市)	33 名
施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術	H26.12.4 ~ H26.12.5	海峡メッセ下関 (下関 市)、(株)花の海 (山 陽小野田市)	56 名
育種栽培検討会 (水稻品種・系統検討会、栽培研究会、 大豆品種・系統検討会)	H27.3.2 ~ H27.3.3	近畿中国四国農業研究 センター (福山市)	62 名
高度管理手法による作物病虫害制御技術	H27.3.3 ~ H27.3.5	福山市生涯学習プラザ (福山市)	105 名
肉用牛繁殖経営における繁殖成績と飼料生産	H27.3.6	福山市生涯学習プラザ (福山市)	31 名

Ⅷ 主な会議等

3. 地域研究・普及連絡会議

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
平成 26 年度中国四国地域研究・普及連絡会議	H26.9.25	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	31 名
平成 26 年度近畿地域研究・普及連絡会議	H26.10.27	ホテルルビノ京都堀川（京都市）	30 名

4. 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業推進会議等

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）25073C『画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証』研究推進会議（中間評価対応）および平成 26 年度現地検討会	H26.9.29～ H26.9.30	近畿中国四国農業研究センター大田研究拠点 島根県立男女共同参画センター「あすてらす」（大田市）	推進会議： 22 名 現地検討会： 81 名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）25073C『画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証』平成 26 年度研究推進会議	H27.1.23	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	38 名

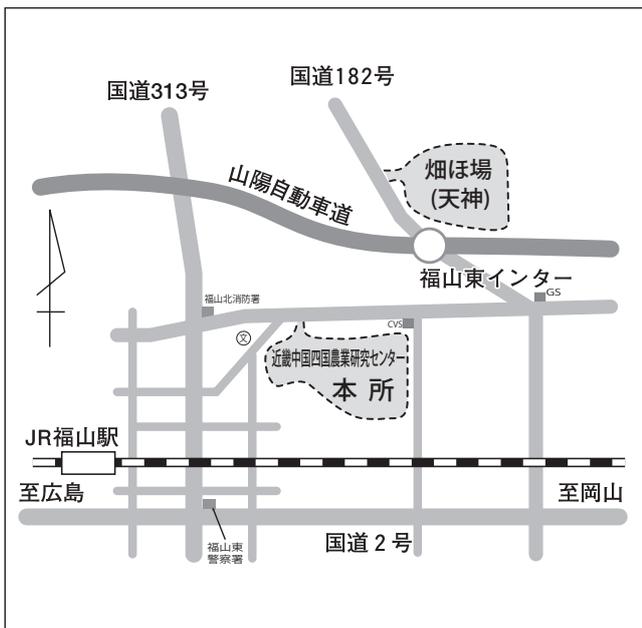
5. 革新的技術緊急展開事業関係会議等

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための園地整備技術の実証」キックオフ会議	H26.5.13～ H26.5.14	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	53 名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証」試験設計会議	H26.5.15	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	50 名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証」現地見学会および中間検討会	H26.8.27～ H26.8.28	（農）ファーム・おだ 広島県立総合技術研究所農業技術センター（東広島市）	109 名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための園地整備技術の実証」平成 26 年度中間研究推進会議およびカンキツ革新技術フォーラム	H26.8.29～ H26.8.30	かんぼの宿熊野、みどりや他（三重県熊野市）	130 名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための園地整備技術の実証」平成 26 年度研究推進会議	H26.12.15～ H26.12.16	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	58 名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証」成績検討会議	H27.2.2	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	62 名
農林水産業におけるロボット技術開発実証事業（研究開発）「中山間の急傾斜法面に対応した小型除草ロボット開発」平成 26 年度設計会議	H27.3.16	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	15 名
農林水産業の革新的技術緊急展開事業「国産飼料の高度活用による資源循環型、牛肉生産システムの実証研究」平成 26 年度設計会議	H27.3.17～ H27.3.18	島根県大田集合庁舎（大田市）	16 名

6. その他会議

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
デュラム小麦研究セミナー	H26.4.21	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	25名
第6回グルテン研究会	H26.5.10～ H26.5.11	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	84名
平成26年度農研機構近畿中国四国農業研究センターミニシンポジウムおよび現地検討会「飛ばない天敵による害虫防除：施設から露地への新展開」	H26.6.25～ H26.6.26	奈良県社会福祉総合センター（橿原市）	75名
「小型ロボットによる畦畔除草等自動化技術の開発」成果発表セミナー「除草ロボットで草刈りを楽に、安全に」	H26.8.22	島根県中山間地域研究センター（飯南町）	97名
平成26年度広報・連携重点的促進技術交流セミナー「布団資材の性能評価手法・規格の確立に向けた技術的課題」	H26.10.21～ H26.10.22	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	29名
平成26年度農研機構セミナー農作業安全セミナー西日本版ー安全かつ快適な農作業実現のためにー	H26.12.3	福山市ものづくり交流館（福山市）	60名
平成26年度農研機構近畿中国四国農業研究センター現地検討会 飛ばないナミテントウ製剤「テントップ」&バンカー植物「スカエボラ」～普及に向けての課題と対策～	H26.12.9～ H26.12.10	JA 土佐あき芸西支所（高知県芸西村）	51名
第2回「高β-グルカン大麦利用連絡会」オフラインミーティング	H26.12.13	AP 浜松町会議室 E・F（東京都港区）	83名
平成26年度 広報・連携促進費(B) 技術交流セミナー「防風ネットによる温室暖房省エネ実証のための協力機関の開拓」	H27.3.24～ H27.3.25	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	5名

IX 所在地



【本所】(福山市)

〒 721-8514

広島県福山市西深津町 6-12-1

T E L 084-923-4100 (代)

F A X 084-924-7893

最寄駅 JR 山陽本線、JR 山陽新幹線、
JR 福塩線「福山駅」

【四国研究センター】(善通寺市)

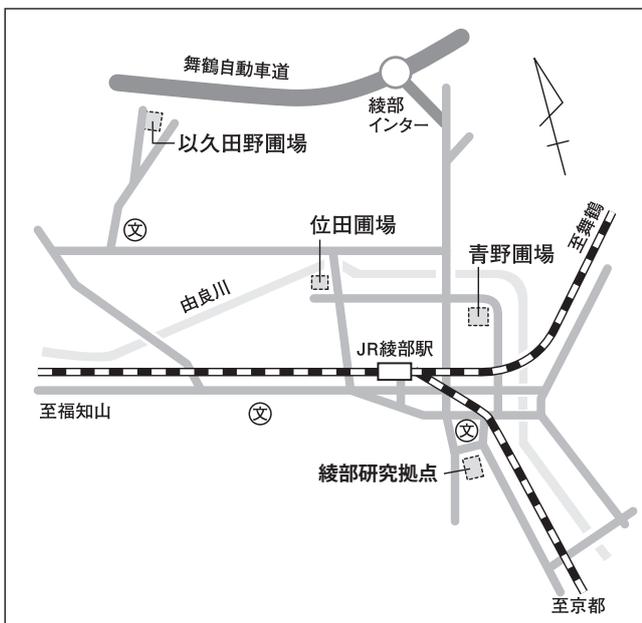
〒 765-8508

香川県善通寺市仙遊町 1-3-1

T E L 0877-62-0800 (代)

F A X 0877-63-1683

最寄駅 JR 土讃線「善通寺駅」



【綾部研究拠点】(綾部市)

〒 623-0035

京都府綾部市上野町上野 200

T E L 0773-42-0109 (代)

F A X 0773-42-7161

最寄駅 JR 山陰本線「綾部駅」



【大田研究拠点】(大田市)

〒 694-0013

島根県大田市川合町吉永 60

T E L 0854-82-0144 (代)

F A X 0854-82-2280

最寄駅 JR 山陰本線「大田市駅」